

(平成 26 年 6 月実施)

第 4 1 回

市民アンケート調査報告書

—— あなたと市政を結ぶ ——



目 次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査事項	1
3	調査実施概要	1
4	回収状況	1
5	報告書内のデータ記述について	1
6	回答者の属性	2

II 調査結果

1	あなたご存じですか？	5
2	市民の地震への備えについて	20
3	家庭ごみの出し方の市民意識や排出状況について	31
4	歯と口の健康について	38
5	日常の交通手段について	44
6	浜松市のスポーツ推進について	49
7	新エネルギーの導入について	53
8	地域情報化について	57
9	子育て支援について	60
10	新しい総合計画の策定に向けた現状把握について	70
11	市の取り組みの満足度評価について	72

付録 調査票

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、昭和45年度から始まり、48年、50年度と行った後、52年度以降は毎年実施し、本年度で41回目になる。社会情勢の変化に伴う市民の生活意識や市政に対する関心やニーズなどを把握するため、毎年各部署から提出された希望調査項目を精査した後、調査項目を決定し、属性などにより集計した調査結果を詳細に分析し、今後の施策の方向性や事業展開など行政のさまざまな施策の基礎資料として活用しているものである。

2 調査事項

- あなたはご存じですか？
- 市民の地震への備えについて
- 家庭ごみの出し方の市民意識や排出状況について
- 歯と口の健康について
- 日常の交通手段について
- 浜松市のスポーツ推進について
- 新エネルギーの導入について
- 地域情報化について
- 子育て支援について
- 新しい総合計画の策定に向けた現状把握について
- 市の取り組みの満足度評価について

3 調査実施概要

- (1) 調査地域 浜松市全域
- (2) 調査対象 満20歳以上の男女3,000人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (4) 調査方法 質問紙郵送法
- (5) 調査期間 平成26年6月14日～30日
- (6) 調査機関 特定非営利活動法人 静岡県西部地域しんきん経済研究所

4 回収状況

発送数	有効回収数	有効回収率
3,000件	1,546件	51.5%

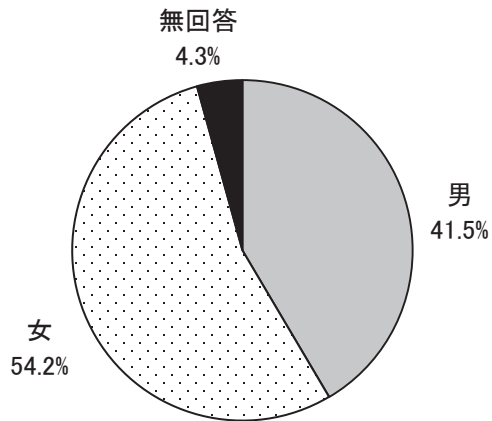
5 報告書内のデータ記述について

- (1) 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 基数とすべき実数は、図表中に「N」として記載した。比率はこの基数を100%として算出している。
- (3) 質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常100%を超える。
- (4) 図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。

6 回答者の属性

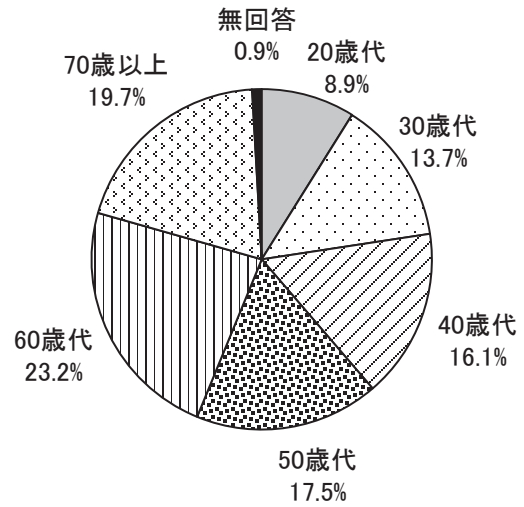
(1) 性別

N=1,546



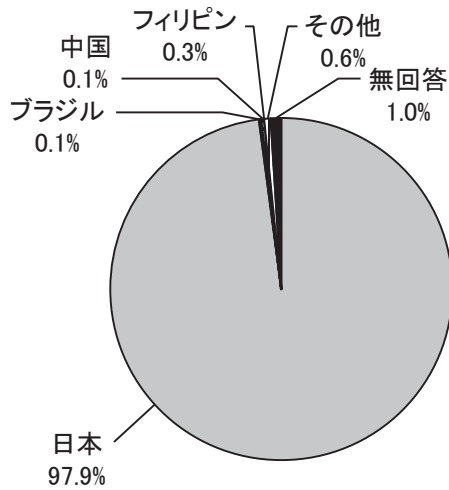
(2) 年代

N=1,546



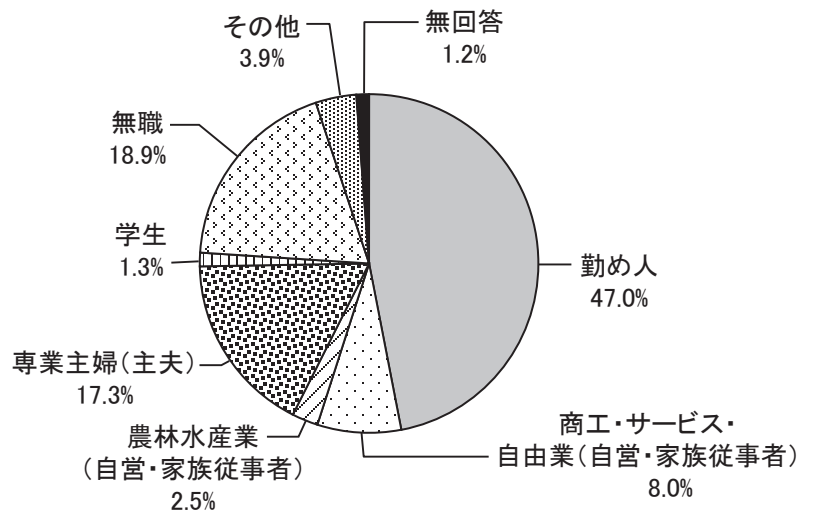
(3) 国籍

N=1,546



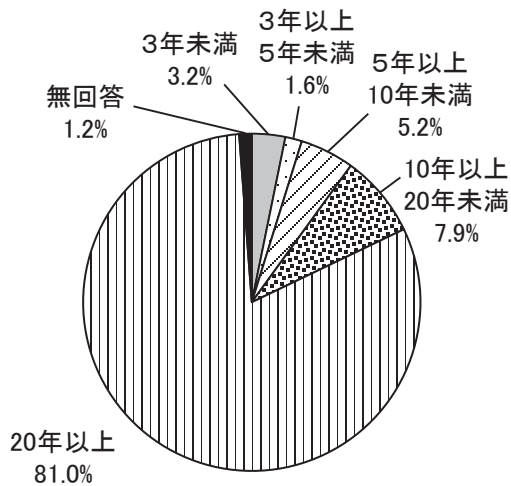
(4) 職業

N=1,546



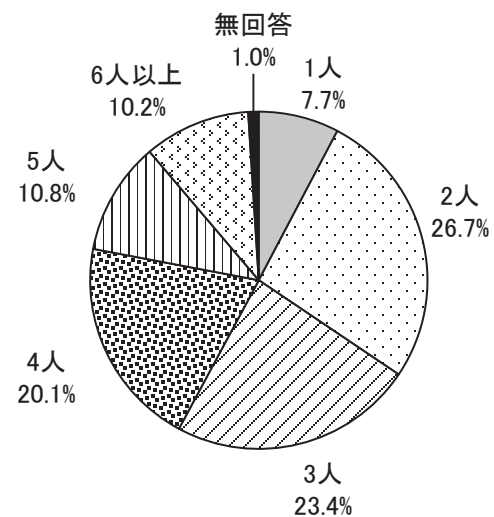
(5) 居住年数

N=1,546



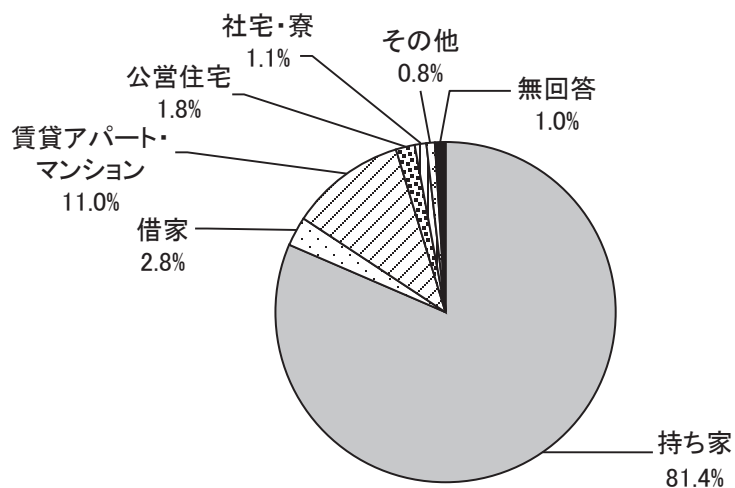
(6) 家族数

N=1,546



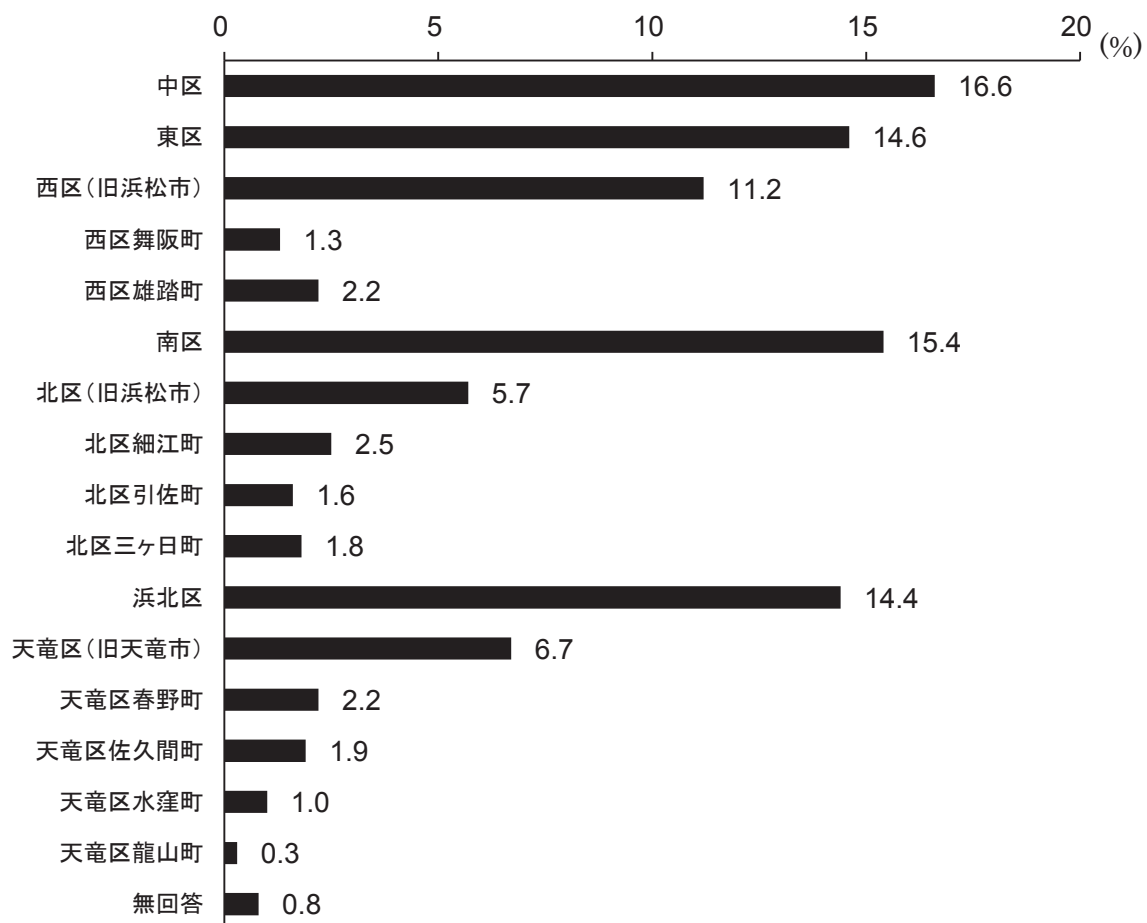
(7) 居住形態

N=1,546

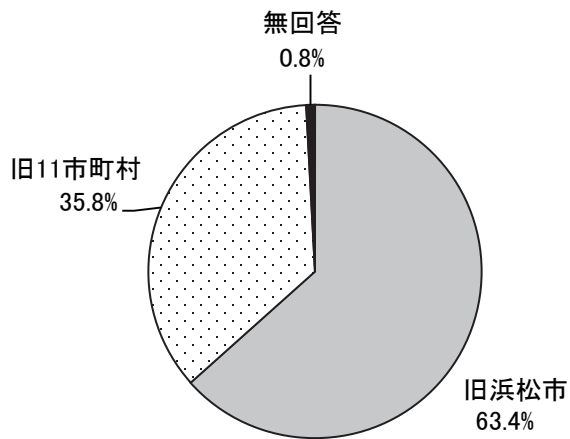


(8) 居住地区

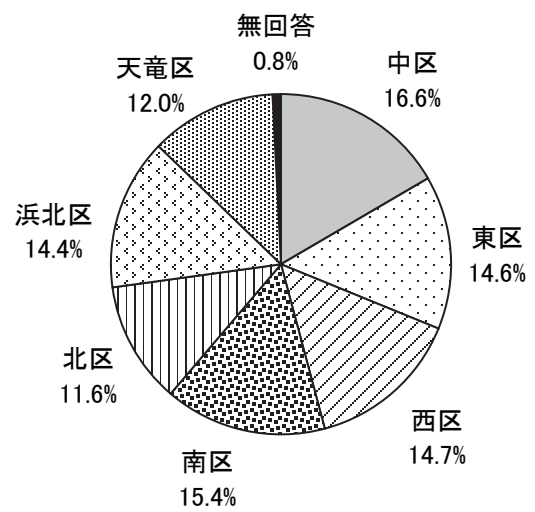
N=1,546



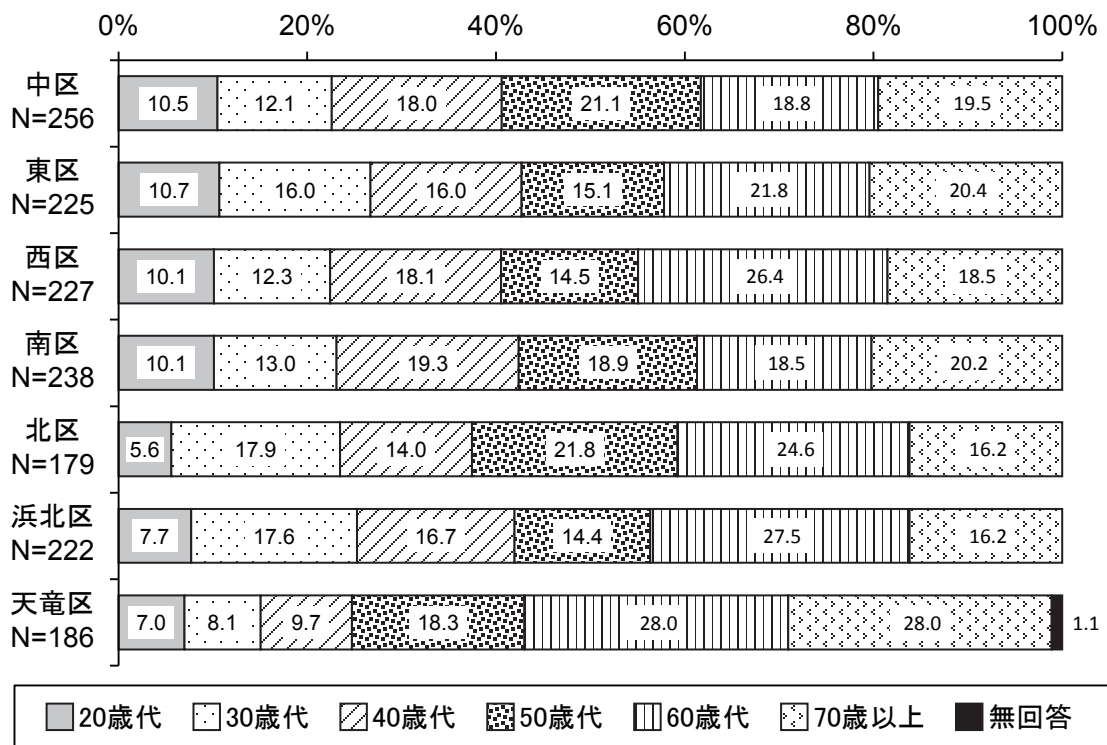
(9) 旧浜松市と旧11市町村 N=1,546



(10) 行政区 N=1,546



(11) 年代別行政区 N=1,546



II 調査結果

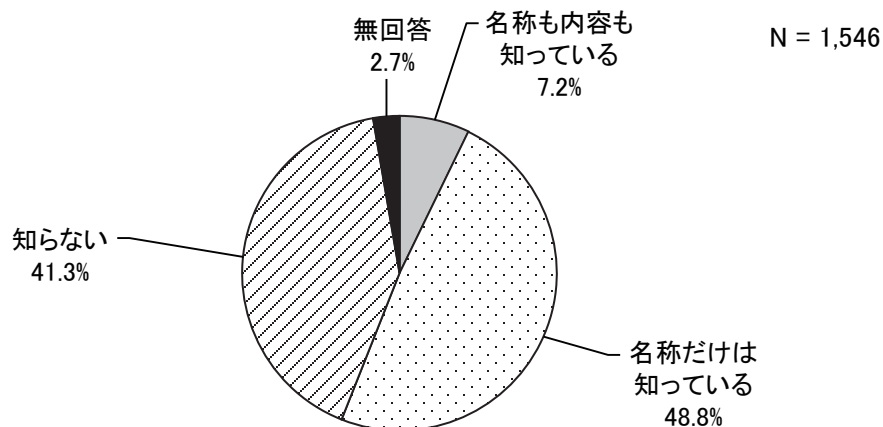
1 あなたはご存じですか？

(1) 市の条例や施策などの認知度

問1 次の項目について、あなたはご存じですか
1つ選んで○を付けてください。

① 浜松市民憲章

※未来に向けて市民の皆様が生活する上で目標や規範となり、また、共有することで浜松市民としての一体感を築くことを目的とした憲章。

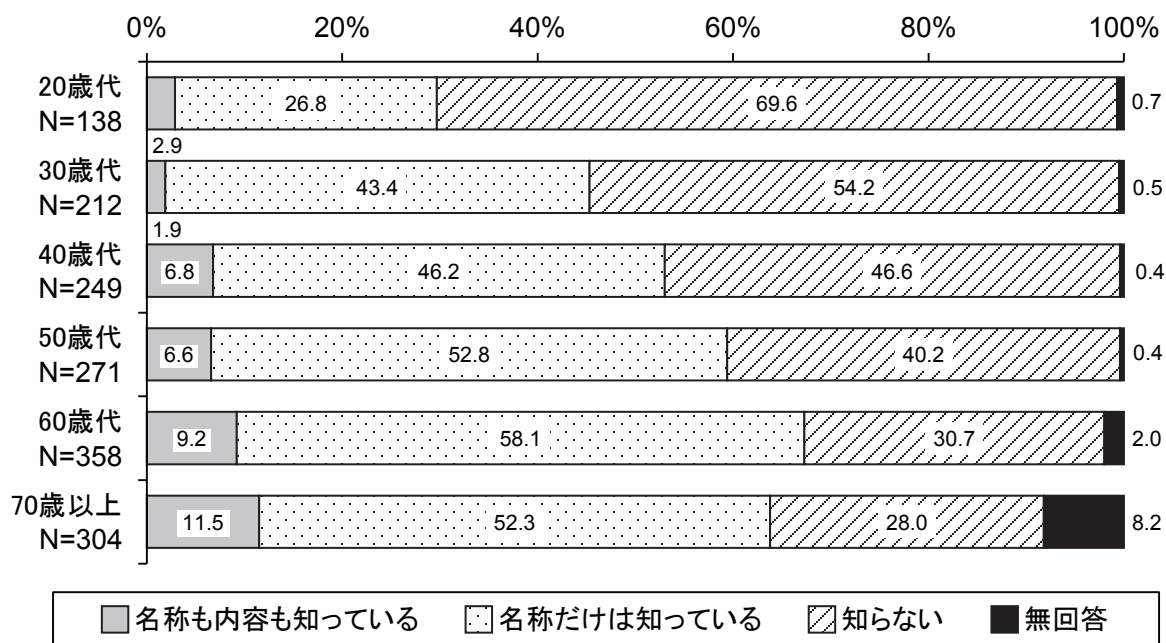


「名称も内容も知っている」(7.2%)と「名称だけは知っている」(48.8%)を合わせた『認知度』は56.0%となり、「知らない」の41.3%を14.7ポイント上回った。『認知度』は半数を超えたものの、「名称も内容も知っている」人は1割に満たない。認知度の更なる向上を図るとともに、「名称だけは知っている」人に内容を把握してもらう工夫が必要である。

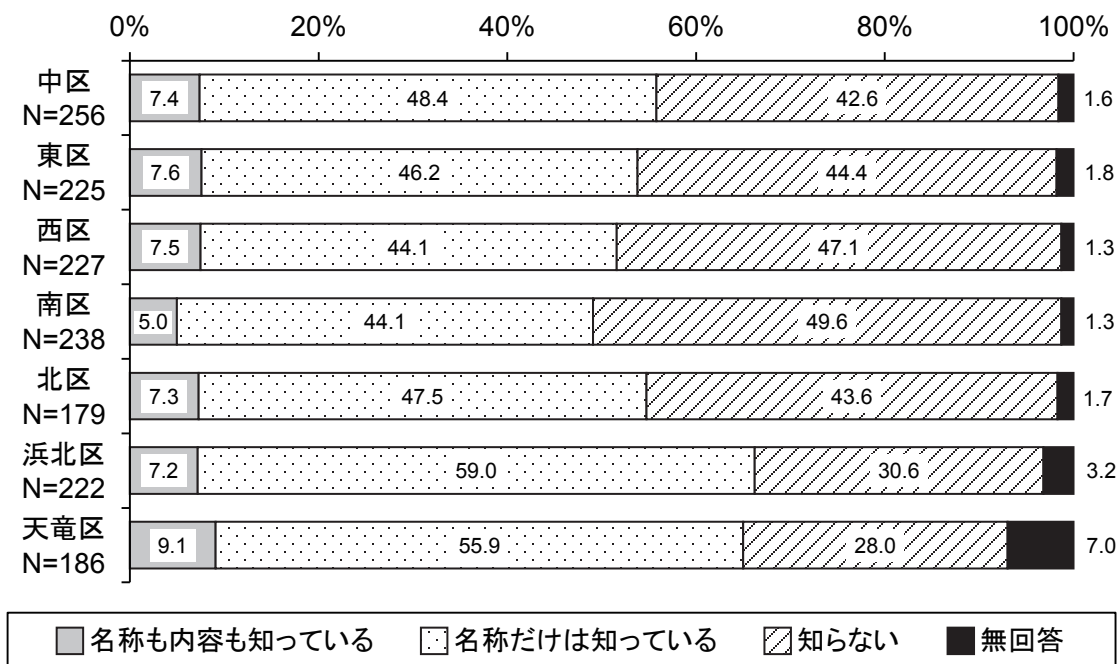
年代別でみると、年代が高くなるほど『認知度』が高い傾向がみられ、20～30歳代の『認知度』は50%を割り込んでいる。現在、小中学校への教本を通じて、児童・生徒を中心に啓発を進めているが、小中学校時に浜松市民憲章がなかった世代である20～30歳代へのアプローチも必要である。

行政区別でみると、『認知度』は浜北区が最も高く、次いで天竜区となり、旧浜松市外で構成されている区の『認知度』が相対的に高かった。

【年代別】

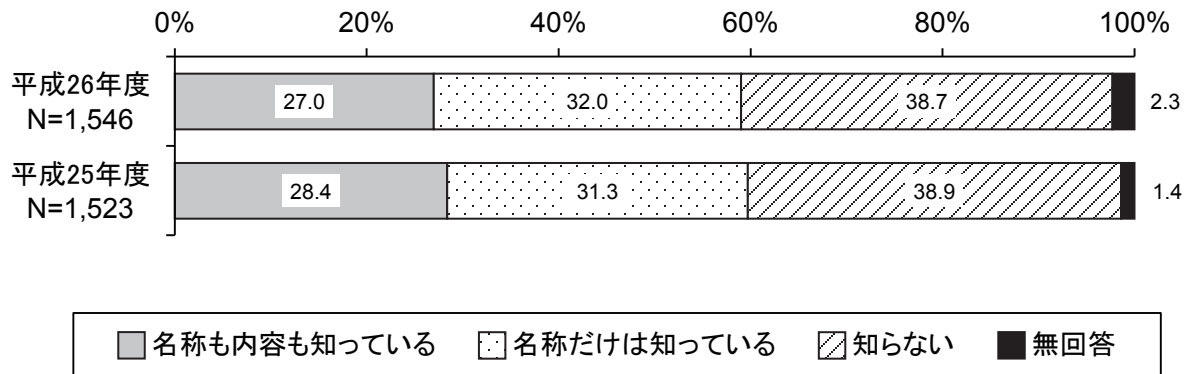


【行政区別】



② 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例(通称:市民マナー条例)

※歩きタバコ・吸い殻や空き缶等のポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。

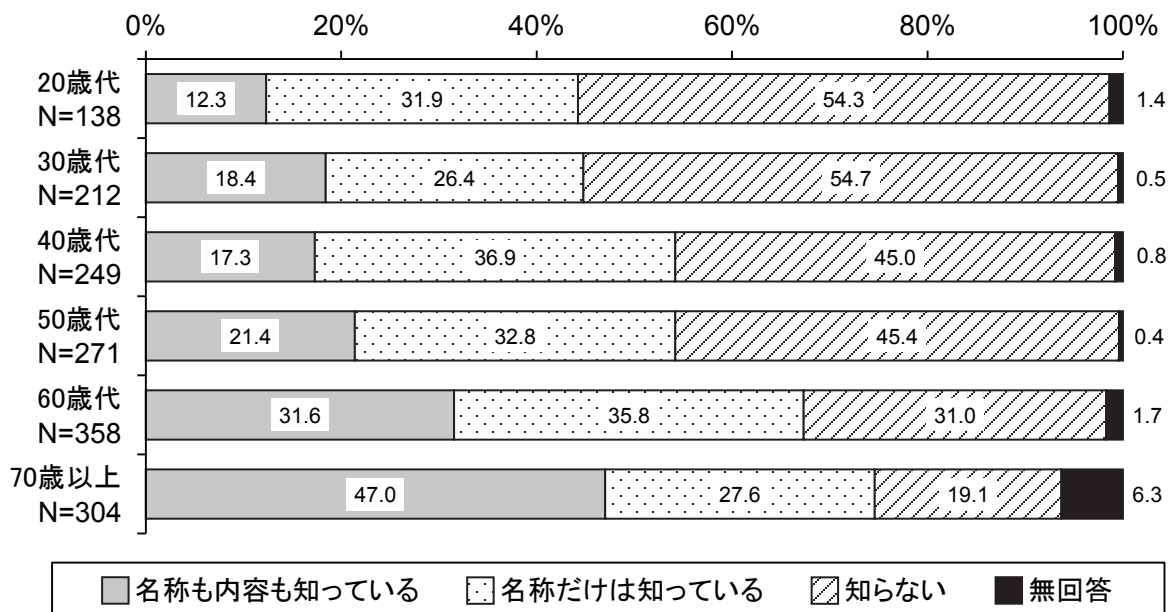


「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は 59.0%と過半数を上回った。平成 25 年度調査の『認知度』は 59.7%であり、ほぼ横ばいとなっている。

年代別でみると、年代が高くなるほど『認知度』が高い傾向がみられ、70 歳以上では 74.6%と最も高かった。一方、20 歳代、30 歳代では「知らない」との回答が過半数を占めており、若い世代の『認知度』が低い。

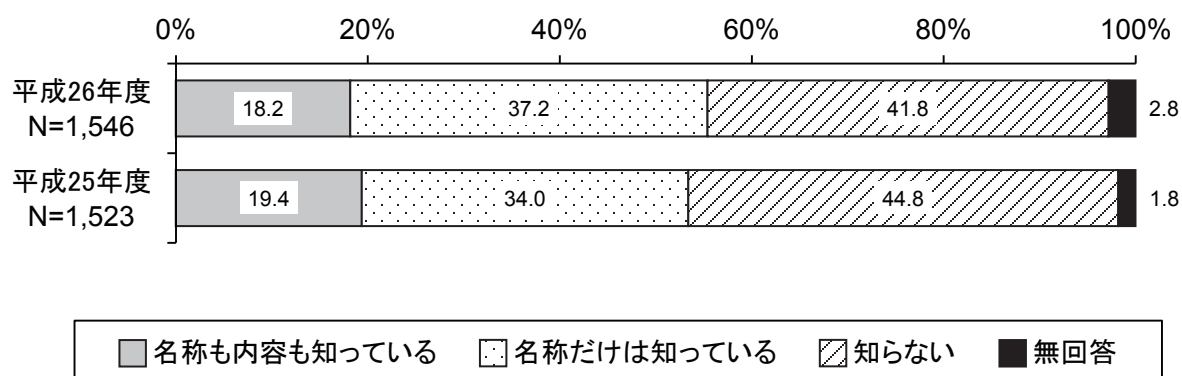
条例の周知啓発については、J R 浜松駅構内や遠州鉄道の主要駅構内及び電車内・バス内へのポスター掲示、浜松駅周辺の路上への路面告知シートの設置、区役所・協働センターでの啓発ポケットティッシュの配布、大型ショッピングセンターでのキャンペーンなどに取り組んでいるところである。今後も、こうした啓発を継続して実施するとともに、若い世代への効果的な啓発方法を検討する必要がある。

【年代別】



③ 浜松市川や湖を守る条例

※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。



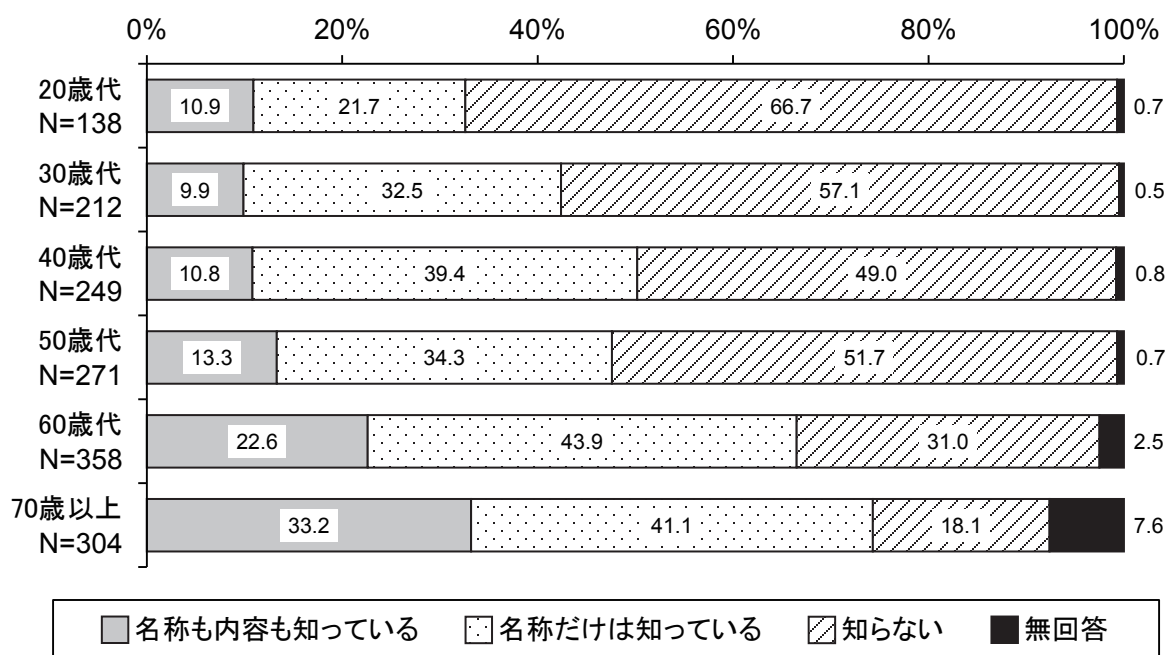
「名称も内容も知っている」と「名称だけは知っている」を合わせた『認知度』は55.4%であり、平成25年度調査の53.4%から2ポイント増加している。

年代別で見ると、年齢が高いほど『認知度』が高い傾向がみられ、70歳以上の『認知度』は70%を超えている一方、20歳代は40%を割りこんでいる。

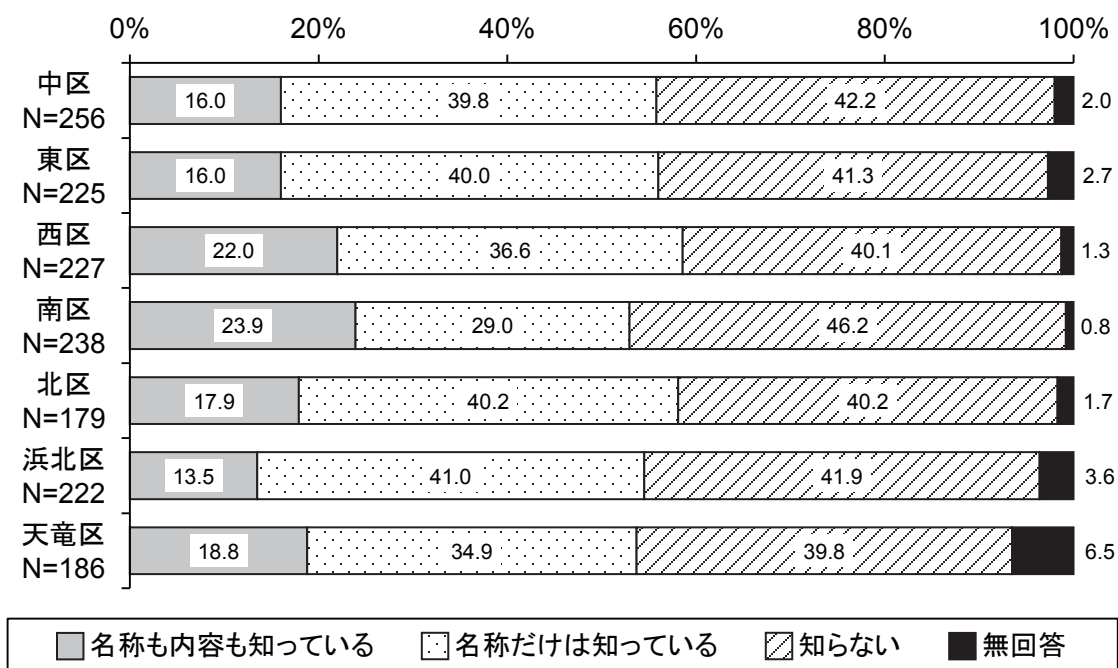
行政区別で見ると、都田川、阿多古川の環境共生区域のある北区、天竜区の『認知度』は、それぞれ、58.1%、53.7%となった。

条例の周知啓発については、環境共生区域へののぼり旗の設置、水辺のレジャー利用者への啓発チラシの配布、レジャー用品を販売するホームセンターやショッピングセンターへのポスターの掲示などに取り組んでいるところであるが、今後も、こうした啓発を継続して実施するとともに、水辺のレジャー利用層である若い世代への効果的な啓発方法を検討する必要がある。

【年代別】

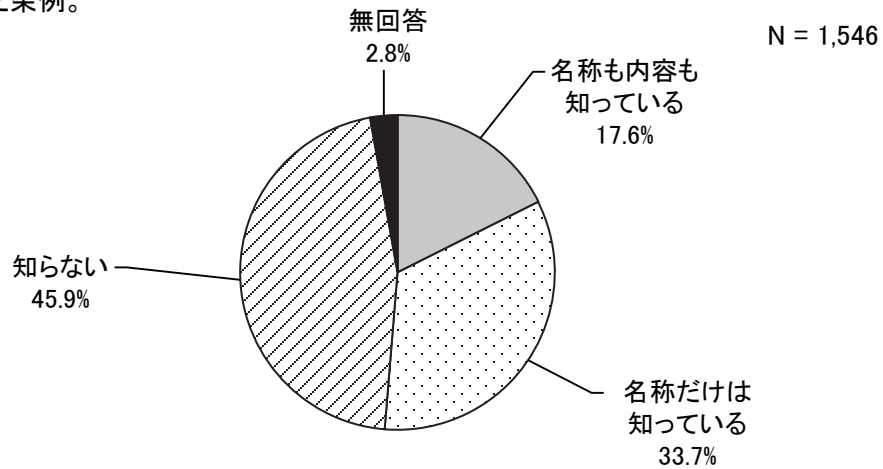


【行政区別】



④ 浜松市男女共同参画推進条例

※すべての人が、性別にかかわらず個人として尊重され、自らの意思により個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現に向けて、男女共同参画を計画的に推進するために定めた条例。

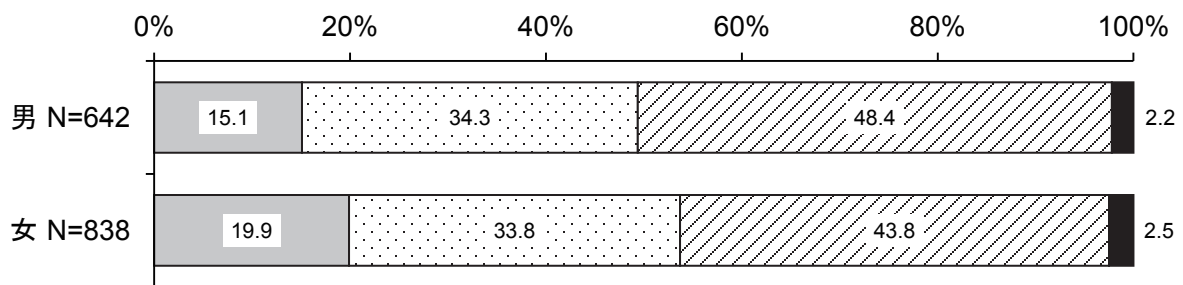


「名称も内容も知っている」の 17.6%や「名称だけは知っている」の 33.7%を合わせた『認知度』は、51.3%となり、「知らない」の 45.9%を 5.4 ポイント上回った。

性別でみると、『認知度』は女性の方が 4.3 ポイント高く、男性の『認知度』は 50%を下回った。

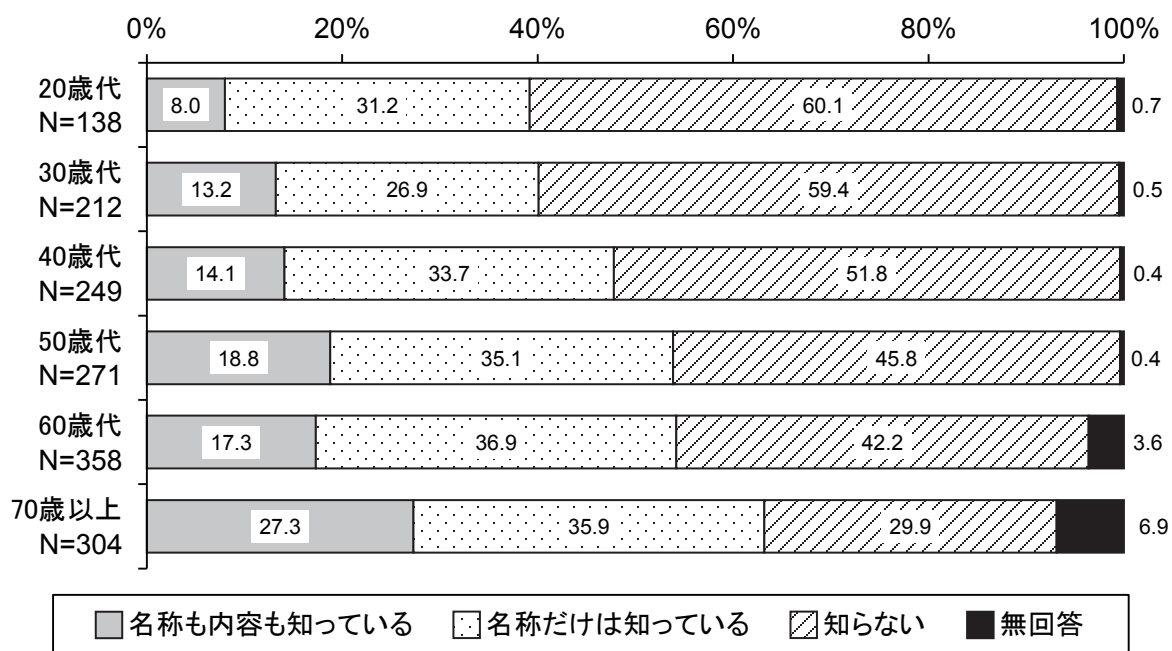
年代別でみると、年齢が高くなるほど『認知度』が高い傾向がみられる。40 歳代以下の認知度は 50% 未満で、特に 20 歳代では 39.2% にとどまっている。これらのことから各年代に応じた男女共同参画推進事業を行うなかで、条例の内容も理解してもらう工夫が一層必要である。

【性別】



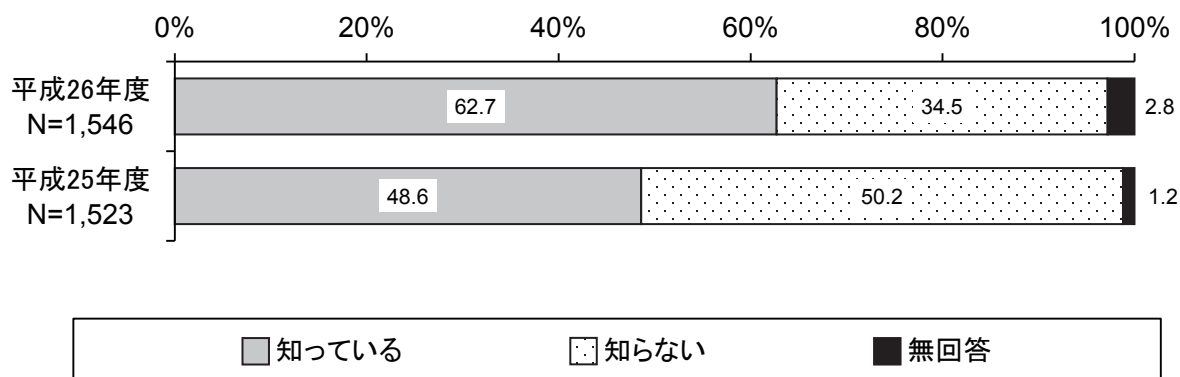
■ 名称も内容も知っている □ 名称だけは知っている ▨ 知らない ■ 無回答

【年代別】



⑤ 協働センター

※平成25年4月から、公民館が、併設されている市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。

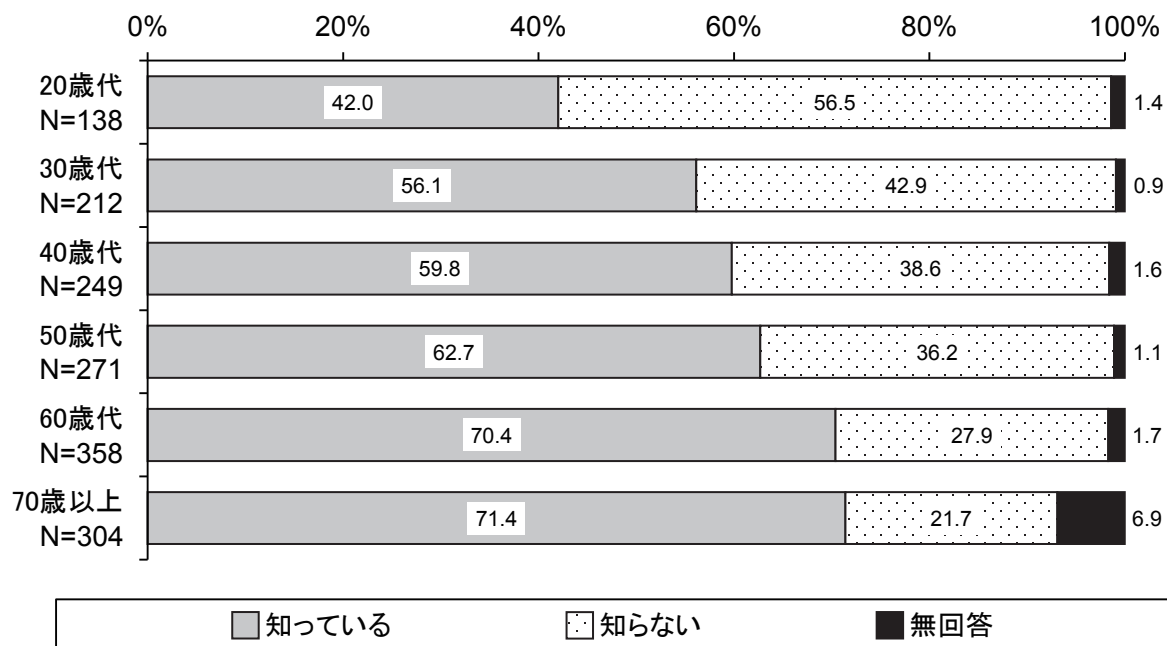


平成 25 年度調査では「知っている」が 48.6%と 50%を割りこんでいたが、今年度調査では 14.1 ポイント上昇し、62.7%となった。協働センターへの再編から 1 年を経て、『認知度』が徐々に上昇している。今後も引き続き、地域づくりの拠点機能の追加など名称変更の意義や、貸し館利用条件が拡大されたことなど広く周知していく必要がある。

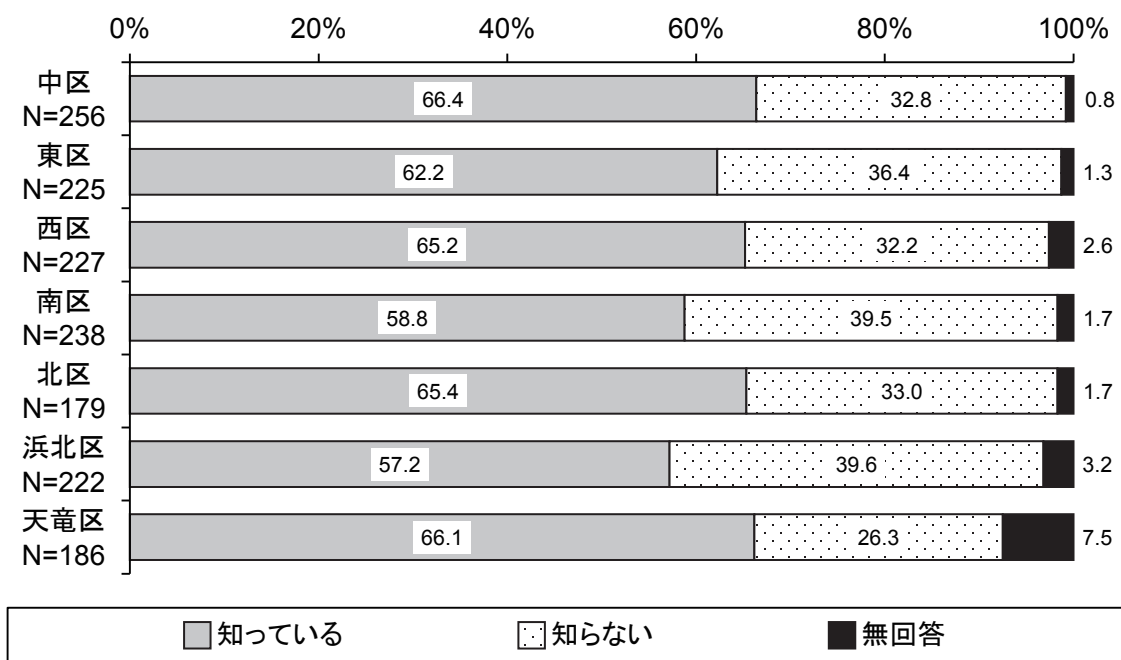
年代別でみると、年齢が高くなるほど「知っている」の回答割合も高くなっている。20 歳代の『認知度』は平成 25 年度調査の 20.9%から上昇しているとはいえ、依然 50%を割りこんでいる。

行政区別でみると、平成 25 年度調査で 41.4%と最も認知度が低かった中区が、今年度調査では最も認知度が高かった。

【年代別】

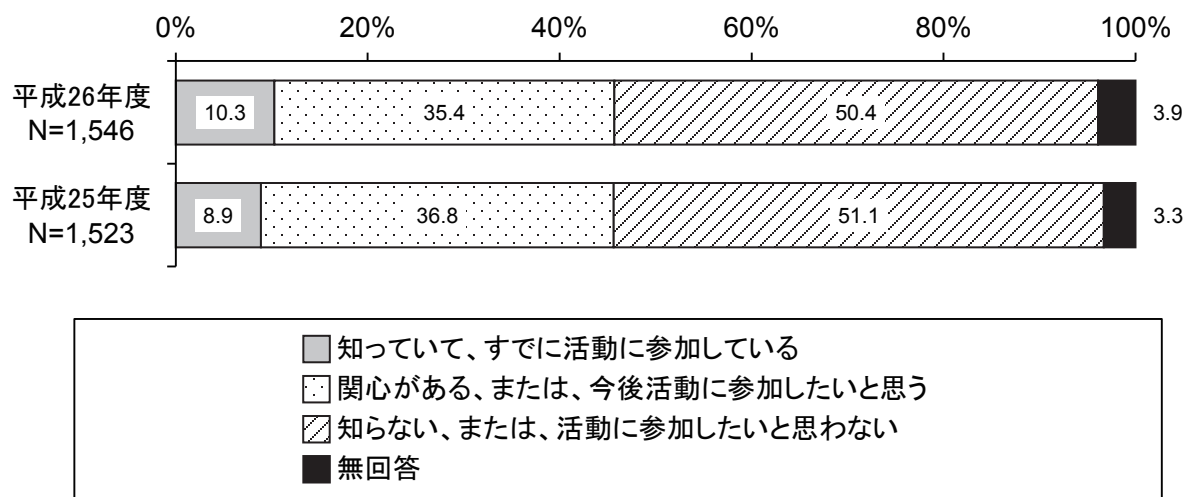


【行政区別】



⑥ 地区社会福祉協議会

※連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員、ボランティア等で構成し、身近な地域における福祉活動を推進しています。



「知っている、すでに活動に参加している」が 10.3%、「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」が 35.4%であった。「知っている、すでに活動に参加している」と「関心がある、または、今後活動に参加したいと思う」を合わせた『関心度』は 45.7%となり、平成 25 年度調査（45.7%）と変化がなかった。

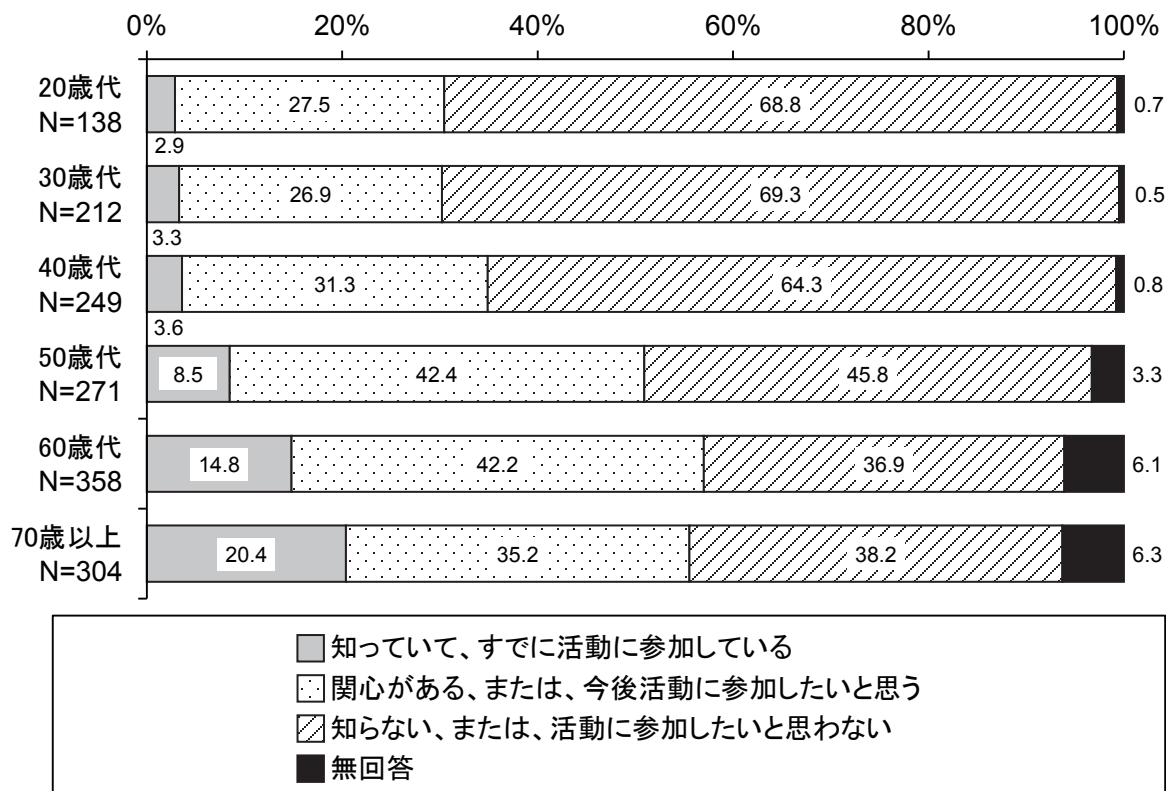
年代別でみると、60 歳代の『関心度』が 57.0%と最も高い。20～30 歳代の『関心度』は約 30%と低くなっているが、20 歳代が 25.6%、30 歳代が 24.4%だった平成 25 年度調査と比較すると『関心度』は約 5 ポイント高くなっている。

地区社会福祉協議会の活動を充実させることは、今後の地域福祉の推進の大きな柱であることから、若い世代も含め広く地域の住民へ周知することが重要である。

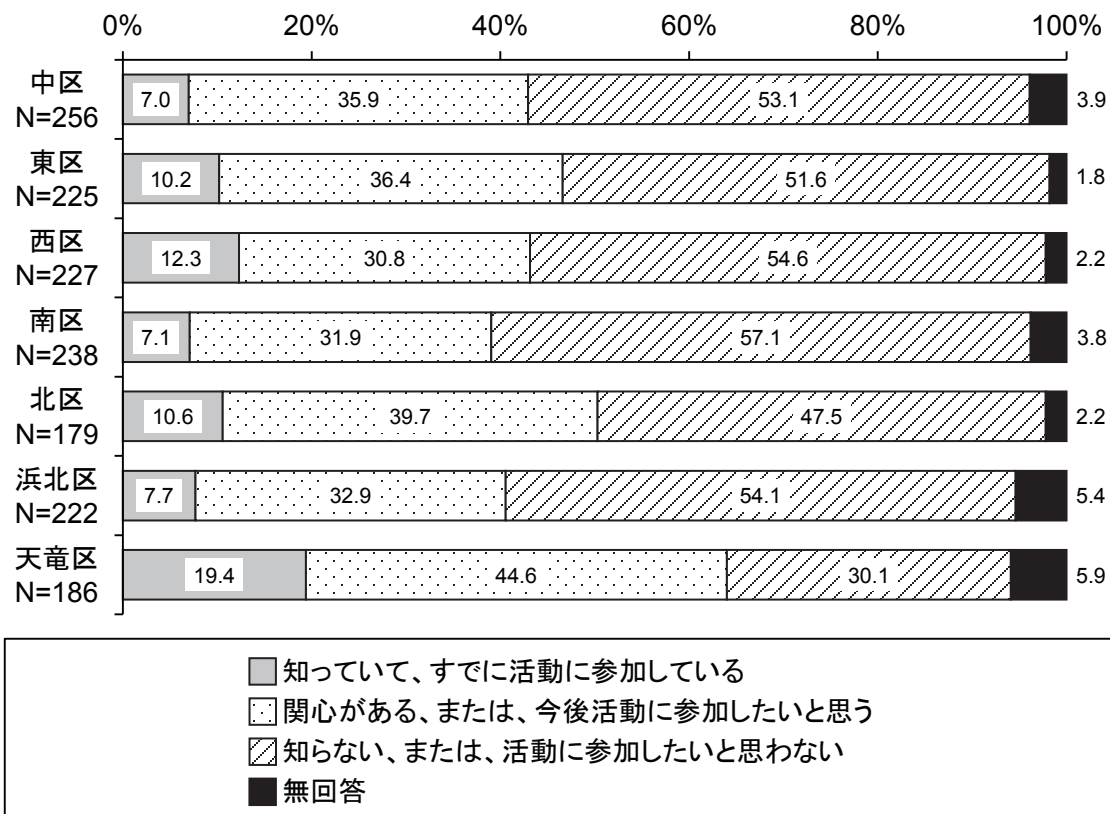
行政区別でみると、天竜区の『関心度』が 64.0%と最も高かった。

第 3 次地域福祉計画においても地域福祉活動の担い手づくりが課題となっており、地区社会福祉協議会に関心を持つ層を実際の活動へ繋げる工夫が求められる。

【年代別】

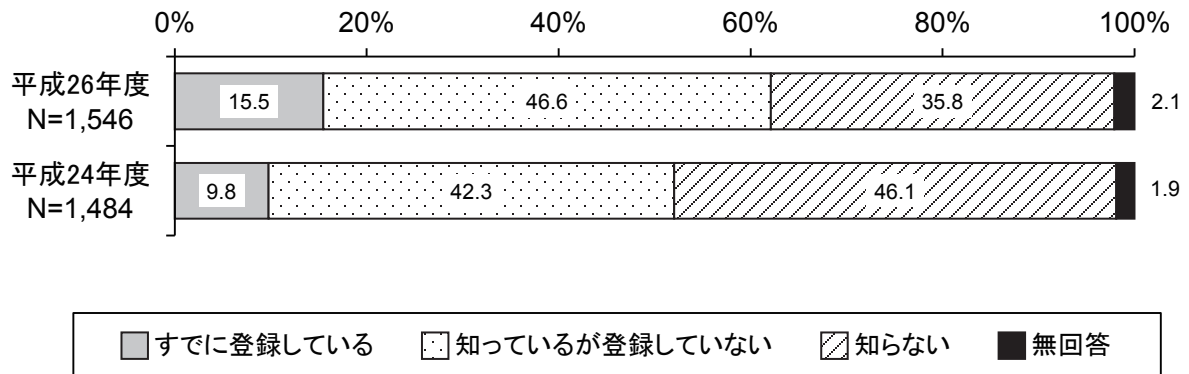


【行政区別】



⑦ 防災ホットメール

※災害発生時の緊急情報、地震情報、気象情報、火災情報などを携帯電話などに電子メールで配信しています。



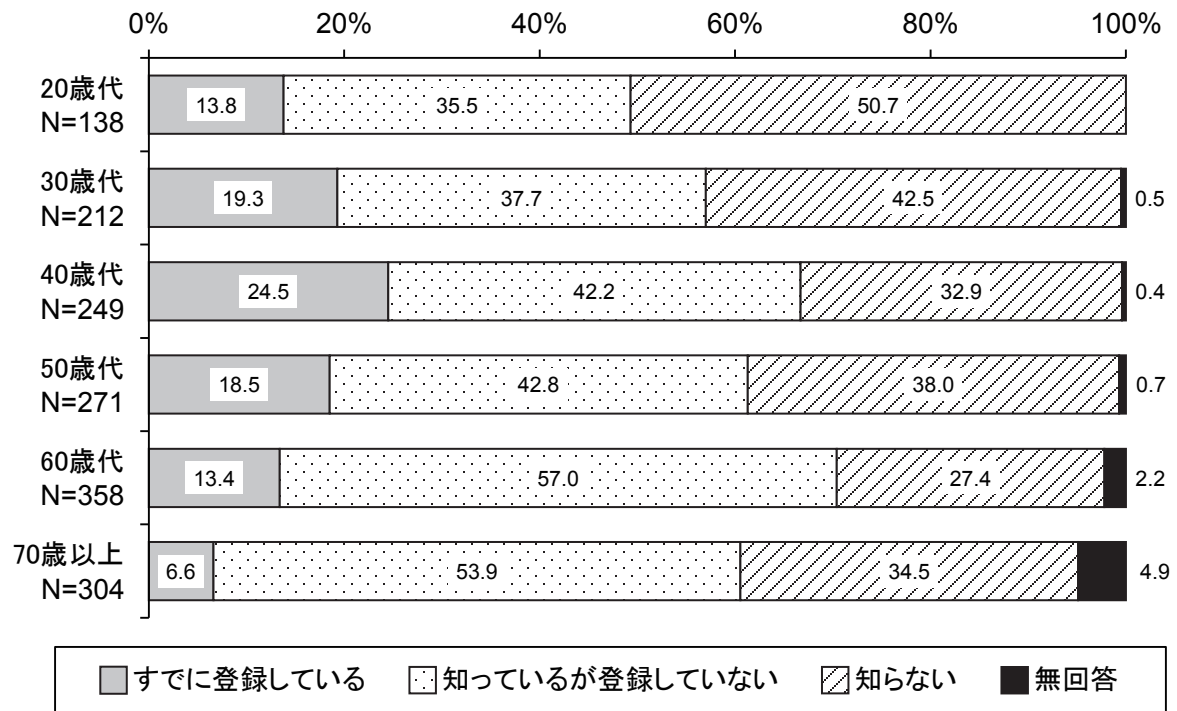
「すでに登録している」と「知っているが登録していない」を合わせた『認知度』は 62.1%あったが、「すでに登録している」に限ってみると 15.5%にとどまった。平成 24 年度調査と比較すると、『認知度』は 10.0 ポイント、「すでに登録している」は 5.7 ポイント上昇した。

年代別で見ると、『認知度』は 60 歳代が 70.4%で最も高く、次いで 40 歳代、50 歳代の順に高く、最も低かったのは 20 歳代の 49.3%となった。

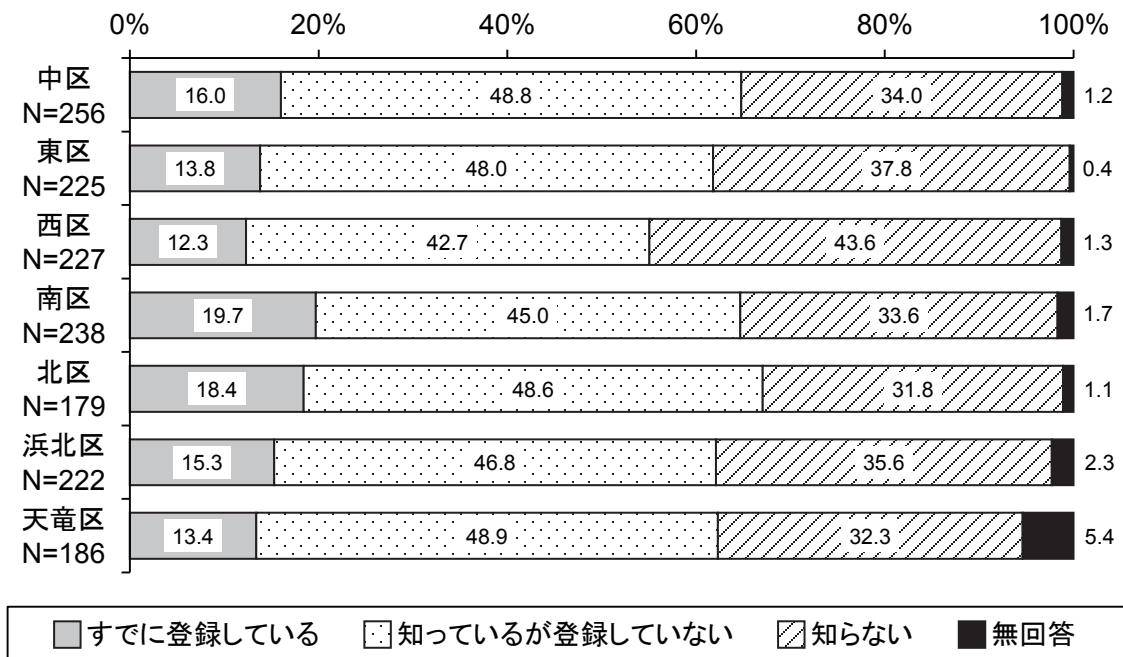
「すでに登録している」に限ってみると、40 歳代が 24.5%で最も高く、次いで 30 歳代、50 歳代の順となった。最も低かったのは、70 歳以上の 6.6%である。『認知度』が最も高かった 60 歳代も 13.4%にとどまっており、高齢者の普及を促す広報が必要である。

行政区別で見ると、『認知度』は北区が最も高く、「すでに登録している」は南区が最も高かった。

【年代別】

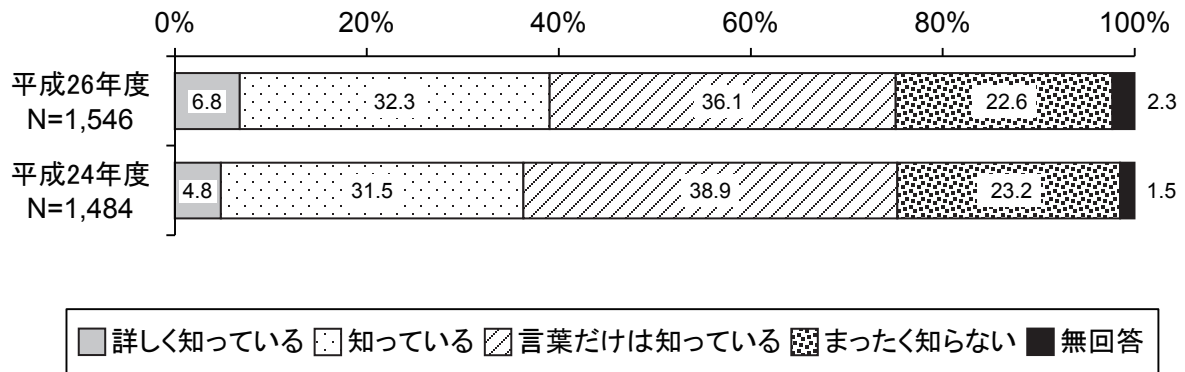


【行政区別】



⑧ ユニバーサルデザイン

※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「環境づくり」を行っていかこうとする考え方です。

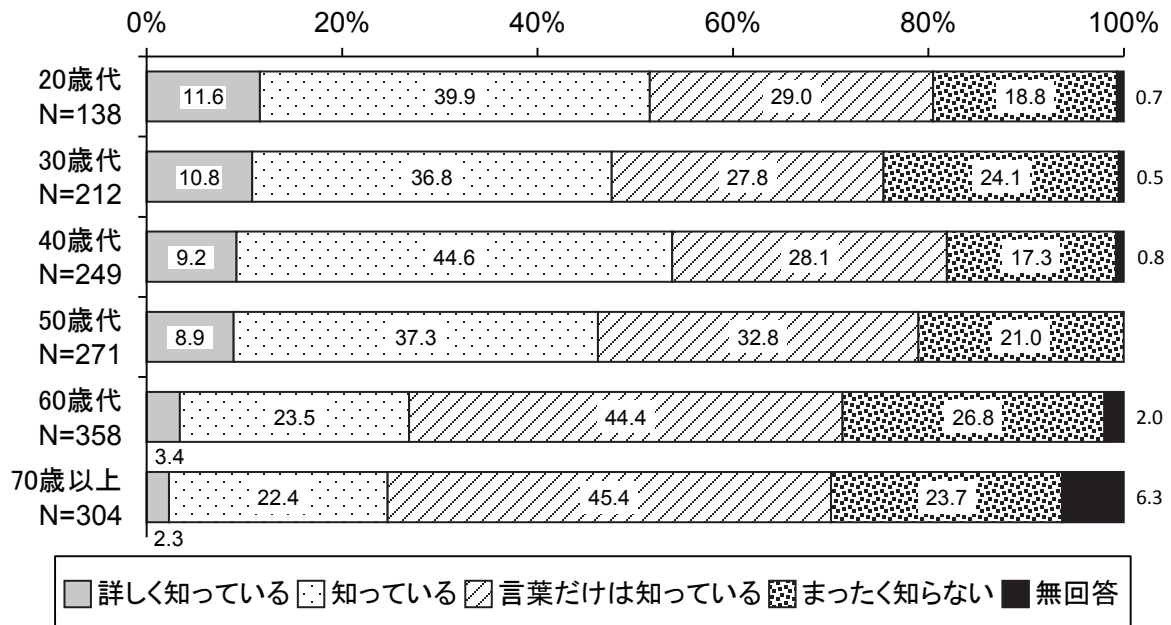


「詳しく知っている」、「知っている」、「言葉だけは知っている」を合わせた『認知度』は、平成24年度調査と同じ75.2%であったが、「詳しく知っている」、「知っている」を合わせた『理解度』は、2.8ポイント増加の39.1%となった。ユニバーサルデザイン（UD）の定着・実践に向けた事業の成果が少しずつ表れてきていると思われる。

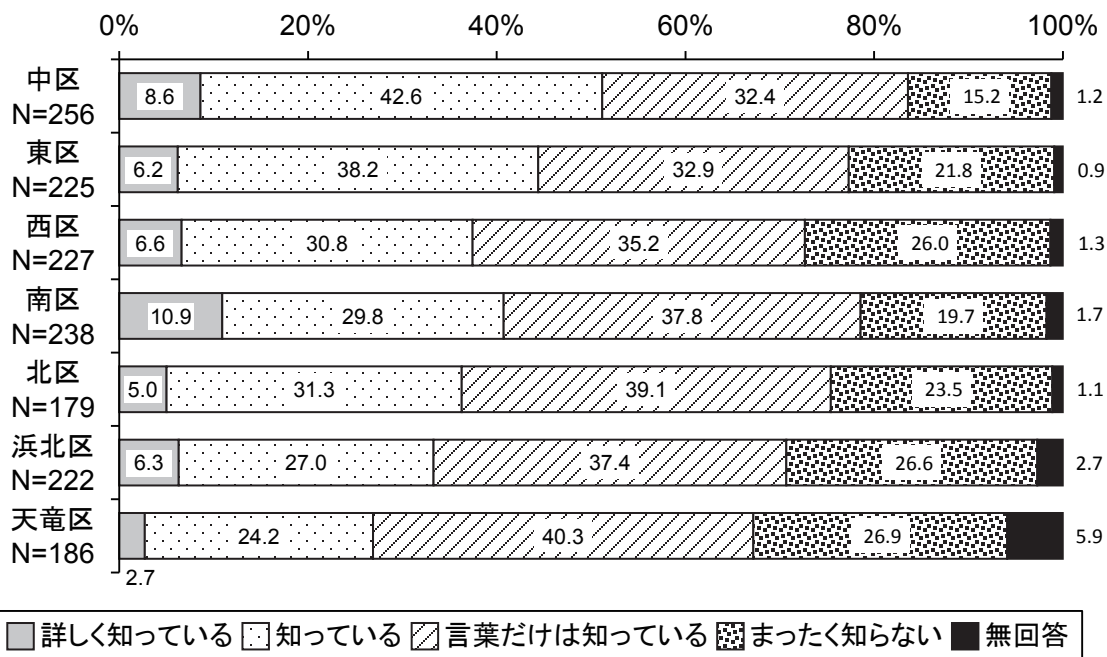
年代別でみると、20歳代と40歳代の『理解度』が高い。20歳代は、小中学校で推進しているUD学習の効果であると推測される。

行政区別でみると、『理解度』は中区が一番高く、次いで東区であった。市内全域で普及・啓発を進めていく必要がある。

【年代別】



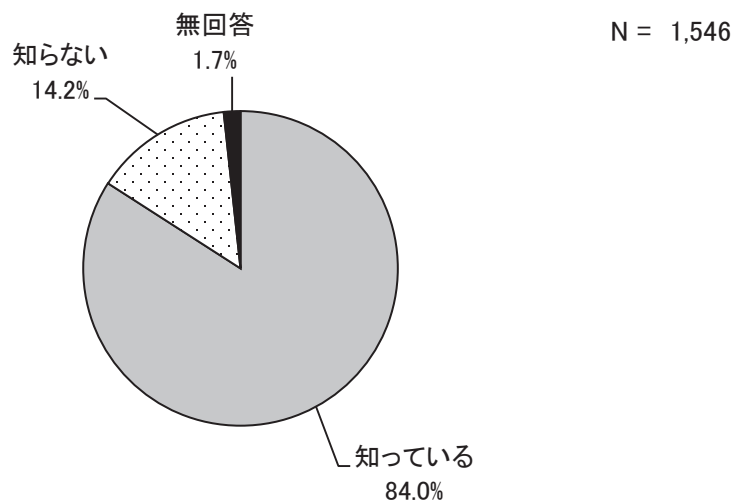
【行政区別】



2 市民の地震への備えについて

(1) 防潮堤整備事業について

問2 あなたは、津波対策として沿岸域で整備が進められている防潮堤整備事業をご存じですか。(1つだけ○を付けてください)

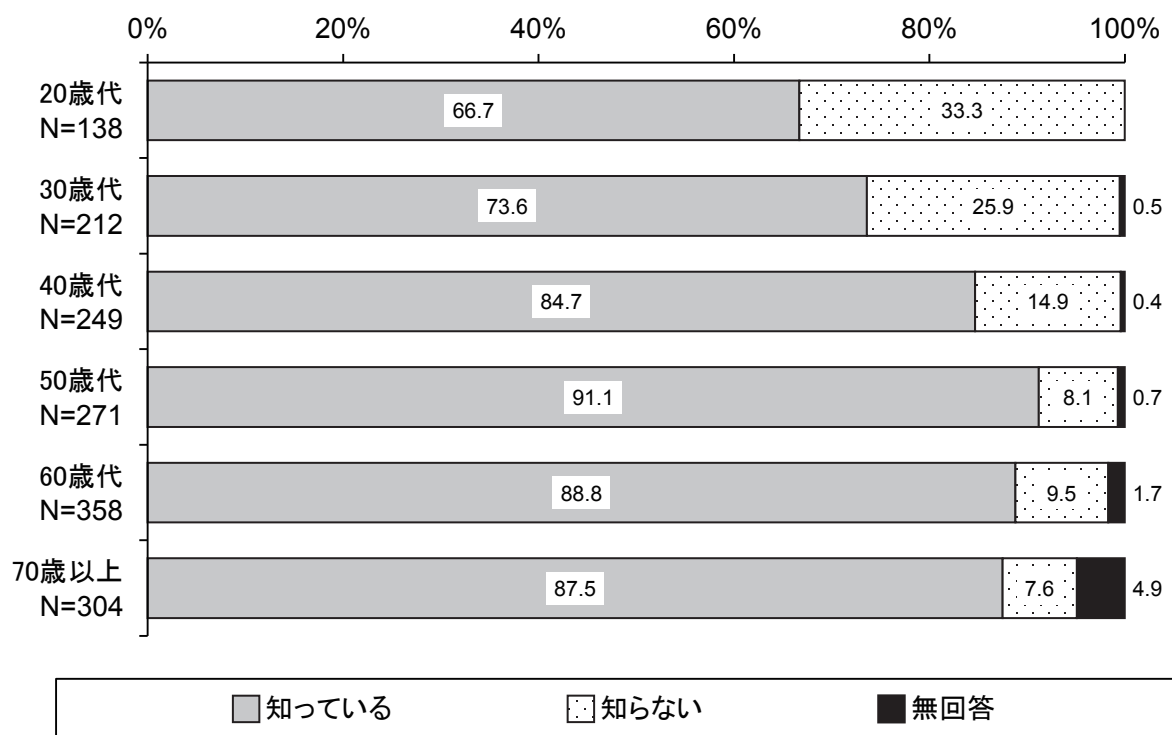


「知っている」が 84.0%と、「知らない」の 14.2%を大幅に上回り、これまでの広報活動の成果があったといえる。

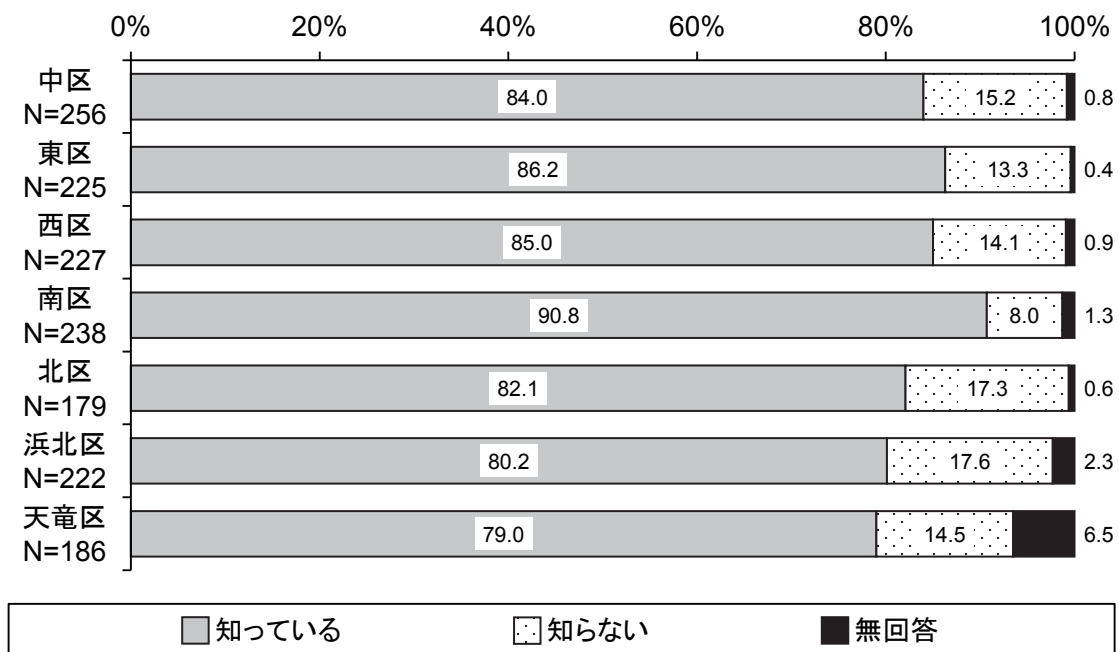
年代別でみると、「知っている」の回答割合は 50 歳代が 91.1%で最も高く、50 歳代を山として低下している。特に若い世代は「知っている」の回答割合が相対的に低く、20 歳代は 66.7%と全体よりも 17.3 ポイント低くなっている。

行政区別でみると、「知っている」の回答割合は、海に面している南区が 90.8%で最も高かった。同じく海に面している西区の回答割合は 85.0%だった。土砂採取を行っている天竜区は、「知っている」の回答割合が最も低かった。

【年代別】

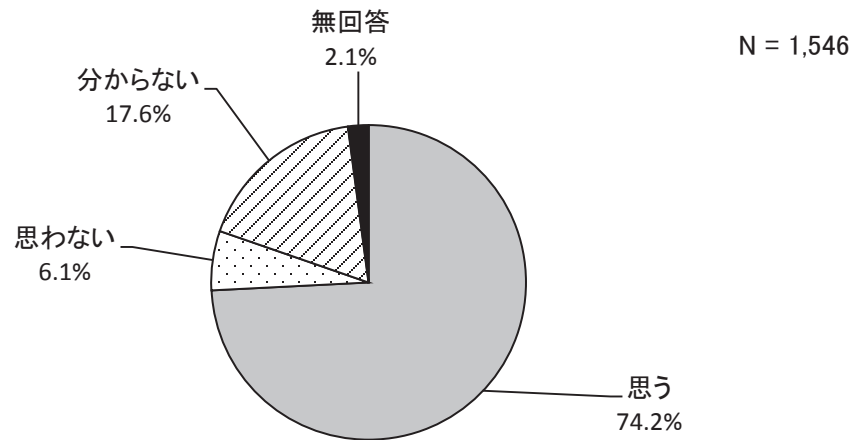


【行政区別】



(2) 防潮堤整備事業は全市で取り組むべき事業であると思いますか？

問3 あなたは、津波対策として沿岸域で整備が進められている防潮堤整備事業には大きな減災効果があり、あなた自身や友人・知人の命、職場や学校などを守る事業として全市で取り組むべき事業であると思いますか。(1つだけ○を付けてください)

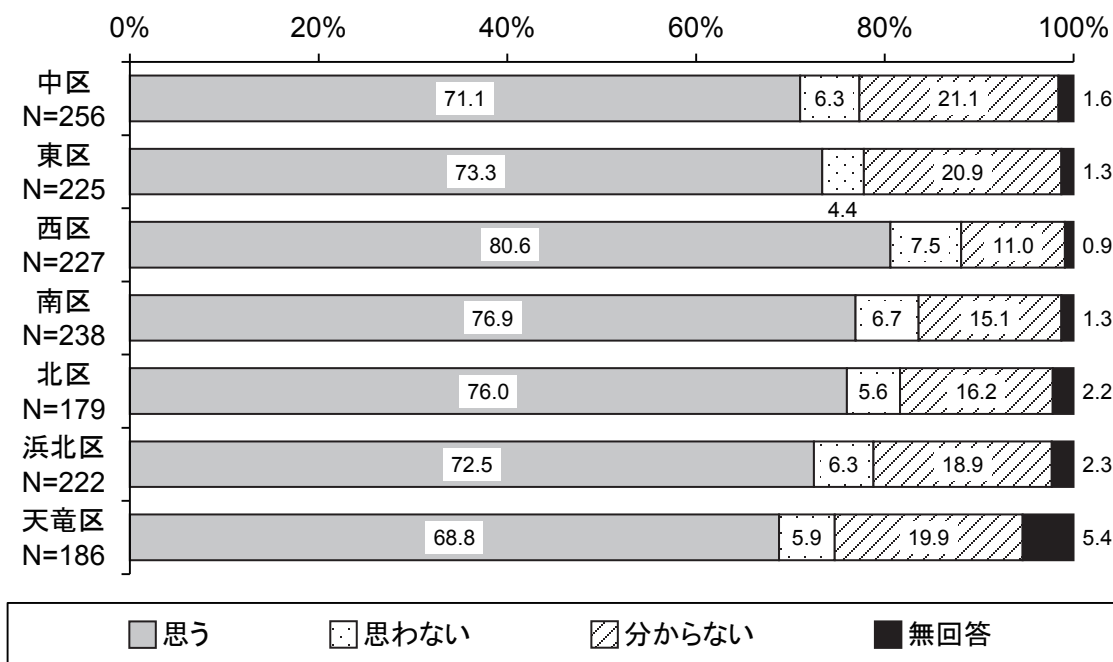


「思う」が74.2%と、「思わない」の6.1%を大幅に上回った。「分らない」も17.6%とある程度の割合を占めており、事業に対する理解度をさらに高めるような広報が必要である。

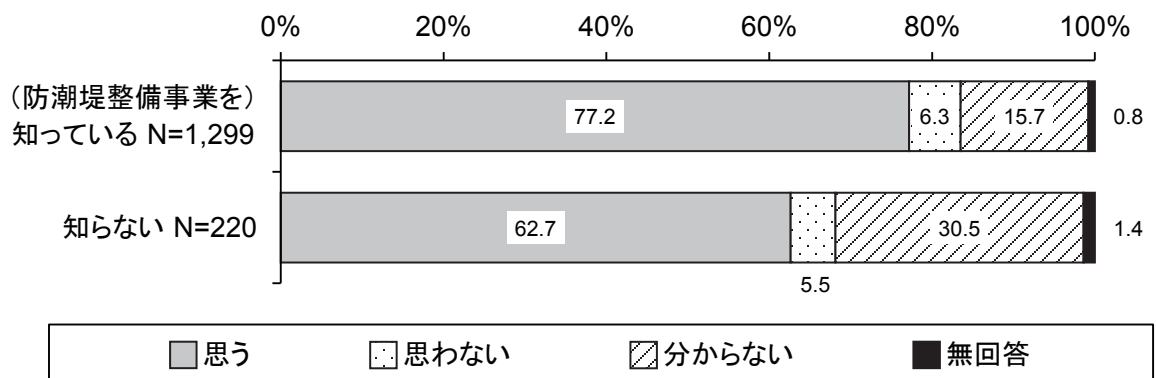
行政区別で見ると、海に面している西区、南区は「思う」の回答割合が高かった。他の行政区でも、「思う」が「思わない」を大幅に上回っていることから、防潮堤整備事業は居住地に関係なく全市で取り組むべき事業であると捉えられている。

問2でたずねた防潮堤整備事業の認知度別で見ると、防潮堤整備事業を「知らない」人は「知っている」人と比較して、「思う」の回答割合が低く、「分らない」の回答割合が高い。防潮堤整備事業の認知度が高まれば、事業の必要性に対する理解度も高まると考えられ、防潮堤整備事業の認知度向上のための広報強化が重要といえる。

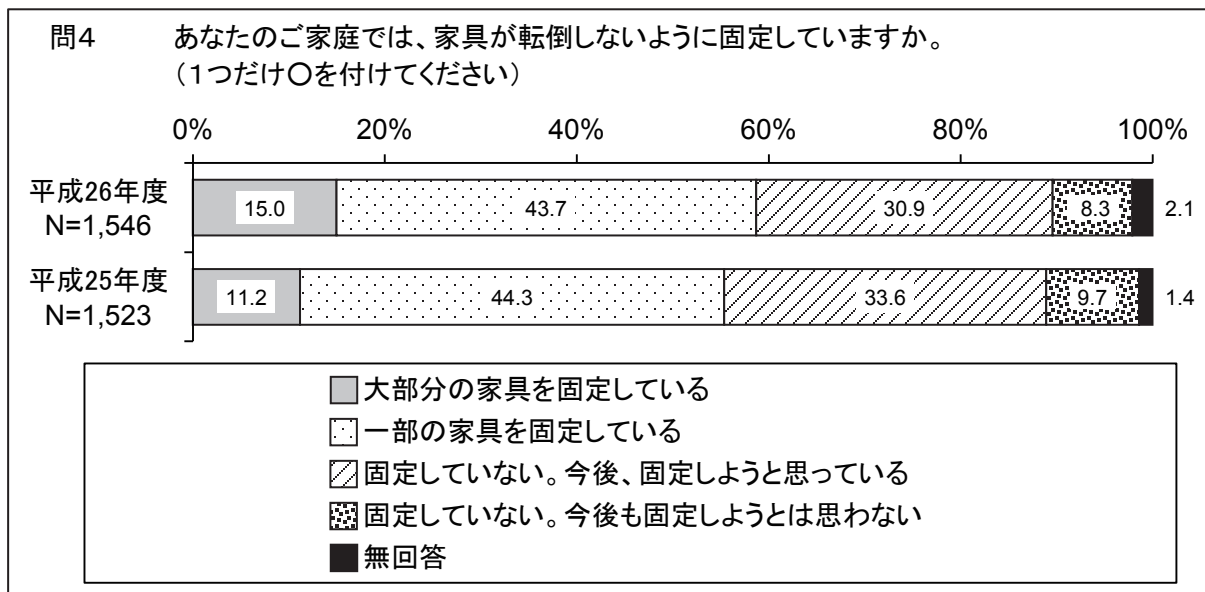
【行政区別】



【防潮堤整備事業の認知度別】



(3) 家具の固定対策について

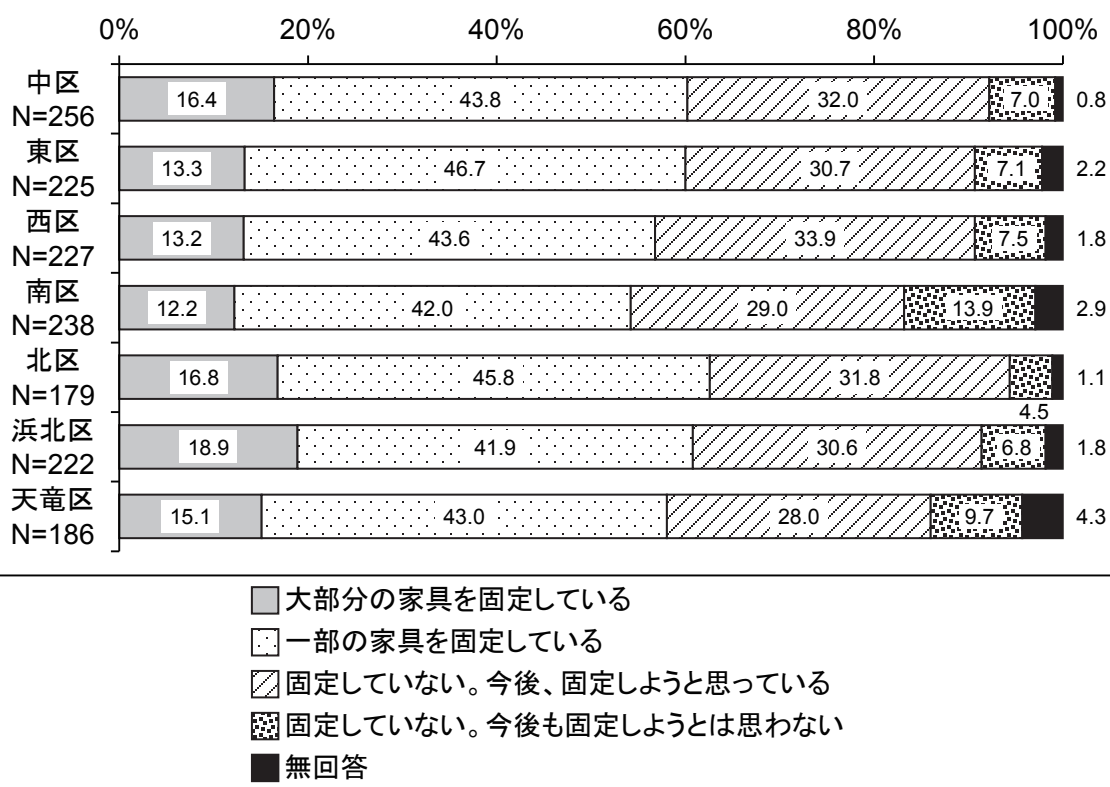


「一部の家具を固定している」が 43.7%で最も多く、次いで「固定していない。今後、固定しようと思っている」の 30.9%となった。「大部分の家具を固定している」と「一部の家具を固定している」を合わせた『固定している』は 58.7%と過半数を上回った。

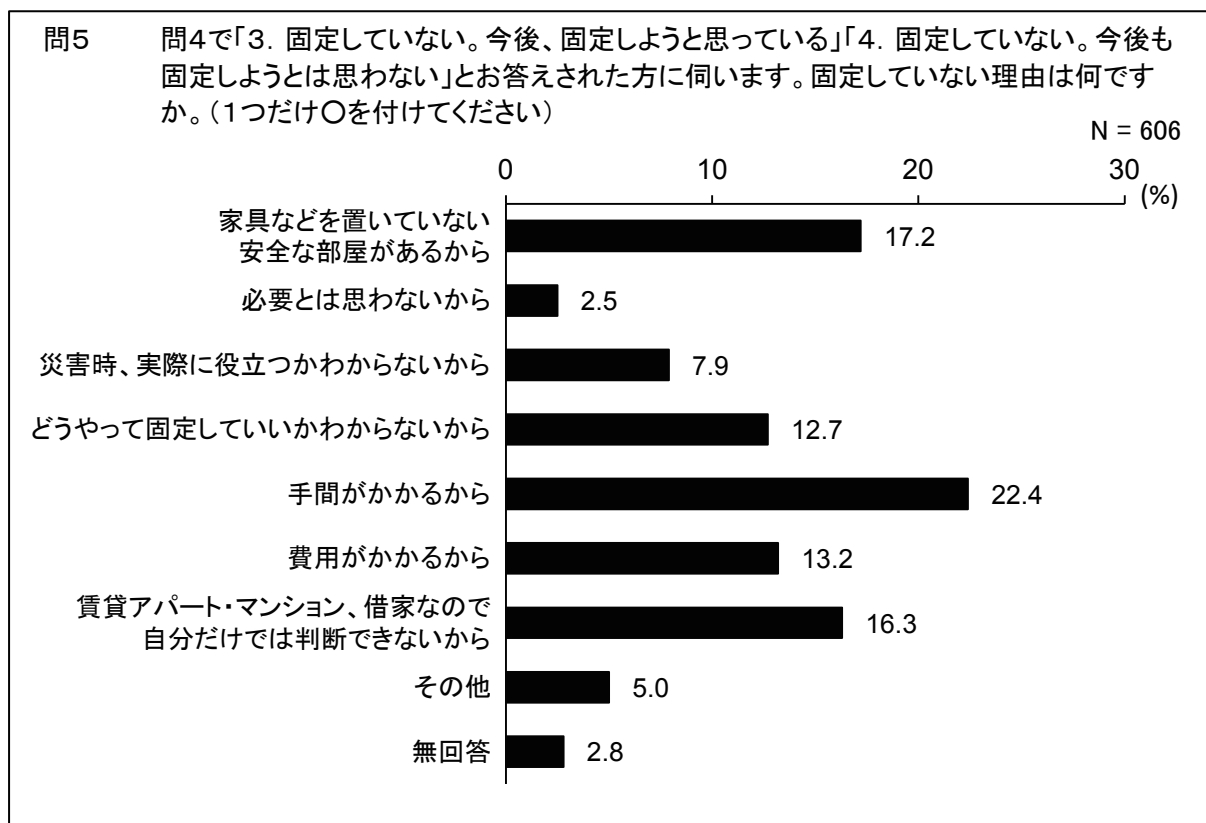
平成 25 年度調査と比較すると、「大部分の家具を固定している」は 3.8 ポイント、『固定している』は 3.2 ポイント上昇、家具固定の意識が徐々に高まってきている。

行政区別でみると、南区は『固定している』が他区と比較して最も低く、「固定していない。今後固定しようと思わない」が最も高くなっている。

【行政区別】



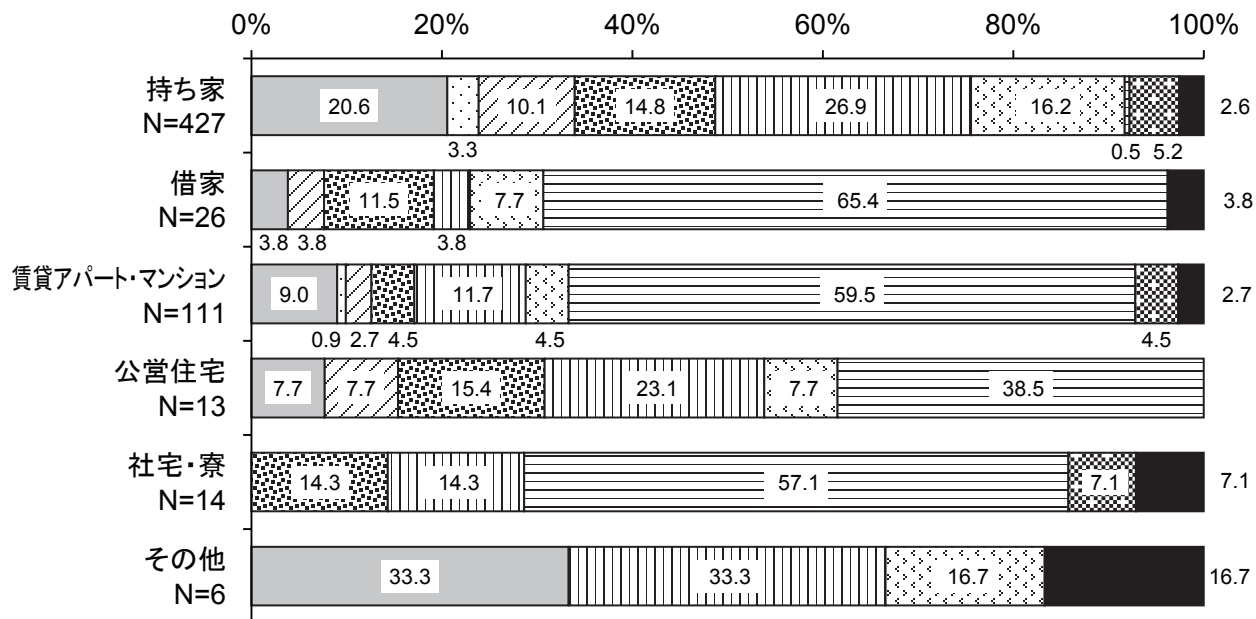
(4) 家具の固定対策をしない理由



「手間がかかるから」が 22.4%で最も多く、次いで「家具などを置いていない安全な部屋があるから」(17.2%)、「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」(16.3%)の順となった。

居住形態別でみると、持ち家は「手間がかかるから」が最も多く、持ち家以外は「賃貸アパート・マンション・借家なので自分だけでは判断できないから」が最も多かった。家具固定による減災効果の周知を図るとともに、賃貸アパートなどの物件所有者に対し協力を求めるなど新たな対策も必要である。

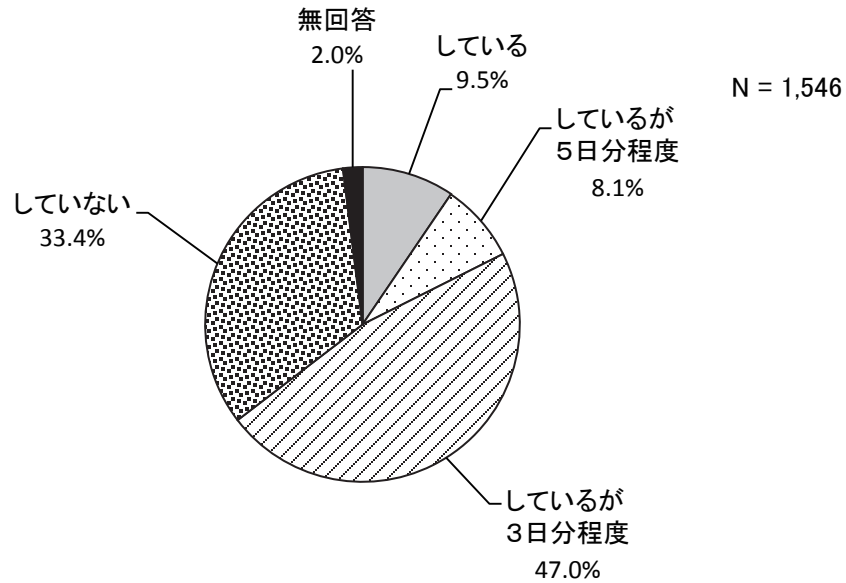
【居住形態別】



- 家具などを置いていない安全な部屋があるから
- 必要とは思わないから
- ▨ 災害時、実際に役立つかわからないから
- ▩ どうやって固定していいかわからないから
- ▧ 手間がかかるから
- ▦ 費用がかかるから
- ▤ 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから
- ▣ その他
- 無回答

(5) 水や食糧の備蓄状況について

問6 あなたのご家庭では、災害の発生に備え7日分以上の水や食糧を備蓄していますか。
(1つだけ○を付けてください)

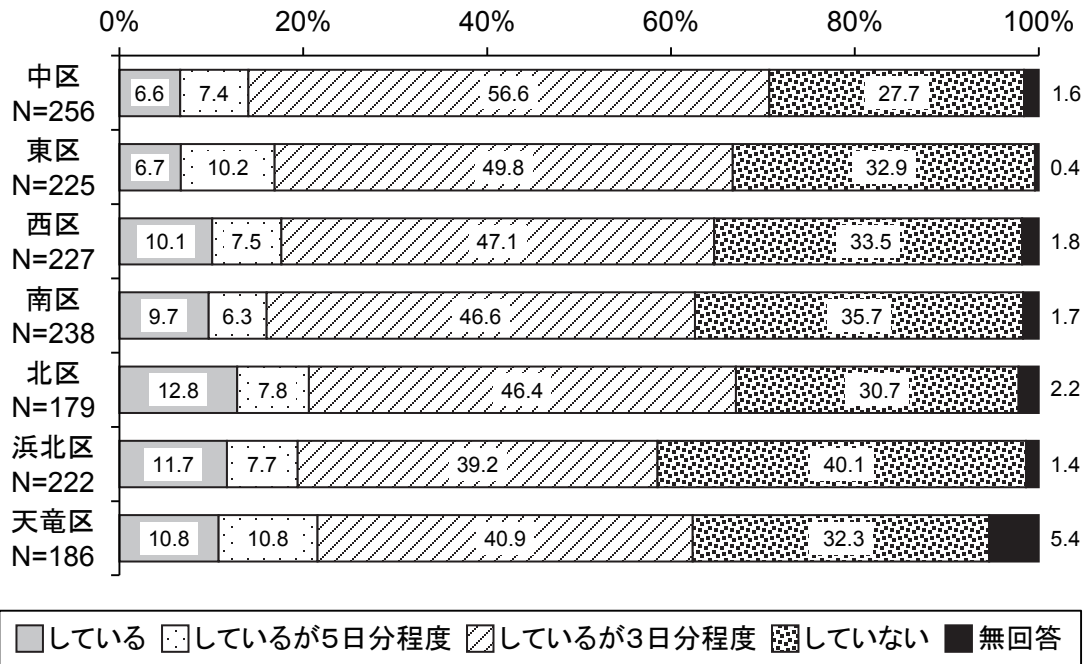


7日分以上の水や食糧の備蓄をしている人は全体の9.5%にとどまった。「しているが5日分程度」も8.1%と低く、両項目を合わせると17.6%となった。「しているが3日分程度」(47.0%)まで含めた『している』は64.6%となり、「していない」(33.4%)を31.2ポイント上回った。

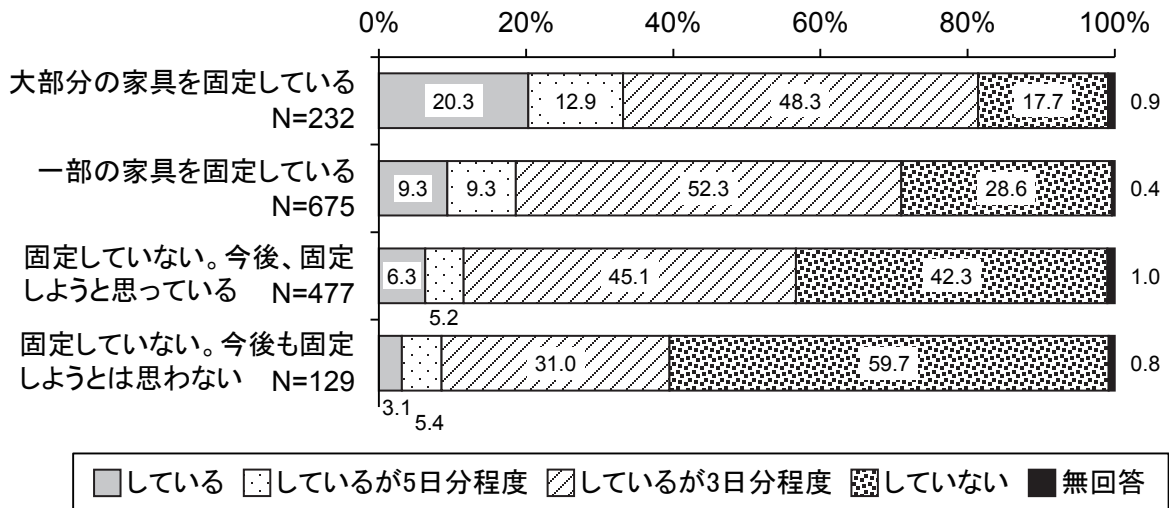
行政区別でみると、「していない」の回答割合が最も高かったのは、浜北区(40.1%)で、次いで「南区」(35.7%)、西区(33.5%)の順に高かった。

問4でたずねた家具固定の対策度合別でみると、家具の固定対策をしっかりと行っている人ほど、水や食糧の備蓄対策をしっかりと行っている。水や食糧の備蓄対策に焦点を絞った広報活動に加え、防災意識そのものを高める広報活動も同時に行うことが有効といえる。

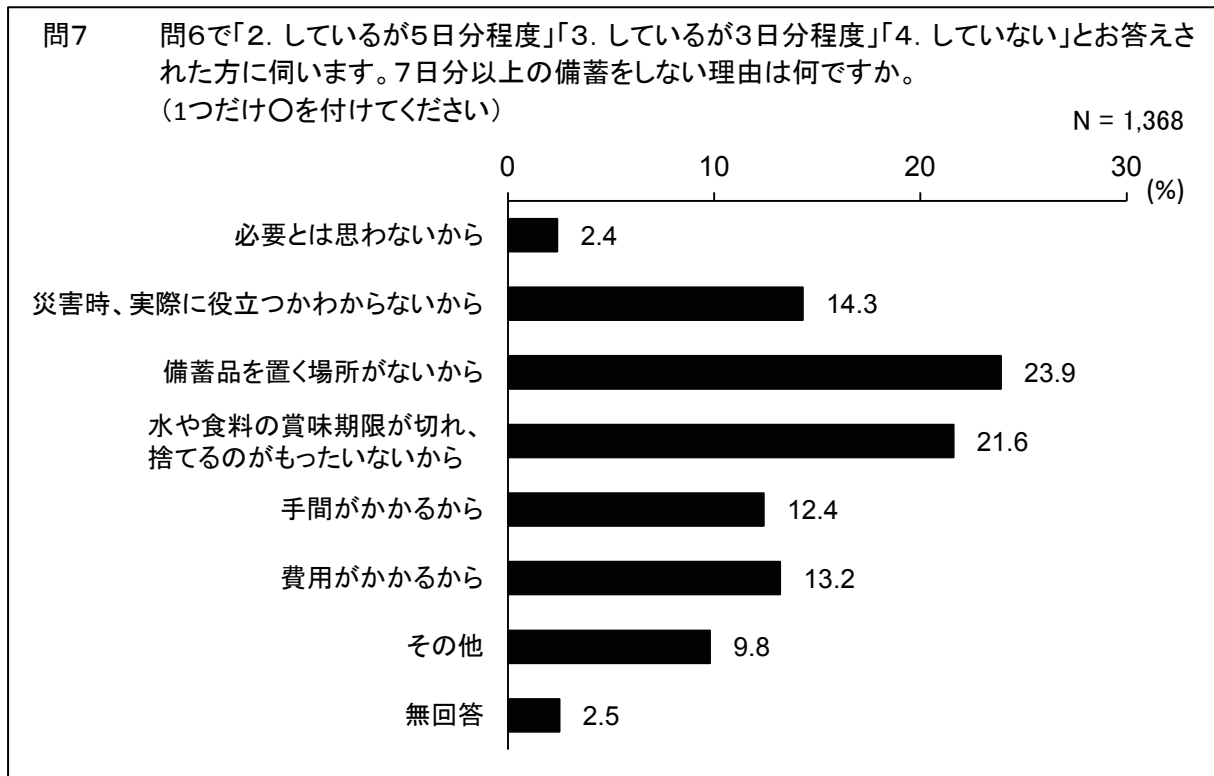
【行政区別】



【家具固定の対策度合別】



(6) 7日分以上の備蓄をしていない理由

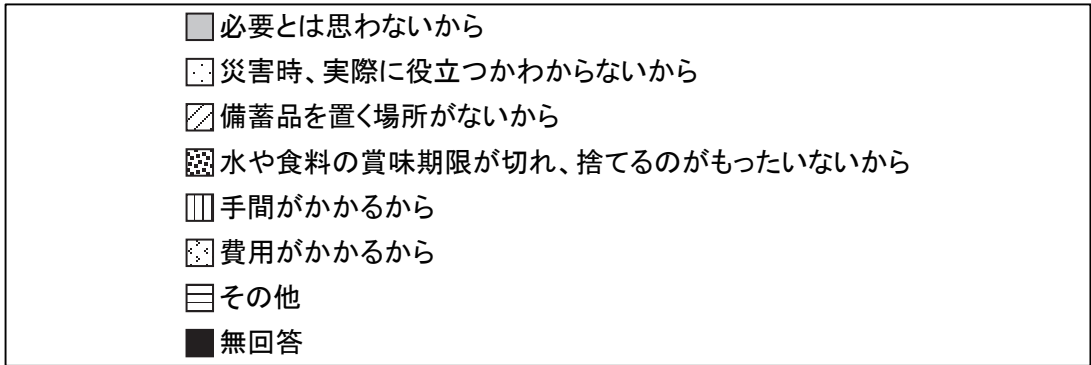
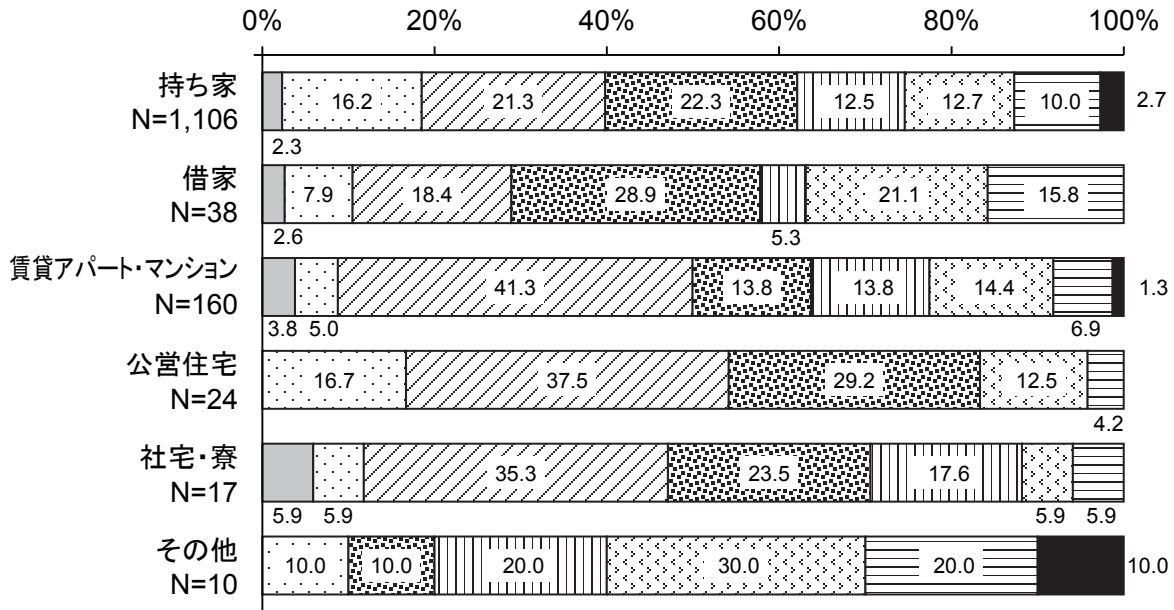


「必要とは思わないから」はわずか 2.4%にとどまり、圧倒的多数の人が必要と思いつつも、何らかの理由で 7 日分以上の備蓄ができていないことがわかった。備蓄ができていない理由としては、「備蓄品を置く場所がないから」が 23.9%で最も高く、次いで「水や食料の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の 21.6%が高かった。「その他」9.8%の具体的な記述をみると、理由は多岐に渡っているが、「7 日分は必要ない (3 日分で十分)」「水は備蓄しているが食料は備蓄していない」といった意見が多かった。

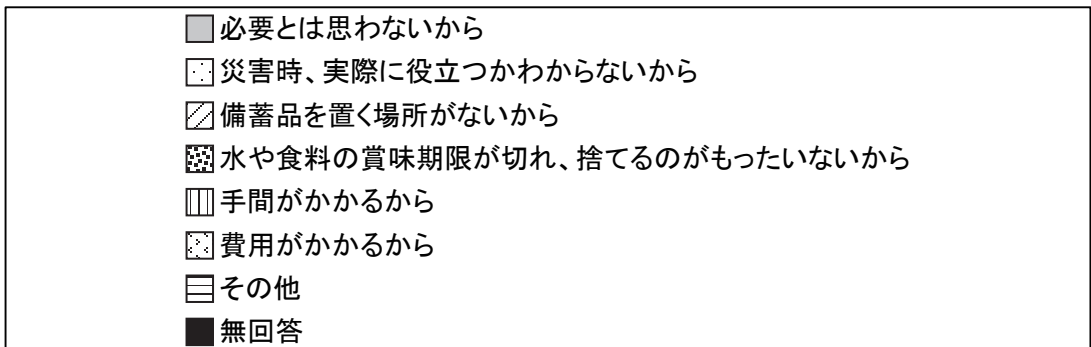
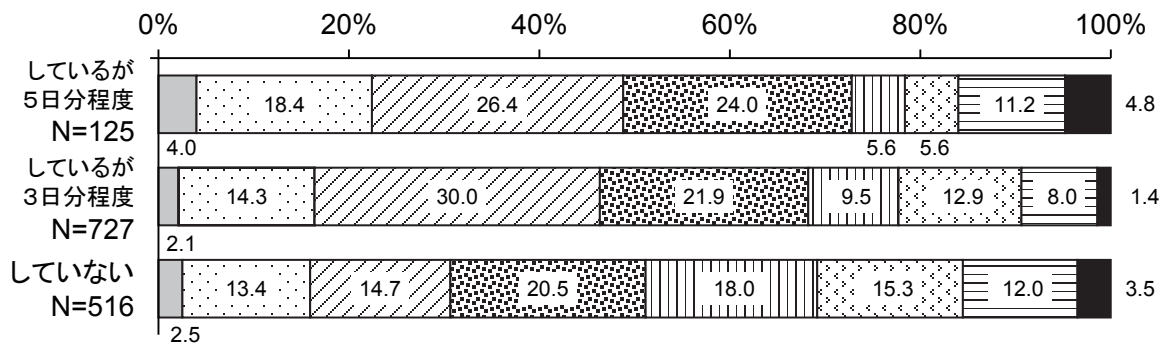
居住形態別でみると、持ち家、借家は「水や食料の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから」の回答割合が高く、賃貸アパート・マンション、公営住宅、社宅・寮は「備蓄品を置く場所がないから」の回答割合が高かった。

問 6 でたずねた水や食糧の備蓄度合別でみると、「しているが 5 日分程度」、「しているが 3 日分程度」と回答した人は「していない」と回答した人と比較して、「備蓄品を置く場所がないから」の回答割合が相対的に高い。「していない」と回答した人は、「手間がかかるから」、「費用がかかるから」の回答割合が相対的に高い。なお、「していない」と回答した人でも、「必要とは思わないから」は 2.5%と少数意見になっている。

【居住形態別】

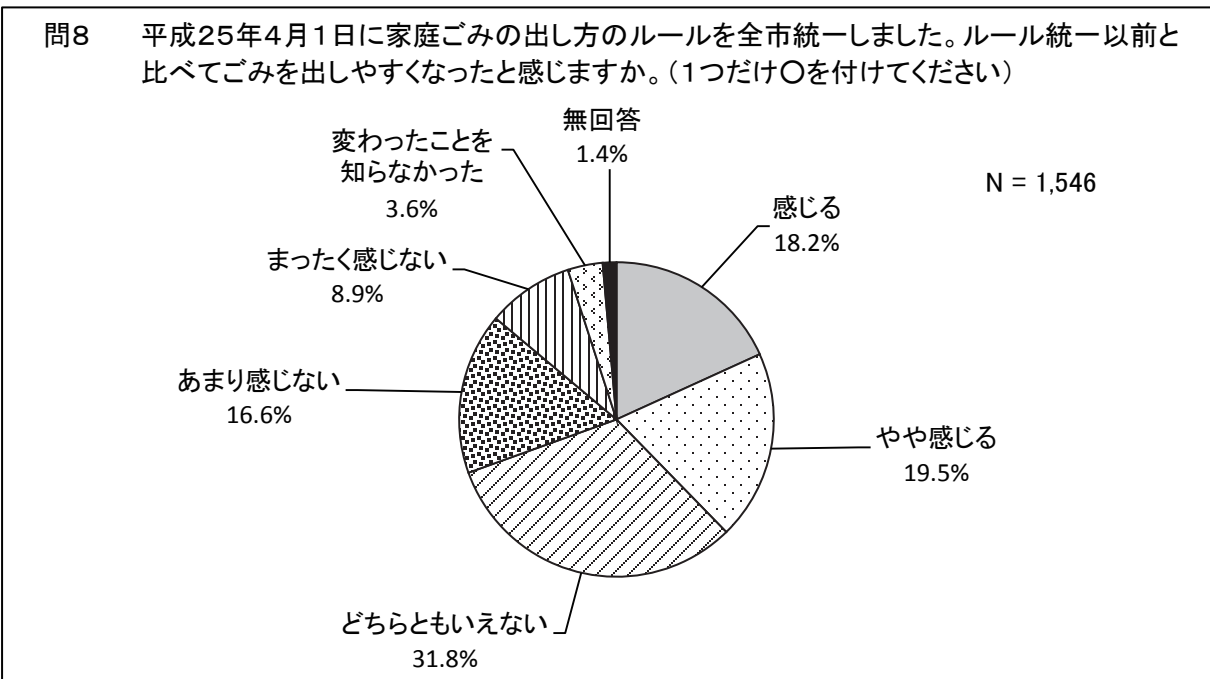


【水や食糧の備蓄度合別】



3 家庭ごみの出し方の市民意識や排出状況について

(1) 家庭ごみの出し方のルール統一について



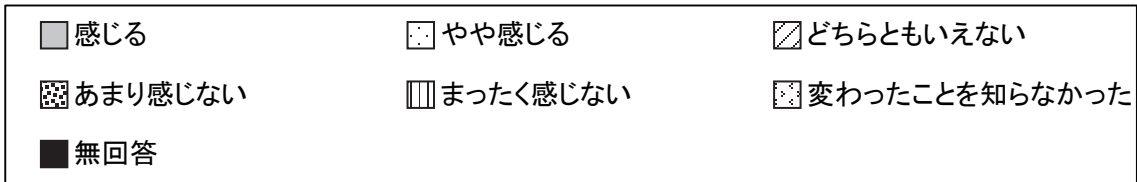
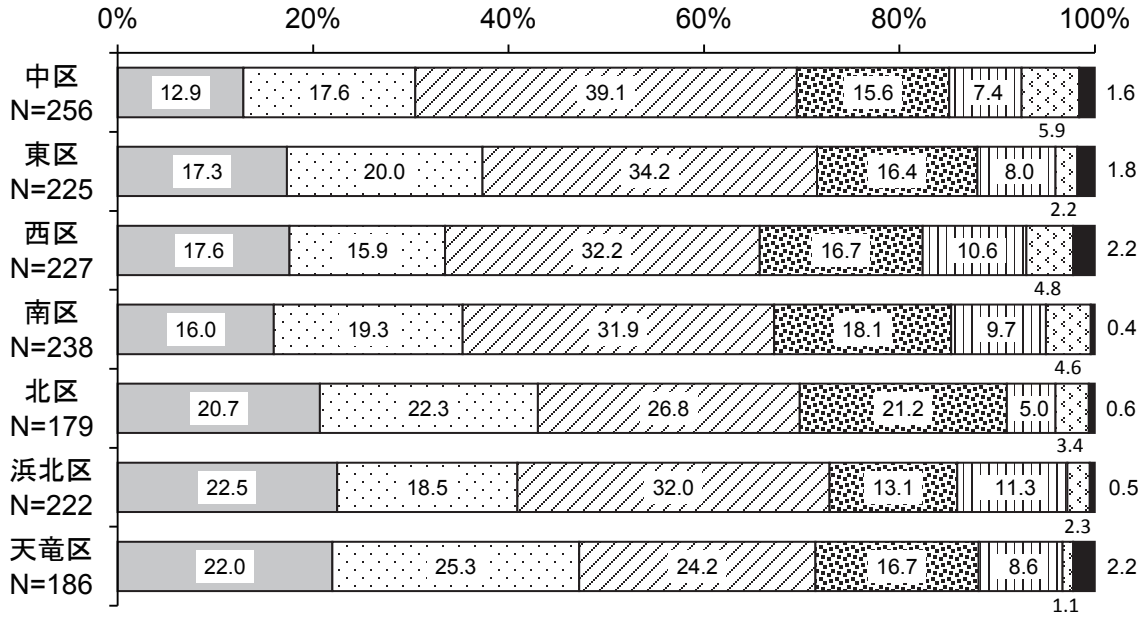
「どちらともいえない」が31.8%で最も多かったが、「感じる」「やや感じる」を合わせた『感じる』は37.7%となり、「あまり感じない」「まったく感じない」を合わせた『感じない』の25.5%を12.2ポイント上回った。

行政区別で見ると、全ての行政区で『感じる』が『感じない』を平均で12.8ポイント上回っており、合併前のルールを全市統一したことによる一定の効果はあったと考えられる。

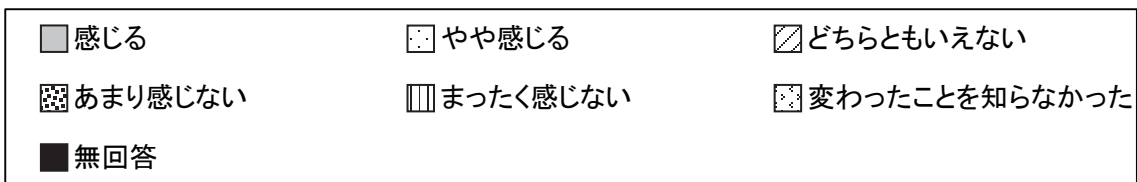
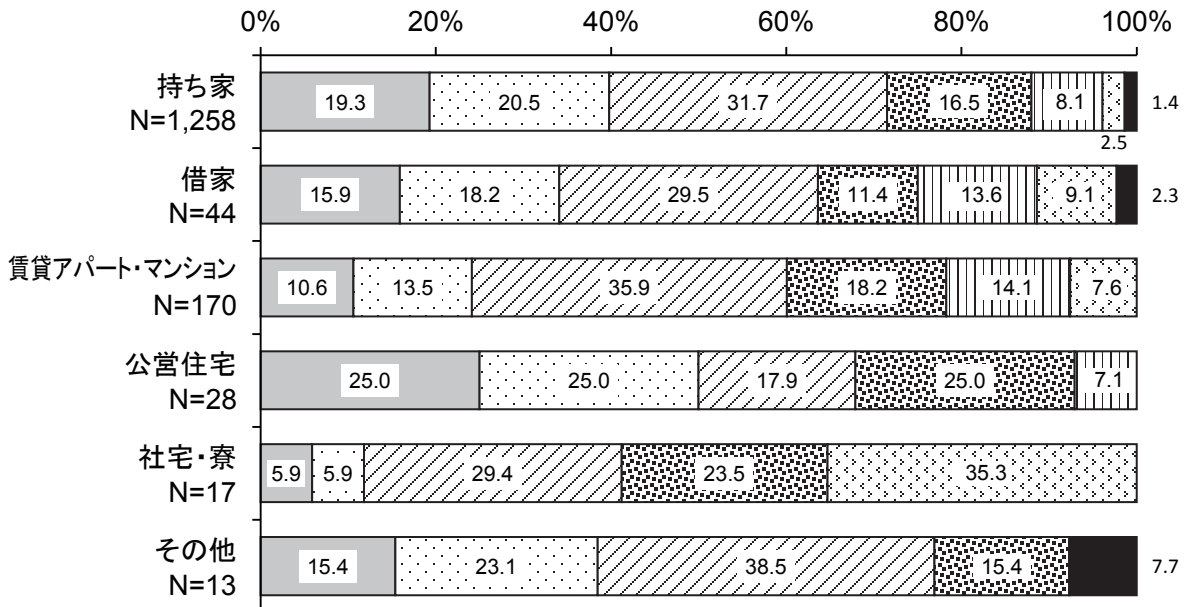
居住形態別で見ると、賃貸アパート・マンションと社宅・寮は、『感じない』が『感じる』を平均で10.0ポイント上回った。

今後はルールの定着と市民の意識改革に向けて更なる周知啓発に努める必要がある。

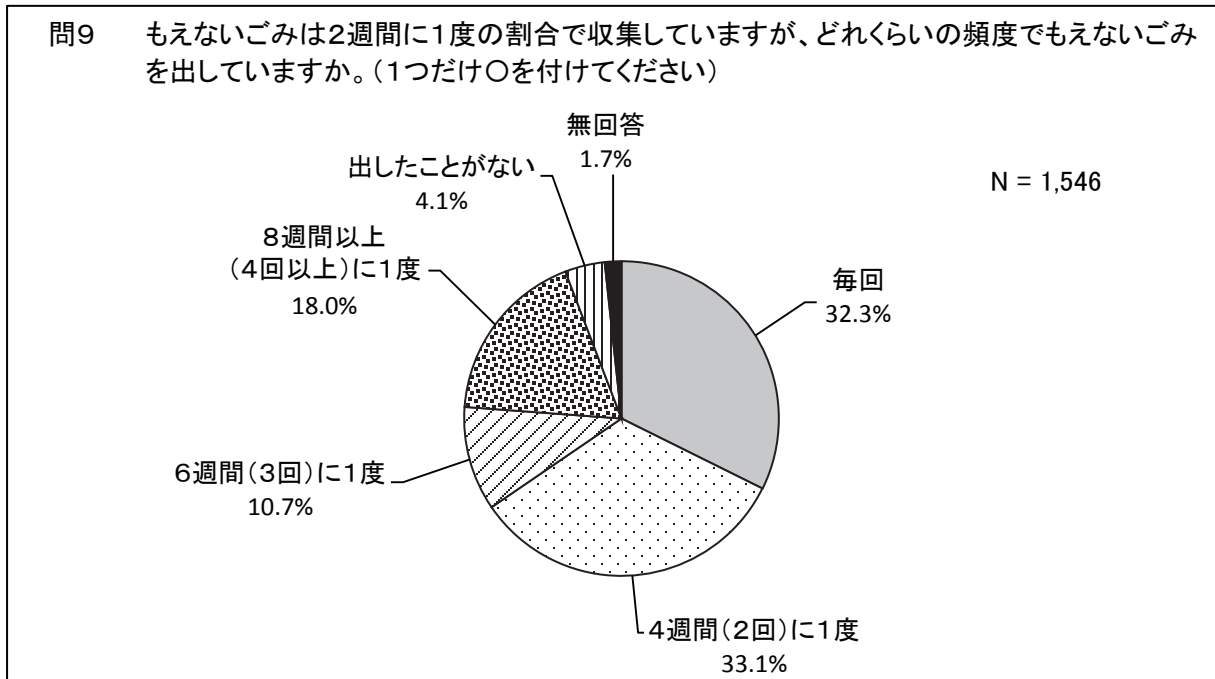
【行政区別】



【居住形態別】



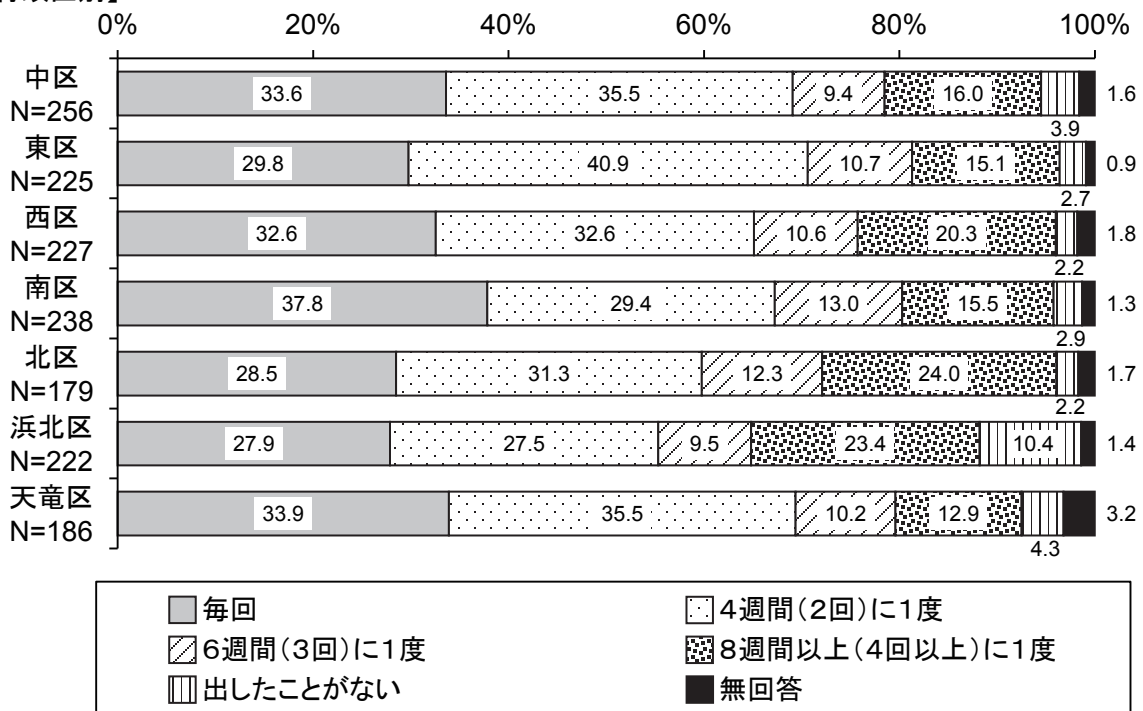
(2) もえないごみを出す頻度



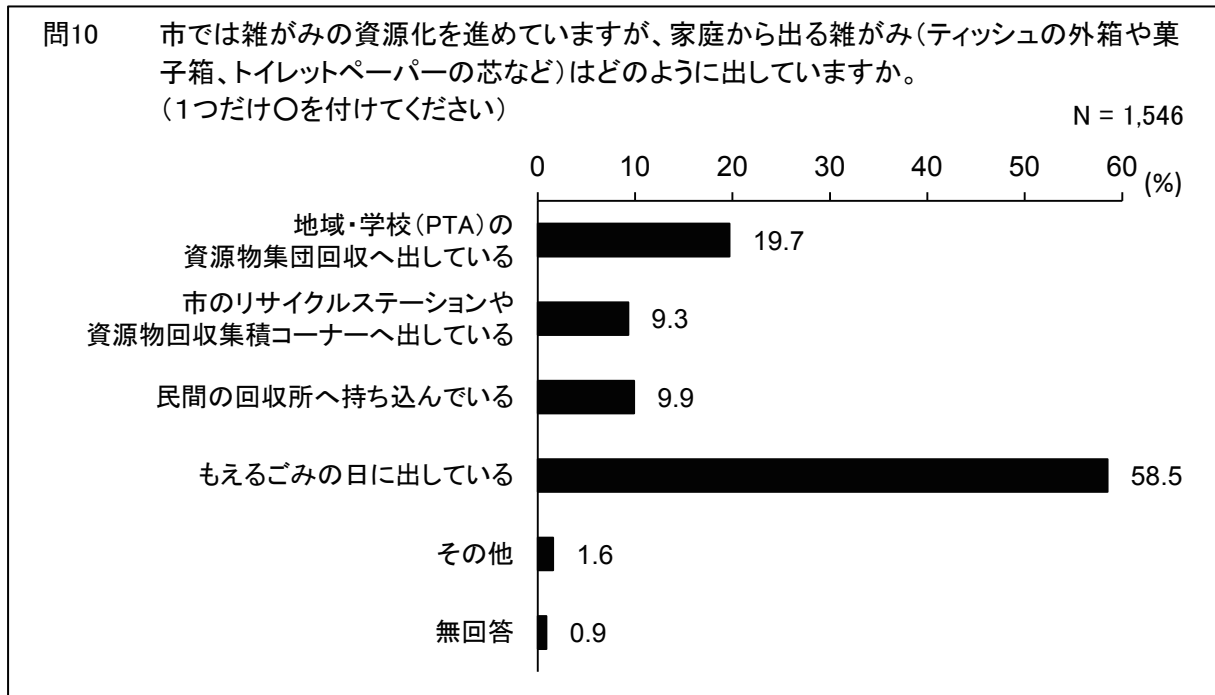
「4週間に1度」が33.1%で最も多かった。2番目に多かった「毎回」の32.3%と合わせた『月1回以上』は65.4%となった。一方、「8週間以上に1度」は18.0%、さらには「出したことがない」も4.1%あった。

行政区別でみると浜北区では10.4%の人が「出したことがない」と回答しており、2番目に多い天竜区の4.3%よりも6.1ポイントも高かった。今後は集積所の実態調査を行うなかで、収集回数の見直しや資源化向上に向けた新たな品目の収集についても検討する必要がある。

【行政区別】



(3) 家庭から出る雑がみの出し方

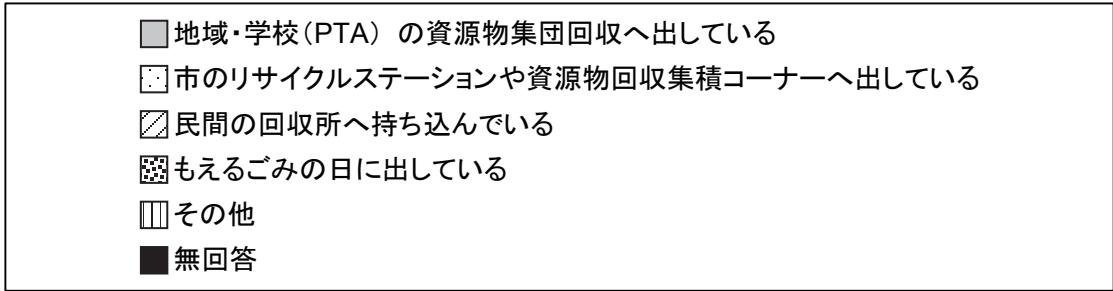
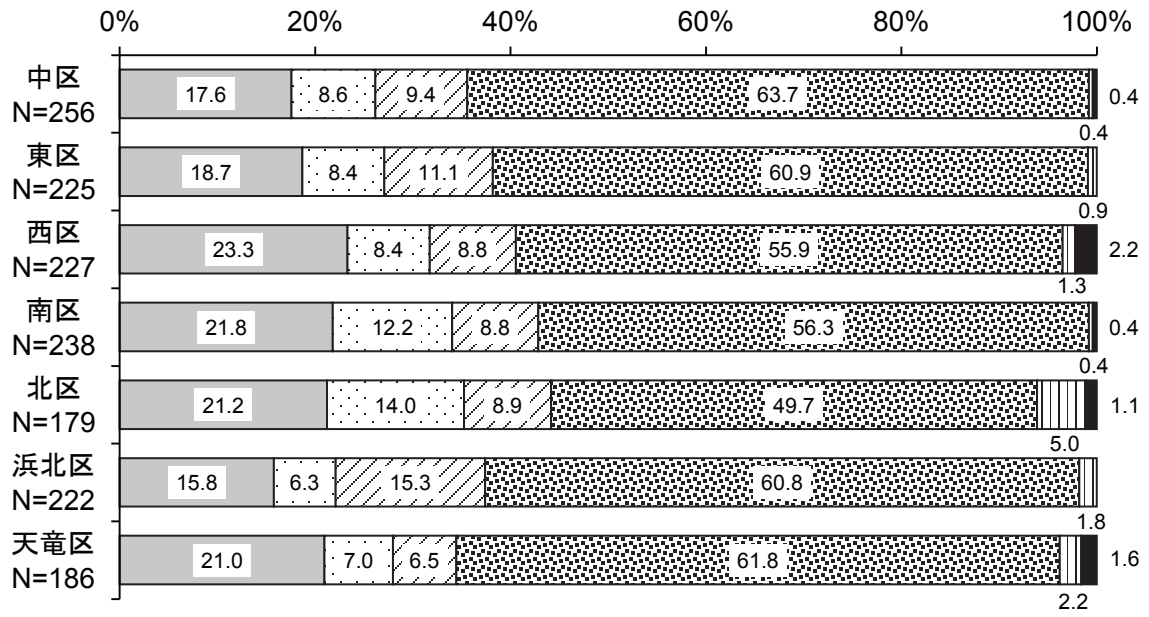


「地域・学校 (PTA) の資源物集団回収へ出している」「市のリサイクルステーションや資源物回収集積コーナーへ出している」「民間の回収所へ持ち込んでいる」を合わせた『資源化している』は 38.9%となり、「もえるごみの日に出している」の 58.5%を 19.6 ポイント下回った。『資源化している』のなかでは、「地域・学校 (PTA) の資源物集団回収へ出している」が 19.7%で最も多かった。

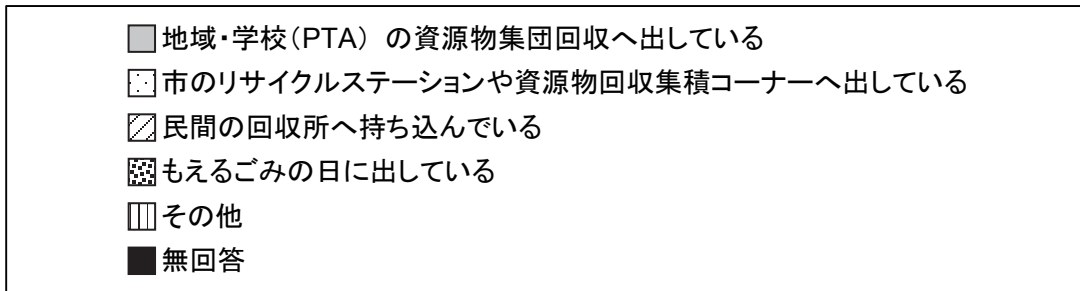
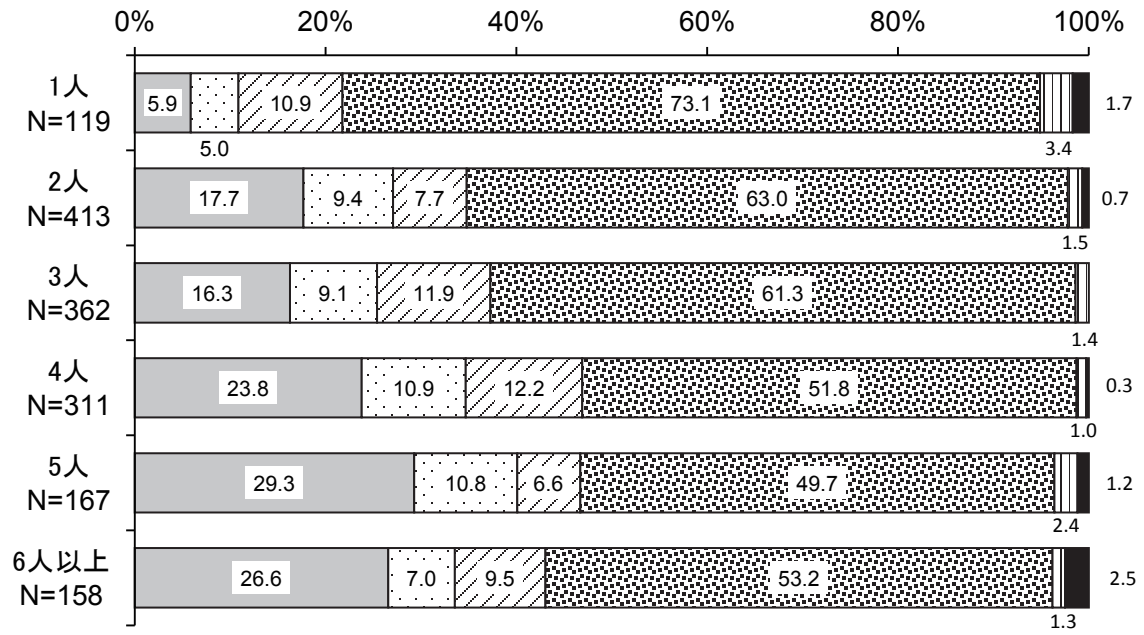
行政区別でみると、『資源化している』の回答割合が最も高かったのは北区で、次いで南区、西区が高かった。

家族数別でみると、「もえるごみの日に出している」の回答割合は 1 人暮らしの人が 73.1%と最も高く、人数が増えるにしたがって率が低くなっていく傾向が見られる。今後、さらに雑がみの資源化を推進するための啓発・周知が必要となる。

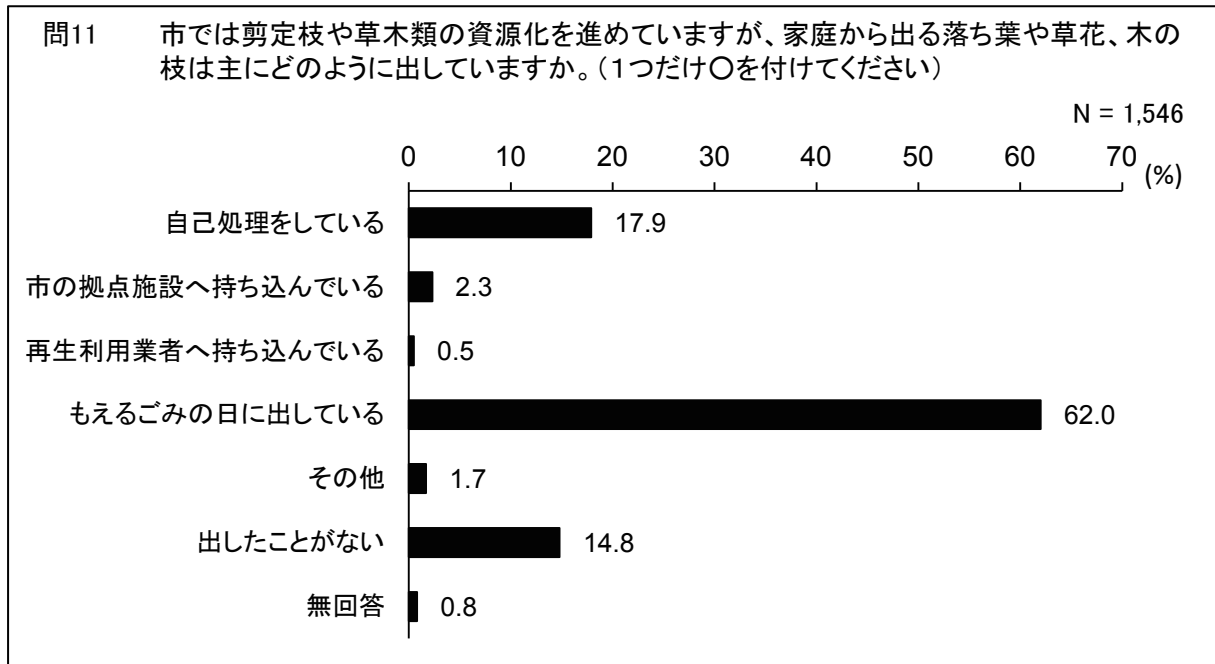
【行政区別】



【家族数別】



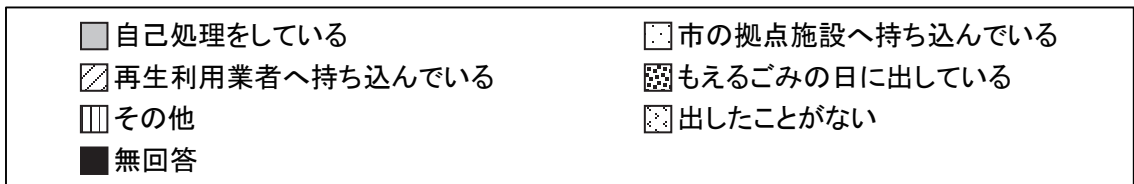
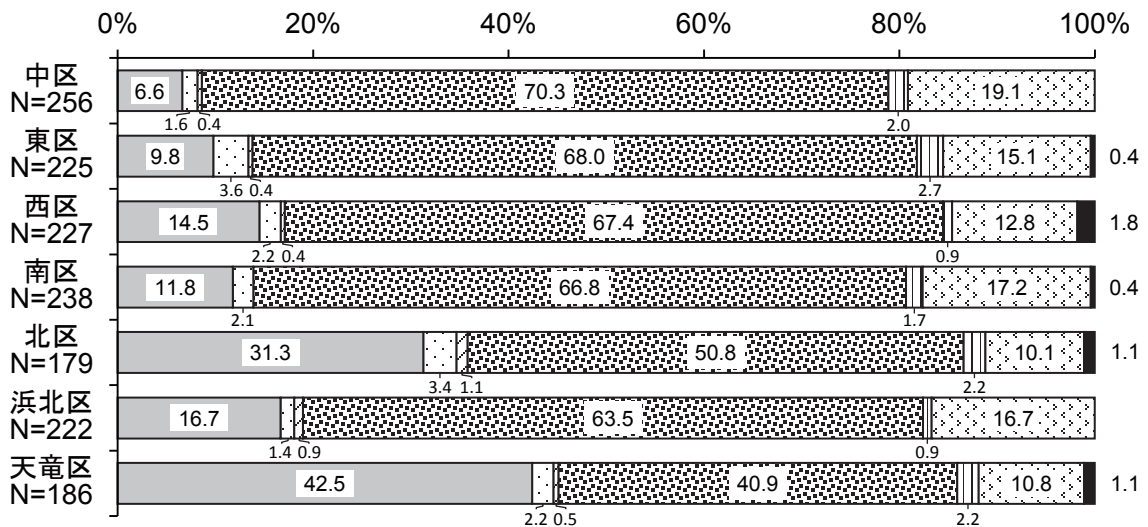
(4) 剪定枝や草木類の出し方



「もえるごみの日に出している」が 62.0%と圧倒的に多く、次いで「自己処理をしている」17.9%となった。「市の拠点施設へ持ち込んでいる」や「再生利用業者へ持ち込んでいる」は合わせても 2.8%に過ぎないことから、雑がみ同様「もえるごみの日」に排出されないための更なる啓発や回収拠点の充実が必要となる。

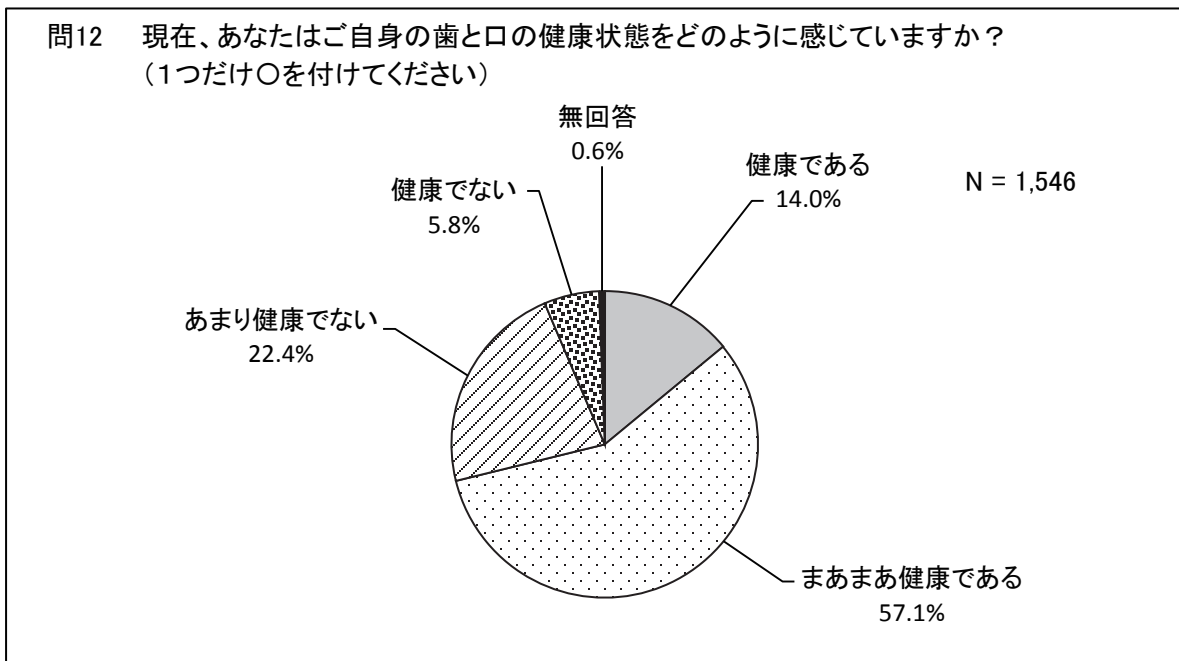
行政区別でみると、北区、天竜区は相対的に「自己処理をしている」が多く、「もえるごみの日に出している」が少ない。一方で中区は北区、天竜区と逆の傾向がみられ、特に「もえるごみの日」が 70%を超えているなど、地域性が顕著に表れている。

【行政区別】



4 歯と口の健康について

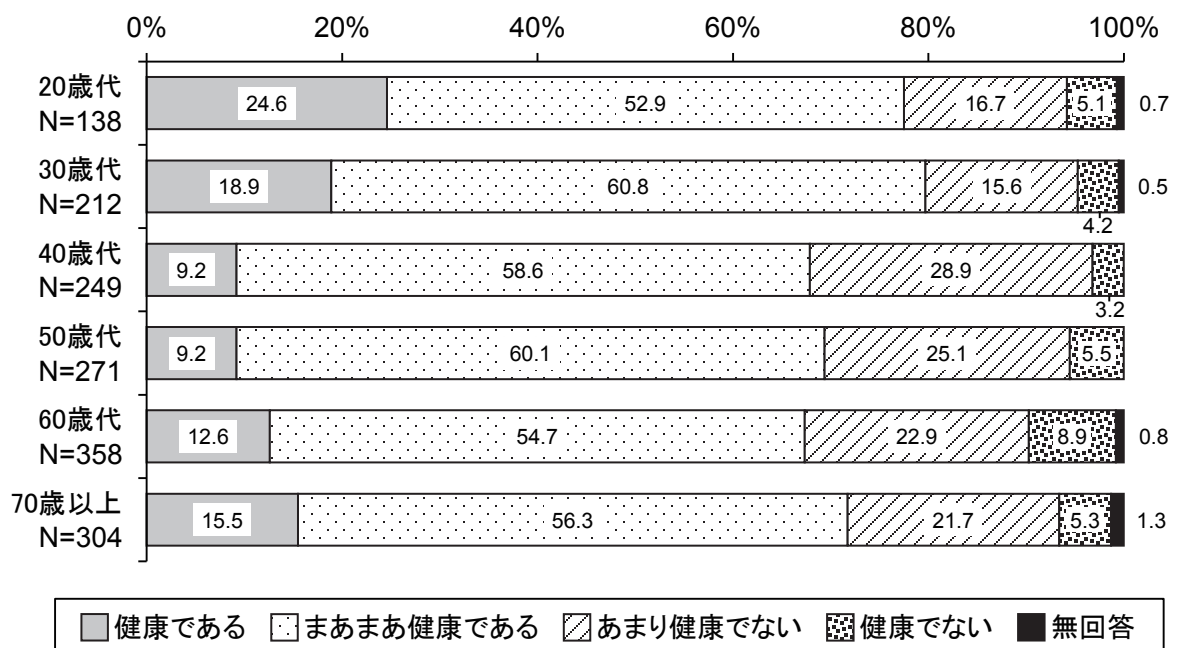
(1) 歯と口の健康状態



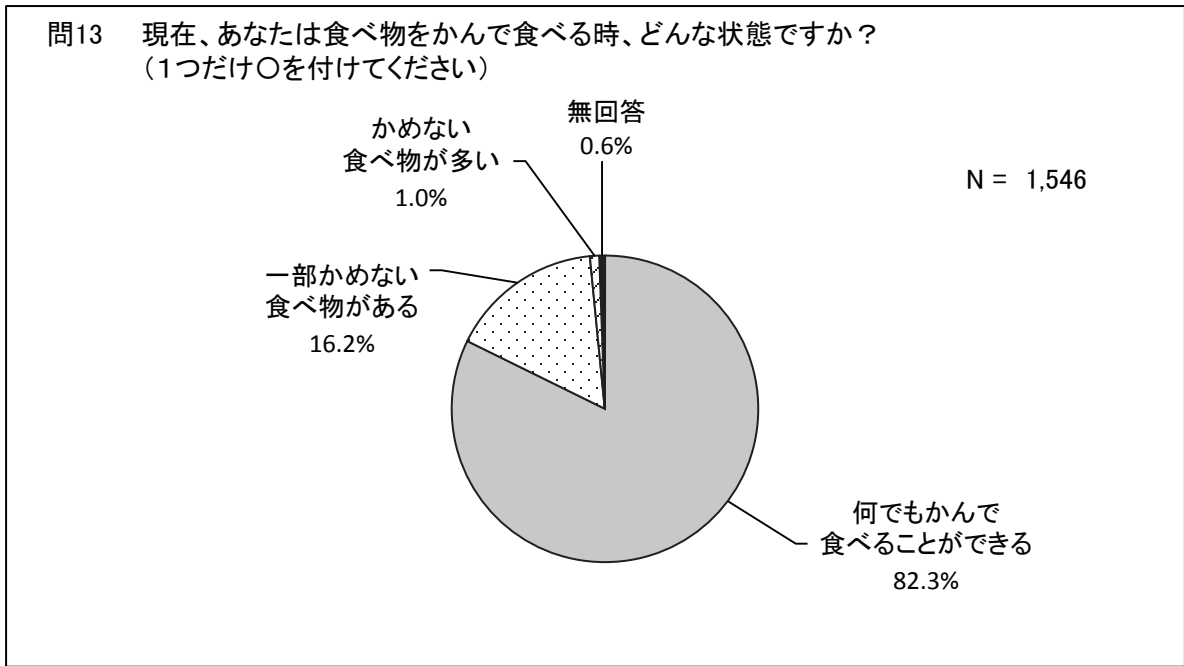
「健康である」の 14.0%と「まあまあ健康である」の 57.1%を合わせた『健康である』は 71.1%となった。一方、「健康でない」の 5.8%と「あまり健康でない」の 22.4%を合わせた『健康でない』は 28.2%となり、『健康である』が『健康でない』を 42.9 ポイント上回った。

年代別でみると、「健康である」の回答割合は 40 歳代・50 歳代が最も低かった。『健康でない』の回答割合は、40 歳代以降の世代から高くなっていった。

【年代別】



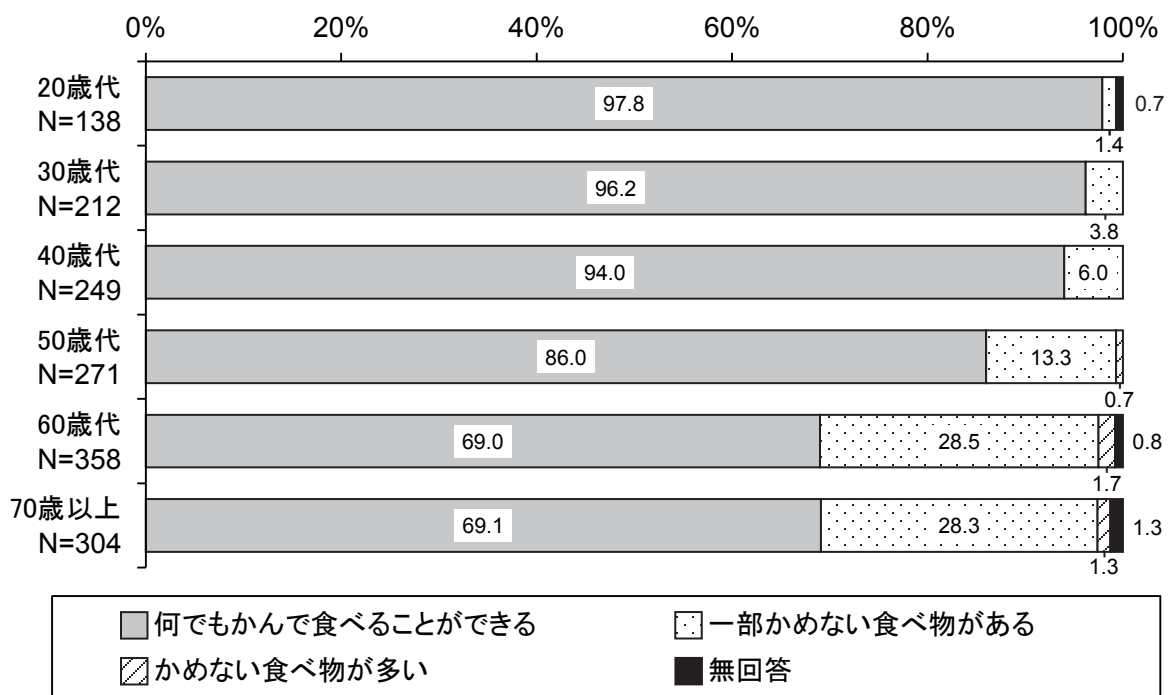
(2) 食べ物の咀嚼時の状況



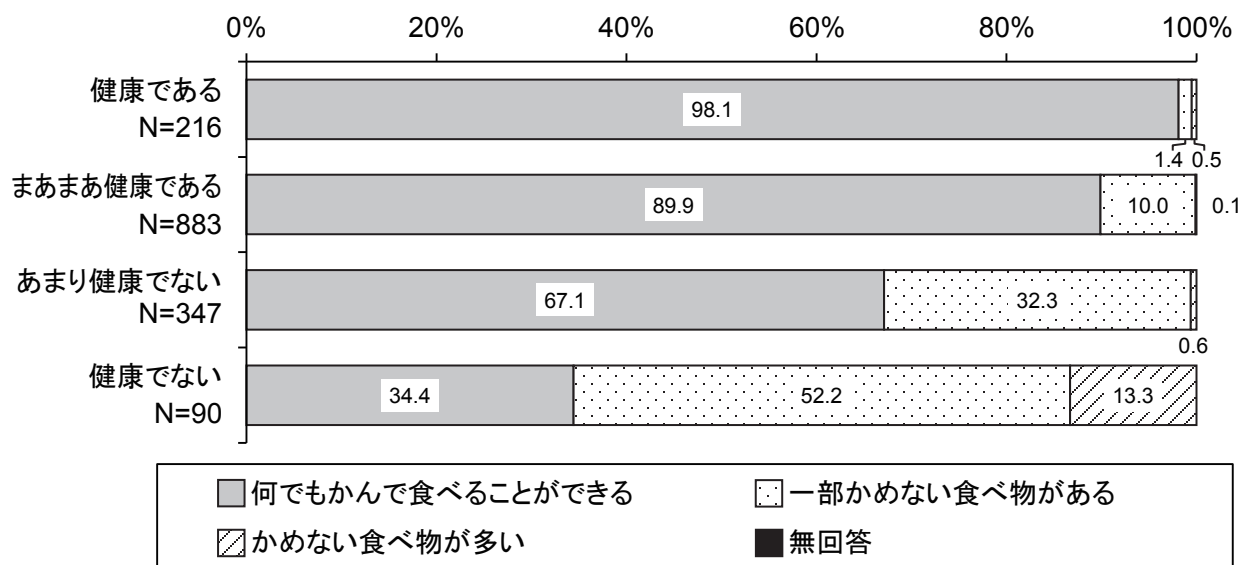
「何でもかんで食べることができる」が 82.3%を占め、厚生労働省の国民健康・栄養調査報告（平成 21 年）の 79.6%よりも高かった。

年代別で見ると、「何でもかんで食べることができる」の回答割合は 20 歳代で最も高く、年齢が高くなるほど低くなっていた。40 歳代までは「何でもかんで食べることができる」の回答割合は 90%を超えているが、50 歳代から「一部かめない食べ物がある」の割合が増加しはじめ、60 歳代以降は、約 30%まで増加していた。このことから「何でもかんで食べることができる」時からの歯と口の健康づくりの取り組みが重要と思われる。

【年代別】

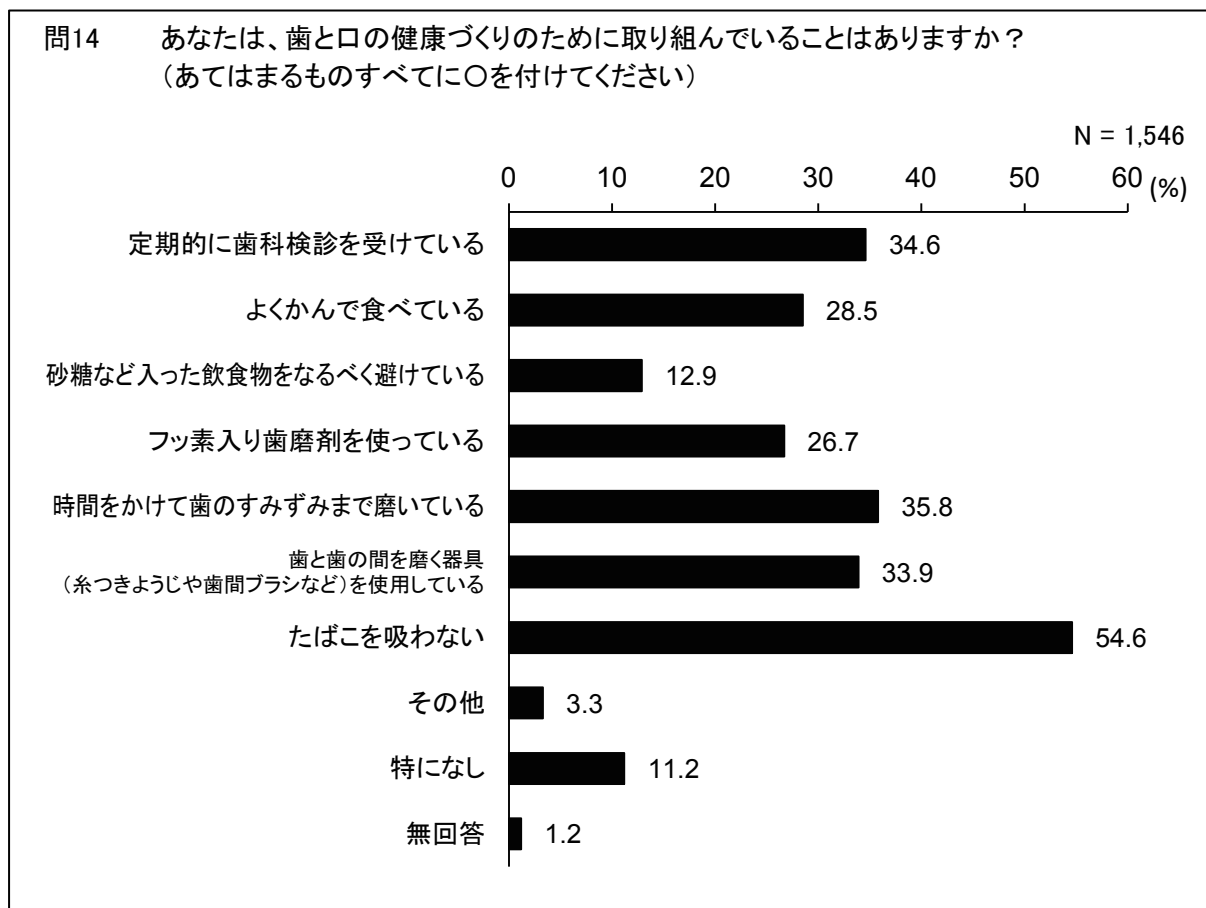


【歯と口の健康状態別】



問 12 で回答した歯と口の健康状態別でみると、歯と口が健康と感じている人ほど、食べ物の咀嚼時の状況が良好な「何でもかんで食べることができる」との回答割合が高くなり、逆に歯と口が健康でないと感じている人ほど、食べ物の咀嚼時の状況が良くない傾向がみられた。すなわち、歯と口の健康を保持増進するには、食べ物が何でもかんで食べられるという歯と口の機能が保たれていることが大切であると言える。

(3) 歯と口の健康づくりに望ましい保健行動



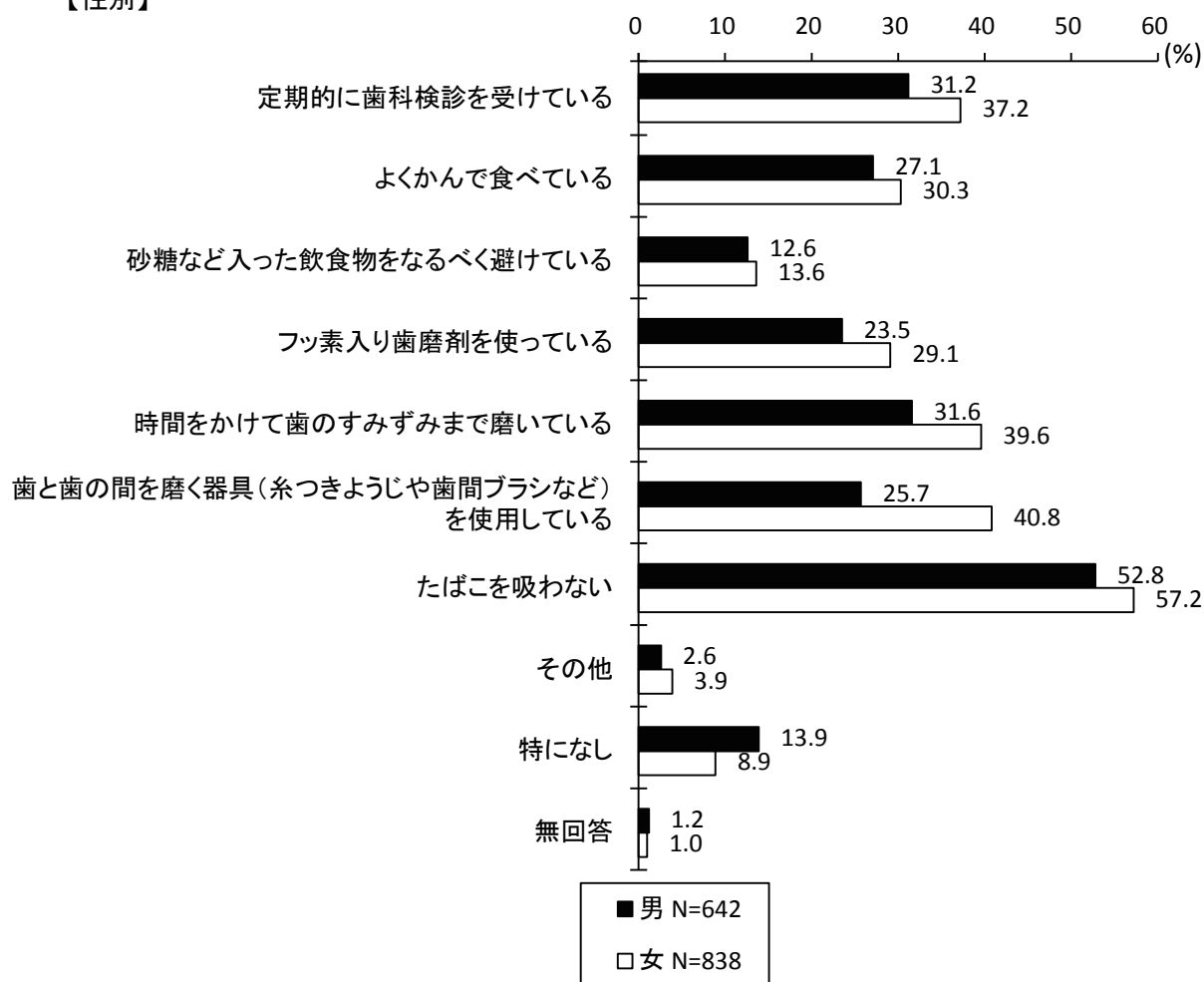
「たばこを吸わない」が 54.6%で最も高かった。次いで、「時間をかけて歯のすみずみまで磨いている」(35.8%)、「定期的に歯科検診を受けている」(34.6%)、「歯と歯の間を磨く器具を使用している」(33.9%)の順で高かったが、いずれも実施率は40%を下回った。

性別でみると、「特になし」を除く全てで、女性の方が男性よりも歯と口の健康づくりのために取り組んでいる項目の回答割合が高かった。特に、「歯と歯の間を磨く器具を使用している」「時間をかけて歯のすみずみまで磨いている」という歯の清掃に関する取り組みは男女差が大きかった。

年代別でみると、全ての年齢で「たばこを吸わない」が最も高かった。「たばこを吸わない」、「時間をかけて歯のすみずみまで磨いている」は年代による差はあまり見られなかった。「定期的に歯科検診を受けている」、「歯と歯の間を磨く器具を使用している」は、年代が上がるに伴い回答割合も高まる傾向がみられた。「フッ素入り歯磨剤を使っている」は30歳代・40歳代の回答割合が高かった。

問12で回答した歯と口の健康状態別でみると、歯と口が健康と感じている人ほど「定期的に歯科検診を受けている」、「よくかんで食べている」、「時間をかけて歯のすみずみまで磨いている」、「歯と歯の間を磨く器具を使用している」の回答割合が高かった。逆に、健康でないと感じている人ほど「特になし」の回答割合が高かった。

【性別】



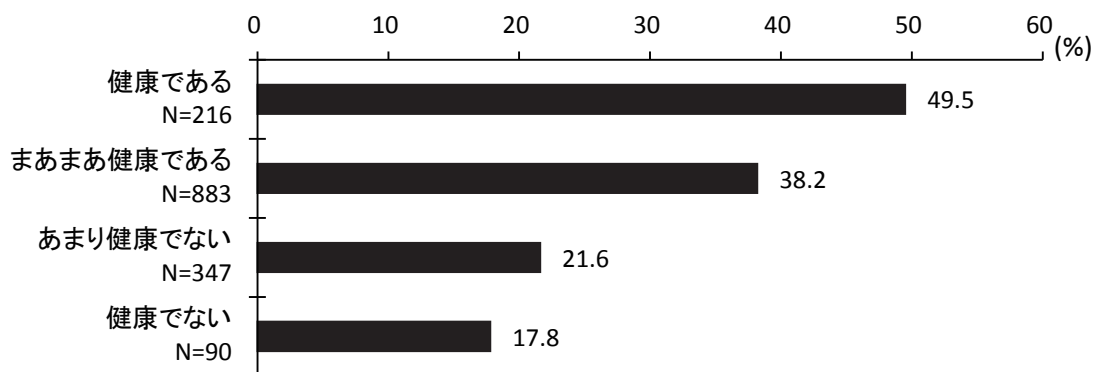
【年代別】

	定期的に歯科検診を受けている	よくかんで食べている	砂糖など入った飲食物をなるべく避けている	フッ素入り歯磨剤を使っている	時間をかけて歯のすみずみまで磨いている	歯と歯の間を磨く器具を使用している	たばこを吸わない	その他	特になし	無回答
20 歳代 N=138	20.3	28.3	7.2	21.7	34.1	20.3	58.0	1.4	21.0	0.7
30 歳代 N=212	30.7	23.1	9.0	37.3	35.4	30.2	52.4	3.3	12.7	0.5
40 歳代 N=249	29.3	22.1	10.4	40.2	34.5	32.1	55.8	3.6	8.8	1.6
50 歳代 N=271	32.8	23.2	13.7	27.7	37.3	39.9	55.4	5.5	8.5	0.4
60 歳代 N=358	41.1	30.7	17.6	18.2	36.0	38.8	55.0	3.6	10.3	1.4
70 歳以上 N=304	42.4	40.5	14.5	20.7	38.2	34.2	54.6	1.6	9.9	1.6

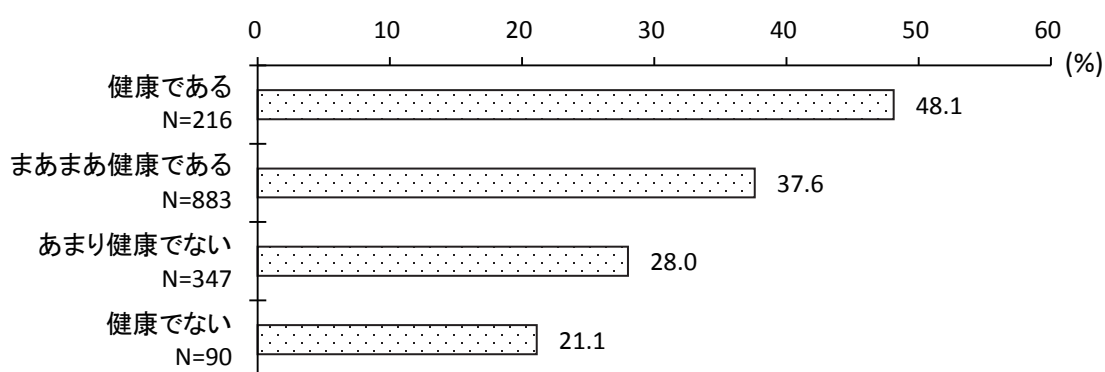
【歯と口の健康状態別】

	定期的に歯科検診を受けている	よくかんで食べている	砂糖など入った飲食物をなるべく避けている	フッ素入り歯磨剤を使っている	時間をかけて歯のすみずみまで磨いている	歯と歯の間を磨く器具を使用している	たばこを吸わない	その他	特になし	無回答
健康である N =216	49.5	37.0	13.9	28.7	48.1	36.1	59.7	2.3	7.4	1.4
まあまあ健康である N=883	38.2	28.5	13.4	27.9	37.6	36.4	55.5	3.3	9.7	0.5
あまり健康でない N=347	21.6	25.4	11.8	24.8	28.0	29.7	52.2	2.9	13.3	1.4
健康でない N=90	17.8	22.2	12.2	21.1	21.1	23.3	47.8	7.8	26.7	1.1

【歯と口の健康状態別にみた定期的に歯科検診を受けている割合】



【歯と口の健康状態別にみた時間をかけて歯のすみずみまで磨いている割合】



【食べ物の咀嚼時の状況別】

	定期的に歯科検診を受けている	よくかんで食べている	砂糖など入った飲食物をなるべく避けている	フッ素入り歯磨剤を使っている	時間をかけて歯のすみずみまで磨いている	歯と歯の間を磨く器具を使用している	たばこを吸わない	その他	特になし	無回答
何でもかんで食べることができる N=1272	35.9	28.9	12.6	28.1	37.5	35.4	55.5	3.3	10.1	0.9
一部かめない食べ物がある N=250	29.6	28.4	15.2	21.2	29.6	27.2	54.0	3.6	14.8	0.4
かめない食べ物が多い N=15	20.0	13.3	13.3	20.0	6.7	33.3	13.3	—	53.3	—

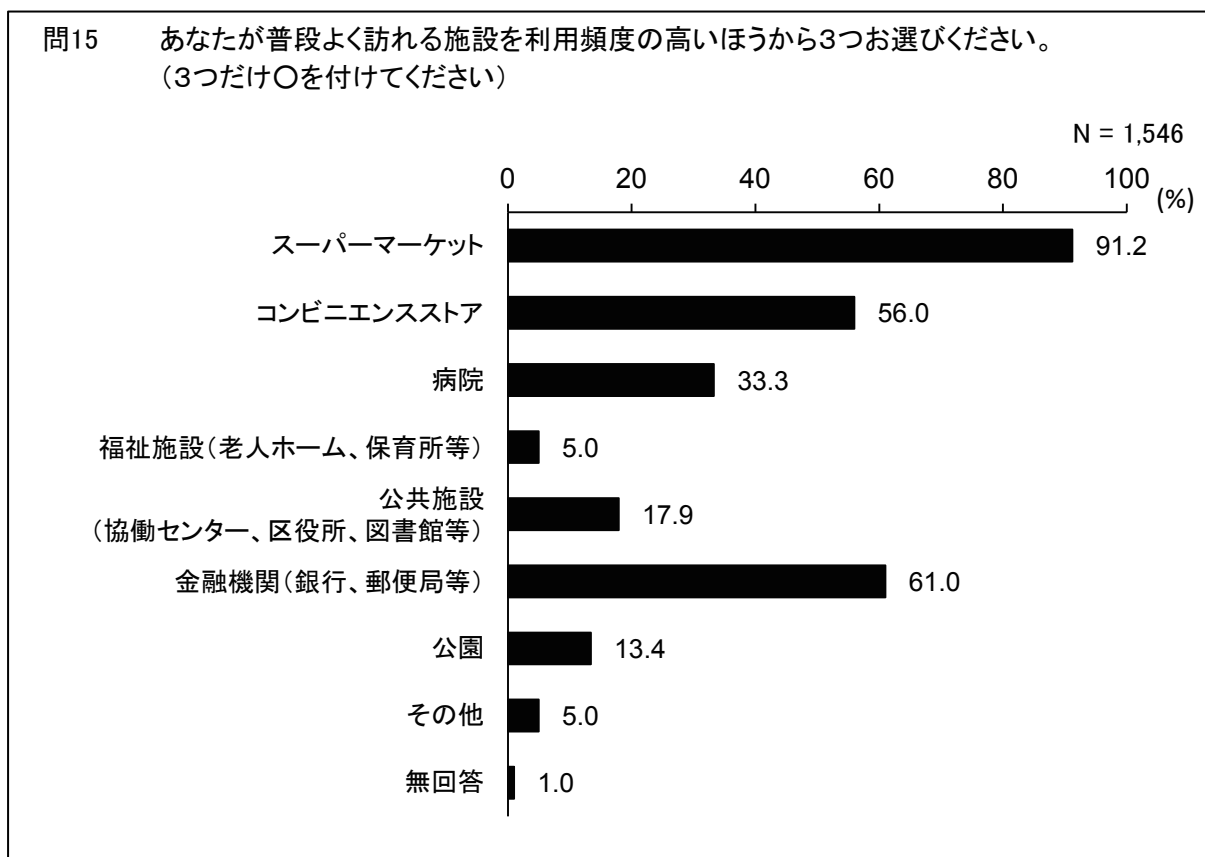
問 13 で回答した食べ物の咀嚼時の状況別でも、咀嚼時の状況が良好な人ほど「定期的に歯科検診を受けている」、「よくかんで食べている」、「時間をかけて歯のすみずみまで磨いている」の回答割合が高く、状況が良くない人ほど「特になし」の回答割合が高かった。

これらの調査結果から、定期的に歯科検診を受けることや、歯の清掃において歯と歯の間などすみずみまで意識して清掃することなどの保健行動が歯と口を健康に保ち、その状態を維持するために重要であることが示唆され、何でもかんで食べることができ、歯と口が健康である時からのこれらの取り組みが大切と思われる。

今後、それぞれのライフステージにおいて取り組みが必要な保健行動やその効果等の周知、また歯の清掃器具の使用法の指導等を含め、市民自らが実践しやすい環境づくりを支援する必要がある。

5 日常の交通手段について

(1) 普段よく訪れる施設について



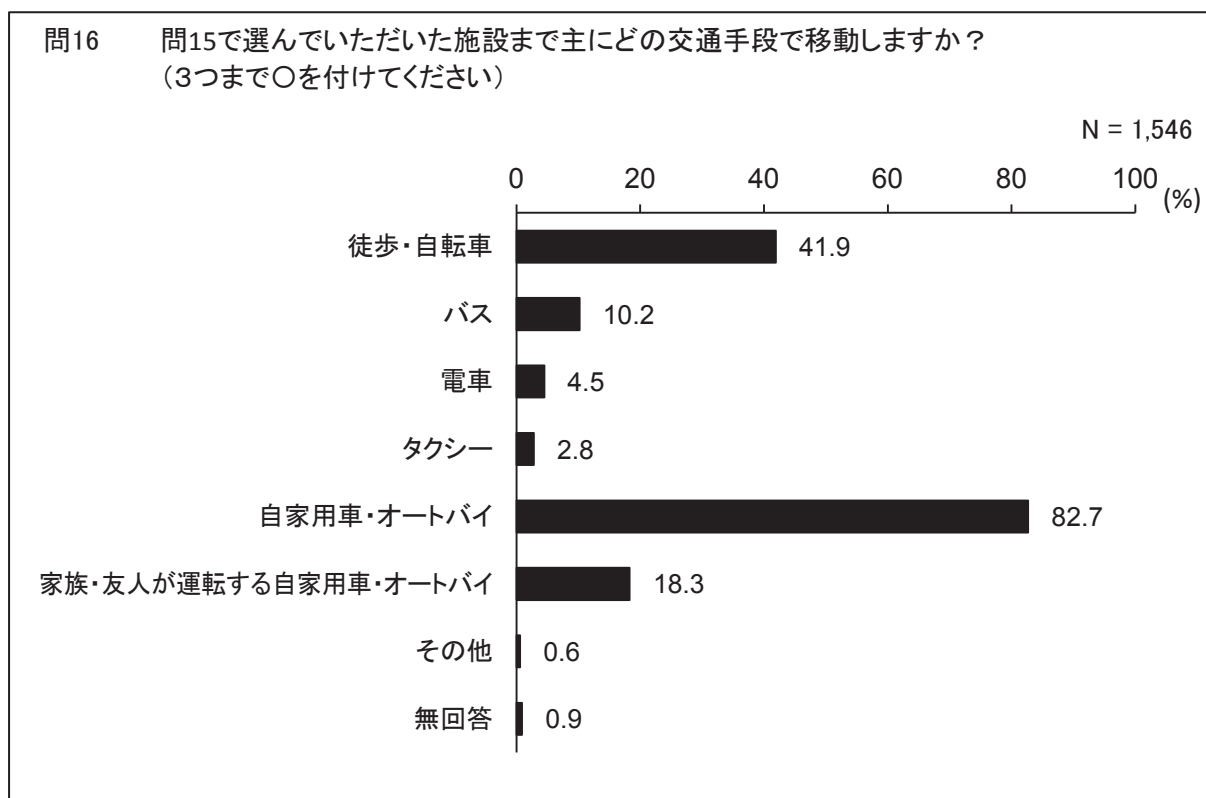
「スーパーマーケット」が 91.2%で圧倒的に高かった。次いで、「金融機関」(61.0%)、「コンビニエンスストア」(56.0%)の順に高かった。

年代別でみると、全ての世代で「スーパーマーケット」が最も多かった。「コンビニエンスストア」は若い世代ほど回答割合が高く、「病院」、「公共施設」は年齢が高いほど回答割合が高くなる傾向がみられた。

【年代別】

	スーパーマーケット	コンビニエンスストア	病院	福祉施設	公共施設	金融機関	公園	その他	無回答
20 歳代 N=138	89.9	86.2	18.1	4.3	13.0	52.9	13.8	4.3	—
30 歳代 N=212	90.1	69.8	22.2	6.6	13.7	55.2	29.7	2.4	0.5
40 歳代 N=249	90.8	72.3	20.1	2.4	15.7	64.7	15.3	6.0	0.4
50 歳代 N=271	94.5	64.2	29.2	4.8	15.5	64.9	7.0	5.5	0.4
60 歳代 N=358	91.6	39.1	42.7	5.3	21.8	62.3	9.2	6.7	2.5
70 歳以上 N=304	90.1	31.3	51.6	5.9	23.0	60.9	11.5	3.9	1.0

(2) よく訪れる施設までの交通手段



「自家用車・オートバイ」が 82.7%で圧倒的に高かった。「バス」、「電車」、「タクシー」を合わせた『公共交通』は 17.5%にとどまった。浜松市は自家用車・オートバイに依存した街であるといえる。

年代別でも、全ての年代で「自家用車・オートバイ」の回答割合が最も高いが、20歳代と70歳以上の回答割合は比較的低くなっている。反対に「徒歩・自転車」、「バス」、「電車」、「家族・友人が運転する自家用車・オートバイ」は20歳代と70歳以上の回答割合が比較的高い。

行政区別でも、全ての区で「自家用車・オートバイ」の回答割合が最も高いが、中区は「自家用車・オートバイ」が比較的lowく、「徒歩・自転車」が比較的高くなっている。

問15で回答したよく訪れる施設別でも、全ての施設で「自家用車・オートバイ」の回答割合が最も高い。

【年代別】

	徒歩・自転車	バス	電車	タクシー	自家用車・オートバイ	家族・友人が運転する自家用車・オートバイ	その他	無回答
20歳代 N=138	51.4	13.0	6.5	0.7	76.1	22.5	—	—
30歳代 N=212	44.8	4.7	3.3	0.9	92.9	13.2	0.5	—
40歳代 N=249	43.4	5.6	2.8	—	94.0	14.1	0.4	0.8
50歳代 N=271	31.0	7.4	2.6	1.8	90.8	13.7	0.4	0.4
60歳代 N=358	39.1	8.9	4.7	3.1	82.4	20.7	0.3	1.7
70歳以上 N=304	47.7	20.1	6.9	7.6	63.8	24.7	1.6	1.3

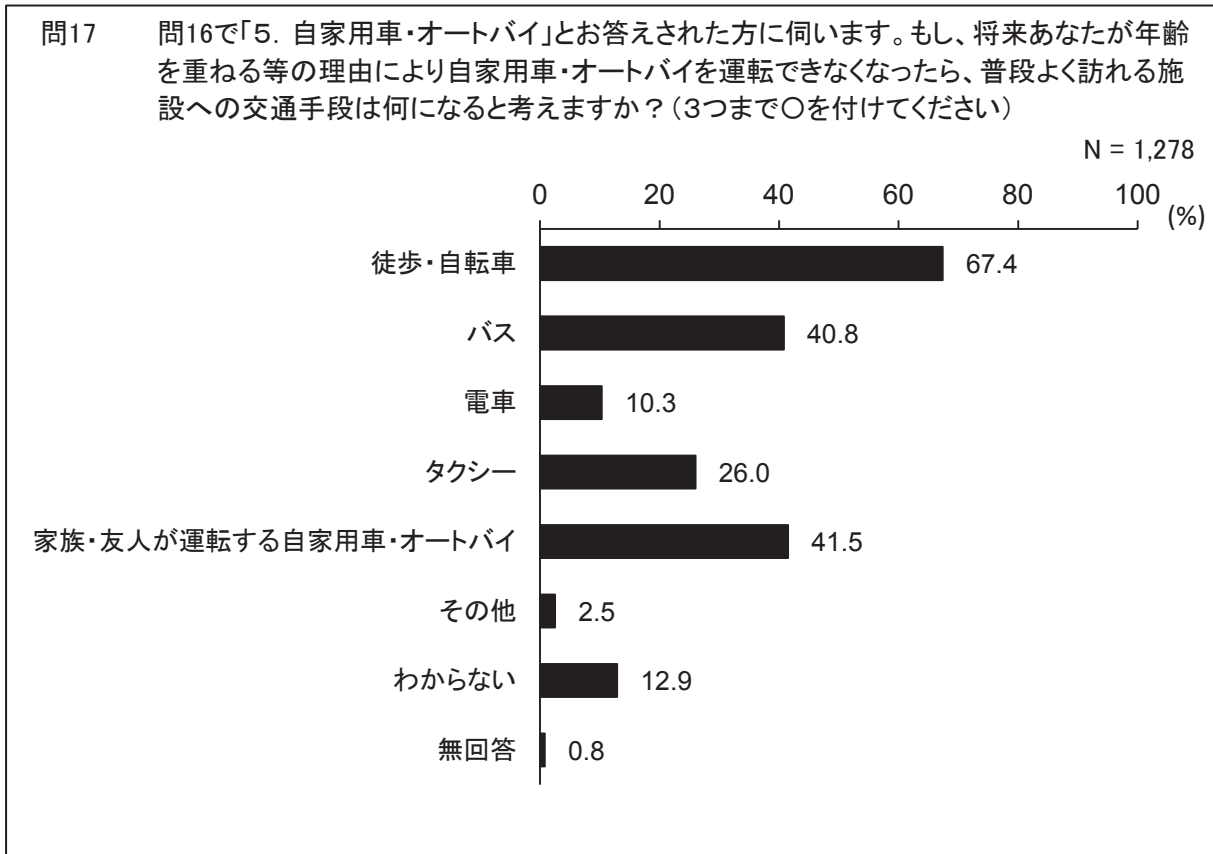
【行政区別】

	徒歩・ 自転車	バス	電車	タクシー	自家用車・ オートバイ	家族・友人 が運転する 自家用車・ オートバイ	その他	無回答
中区 N=256	54.7	13.7	2.3	5.1	75.4	19.5	0.4	1.2
東区 N=225	47.6	8.0	8.4	4.4	84.9	21.3	0.4	0.4
西区 N=227	39.2	10.6	2.2	1.8	84.1	18.9	0.4	1.3
南区 N=238	45.8	15.1	2.1	1.3	81.9	18.9	0.4	—
北区 N=179	31.8	11.2	—	2.8	88.3	13.4	0.6	1.1
浜北区 N=222	38.7	2.7	9.5	1.4	85.6	16.7	0.9	0.5
天竜区 N=186	30.1	8.6	6.5	1.6	83.3	17.7	1.1	1.6

【よく訪れる施設別】

	徒歩・ 自転車	バス	電車	タクシー	自家用車・ オートバイ	家族・友人 が運転する 自家用車・ オートバイ	その他	無回答
スーパーマーケット N=1410	43.0	10.4	4.5	2.8	83.5	18.9	0.4	0.4
コンビニエンスストア N=865	40.8	8.3	3.9	1.6	84.6	18.2	0.2	0.5
病院 N=515	38.6	13.6	4.9	6.8	77.9	18.3	1.4	0.6
福祉施設 N=77	29.9	9.1	1.3	6.5	81.8	19.5	5.2	—
公共施設 N=277	49.8	14.4	7.2	1.1	86.6	20.2	0.7	—
金融機関 N=943	41.4	9.2	4.6	2.2	84.0	18.1	0.2	0.1
公園 N=207	63.3	7.7	5.8	0.5	86.5	17.4	—	0.5
その他 N=77	40.3	24.7	9.1	3.9	83.1	22.1	—	—

(3) 自家用車・オートバイを運転できなくなった時の代替交通手段



「徒歩・自転車」が 67.4%で最も高く、次いで「家族・友人が運転する自家用車・オートバイ」(41.5%)、「バス」(40.8%) の順となった。「バス」、「電車」、「タクシー」を合わせた『公共交通』は 77.1%となった。「徒歩・自転車」の回答割合が最も高いことから、歩行者・自転車が安全に通行できる空間の整備が必要である。また、問 16 では少数意見だった『公共交通』の利用意向も高まることから、自動車と公共交通がバランスよく機能するまちづくりの推進が必要である。

年代別で見ると、全ての年代で「徒歩・自転車」の回答割合が最も高いが、70 歳以上は相対的に低い。70 歳以上は『公共交通』の回答割合が比較的高くなっており、そのなかでも「タクシー」の回答割合が高い。

行政区別で見ると、天竜区以外は「徒歩・自転車」の回答割合が最も高い。天竜区は「家族・友人が運転する自家用車・オートバイ」が最も高くなっている。相対的にみると、中区は「バス」の回答割合が高く、浜北区は「電車」の回答割合が高かった。行政区によって傾向が異なることから、地域性を考慮したまちづくり推進が必要といえる。

【年代別】

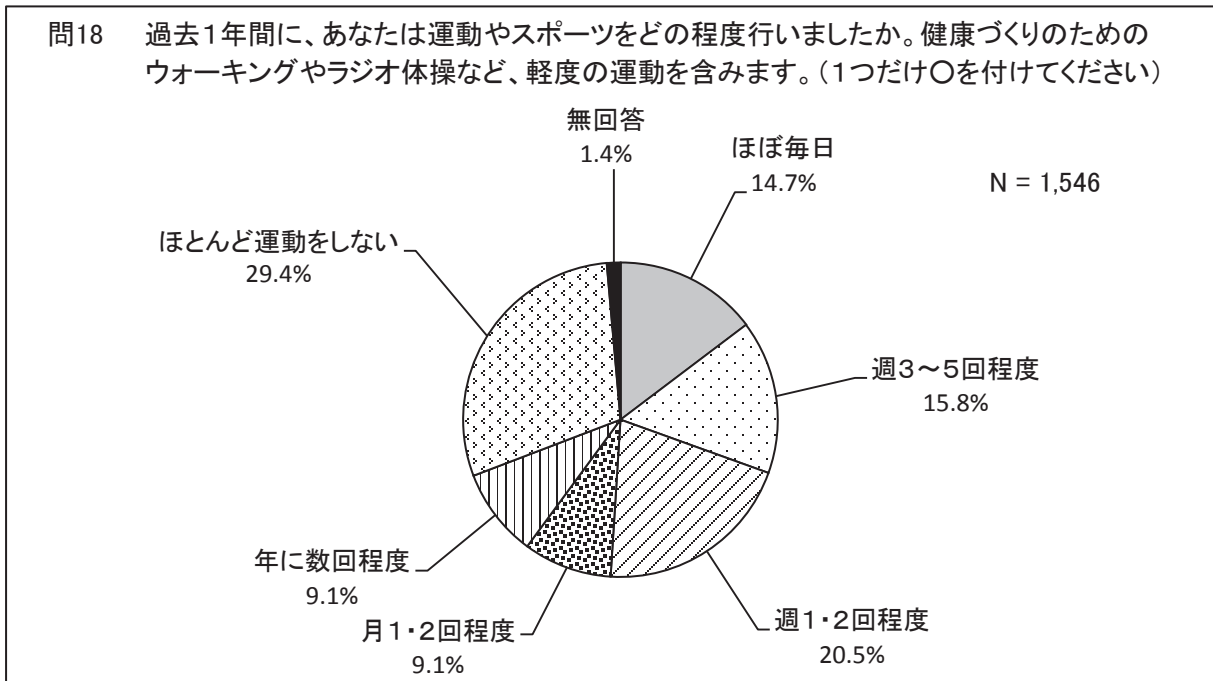
	徒歩・ 自転車	バス	電車	タクシー	自家用車・ オートバイ	家族・友人 が運転する 自家用車・ オートバイ	その他	無回答
20 歳代 N=105	71.4	51.4	15.2	8.6	40.0	1.0	11.4	1.0
30 歳代 N=197	73.1	40.6	11.7	25.9	43.1	0.5	13.7	0.5
40 歳代 N=234	74.4	41.5	6.0	24.4	35.0	3.4	12.8	0.9
50 歳代 N=246	65.0	41.9	8.1	22.8	45.5	4.9	10.6	0.4
60 歳代 N=295	63.4	33.6	10.5	29.2	43.1	1.7	16.3	1.0
70 歳以上 N=194	61.3	43.8	14.4	36.6	42.3	2.6	10.3	1.0

【行政区別】

	徒歩・ 自転車	バス	電車	タクシー	自家用車・ オートバイ	家族・友人 が運転する 自家用車・ オートバイ	その他	無回答
中区 N=193	78.8	60.1	5.7	30.1	36.3	1.0	8.8	—
東区 N=191	73.3	30.9	14.7	27.2	40.8	2.6	11.0	2.1
西区 N=191	63.9	46.1	6.3	27.2	45.0	2.1	13.6	—
南区 N=195	75.4	41.0	2.6	24.1	37.9	1.0	12.8	1.5
北区 N=158	60.1	49.4	8.2	21.5	44.3	3.2	13.9	0.6
浜北区 N=190	70.5	22.6	20.5	30.5	43.2	—	13.7	1.1
天竜区 N=155	44.5	36.1	15.5	19.4	45.8	9.0	16.8	—

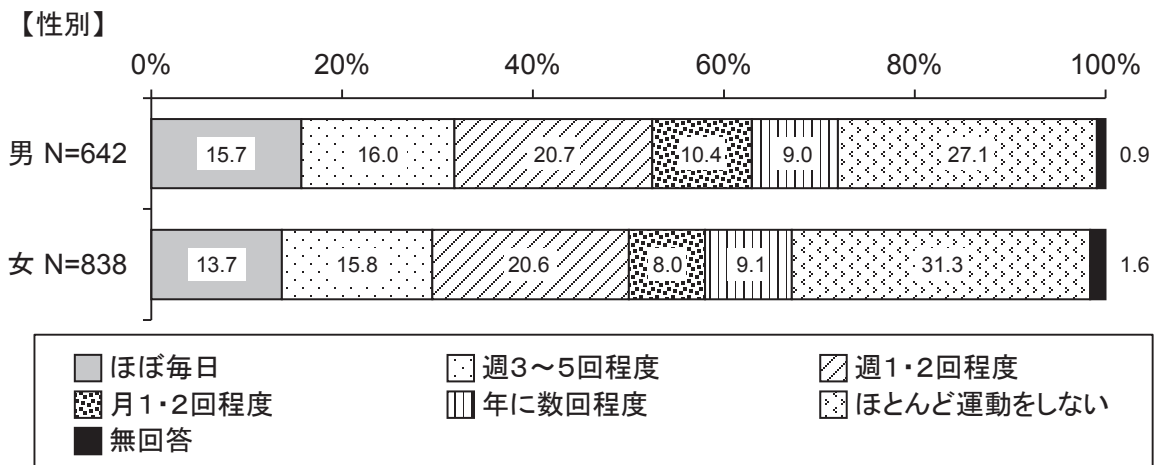
6 浜松市のスポーツ推進について

(1) 運動やスポーツの頻度

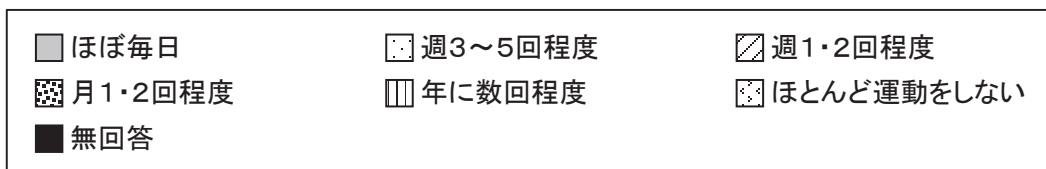
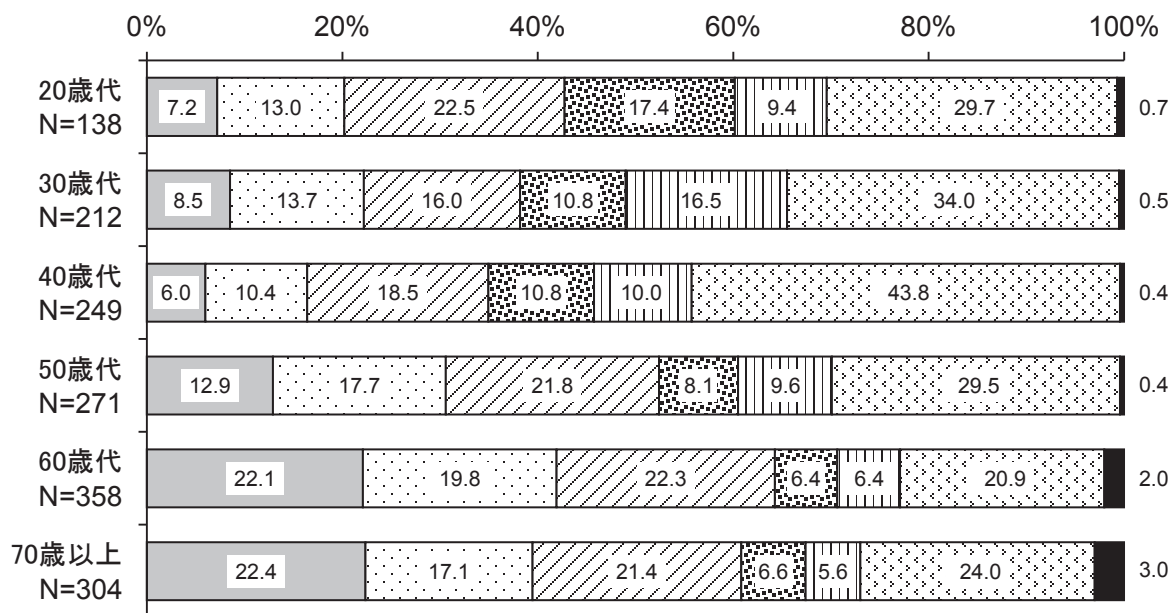


「ほぼ毎日」、「週3～5回程度」、「週1・2回程度」を合わせた『週1回以上』が51.0%、「ほぼ毎日」、「週3～5回程度」を合わせた『週3回以上』が30.5%、「ほとんど運動をしない」が29.4%だった。『週1回以上』は、現計画である浜松市スポーツ推進計画の数値目標65%以上には到達していない。また、『週3回以上』は、現計画の数値目標30%を達成することができたが、「ほとんど運動をしない」が約3割に達し、スポーツをする人としない人の両極端な現状が確認された。今後、週1回以上の実施者を増やしたり、ほとんど運動をしない人を減らしたりするために、手軽に実施できる軽スポーツ、レクリエーションスポーツを中心にした生涯スポーツの普及・啓発をより推進させる必要がある。また、スポーツをしない人に、興味を持たせ、いかにスポーツをする習慣を定着させるかが課題といえる。

週1回以上のスポーツ実施は、性別でみると男性52.4%、女性50.1%と男性の方が高い。年代別でみると、60歳代が最も高く、次いで70歳以上、50歳代の順となり、40歳代が最も低かった。

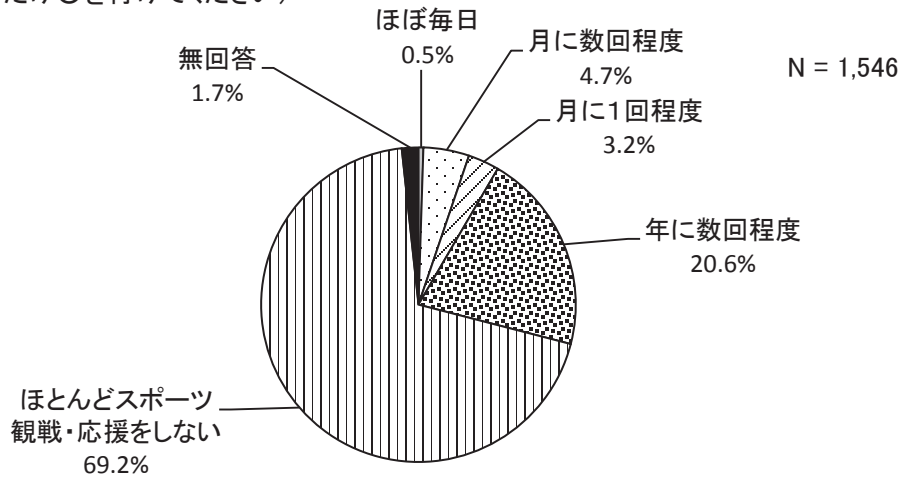


【年代別】



(2) スポーツ観戦・応援頻度

問19 過去1年間に、あなたは実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含まれます。(1つだけ○を付けてください)

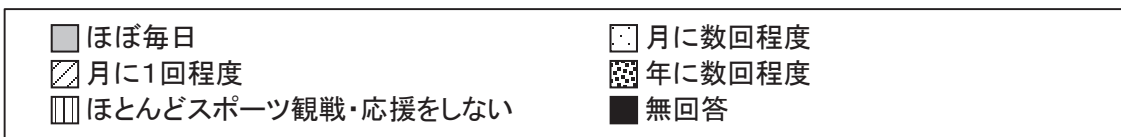
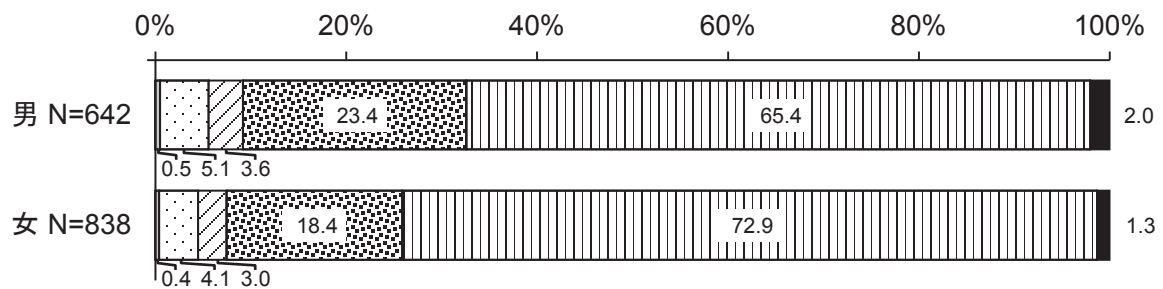


「ほとんどスポーツ観戦・応援をしない」が69.2%を占め、「ほぼ毎日」、「月に数回程度」、「月に1回程度」、「年に数回程度」を合わせた『年1回以上』は29.0%だった。これは現計画である浜松市スポーツ推進計画の数値目標50%に到達していない現状であるため、大会誘致などによる観戦機会の確保や地域で観戦できるスポーツイベントの周知などを進めていくことが課題といえる。

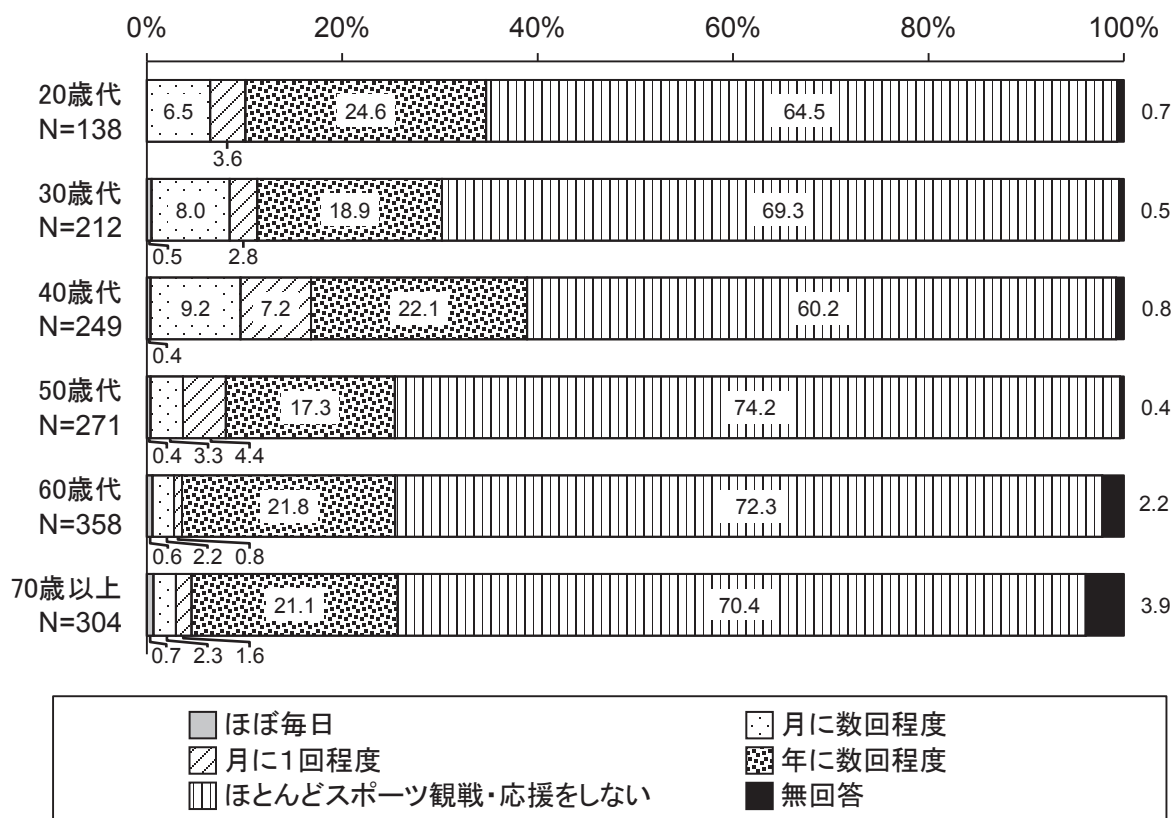
性別でみると、男性の方が女性よりも『年1回以上』の回答割合が高い。

年代別でみると、『年1回以上』の回答割合は、40歳代が最も高く、次いで20歳代、30歳代の順となった。

【性別】

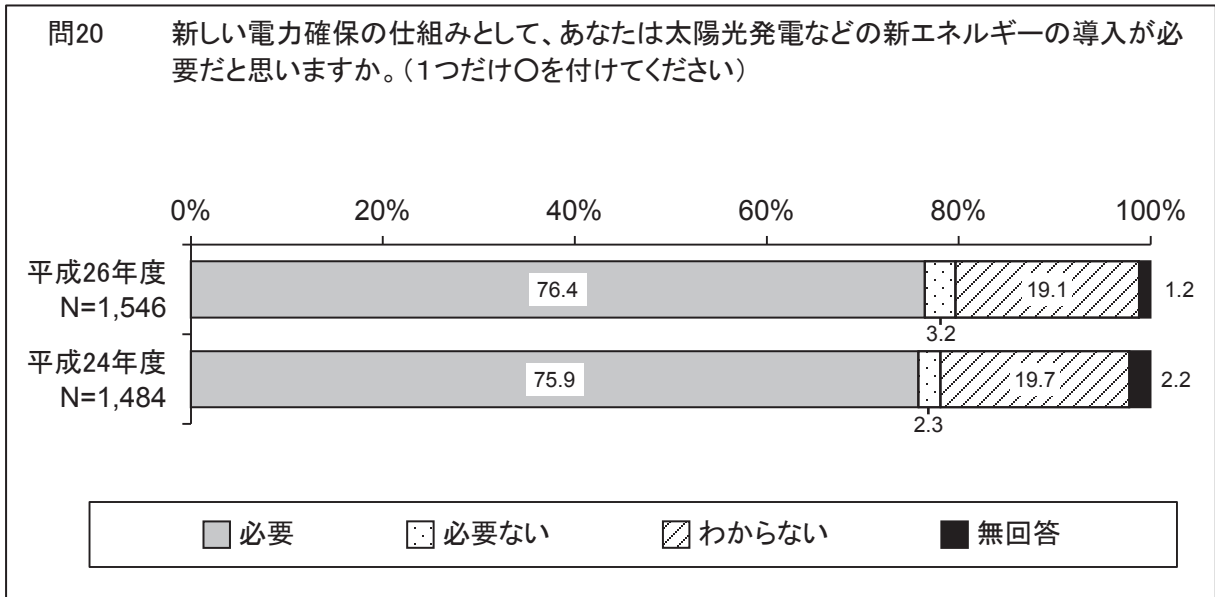


【年代別】



7 新エネルギーの導入について

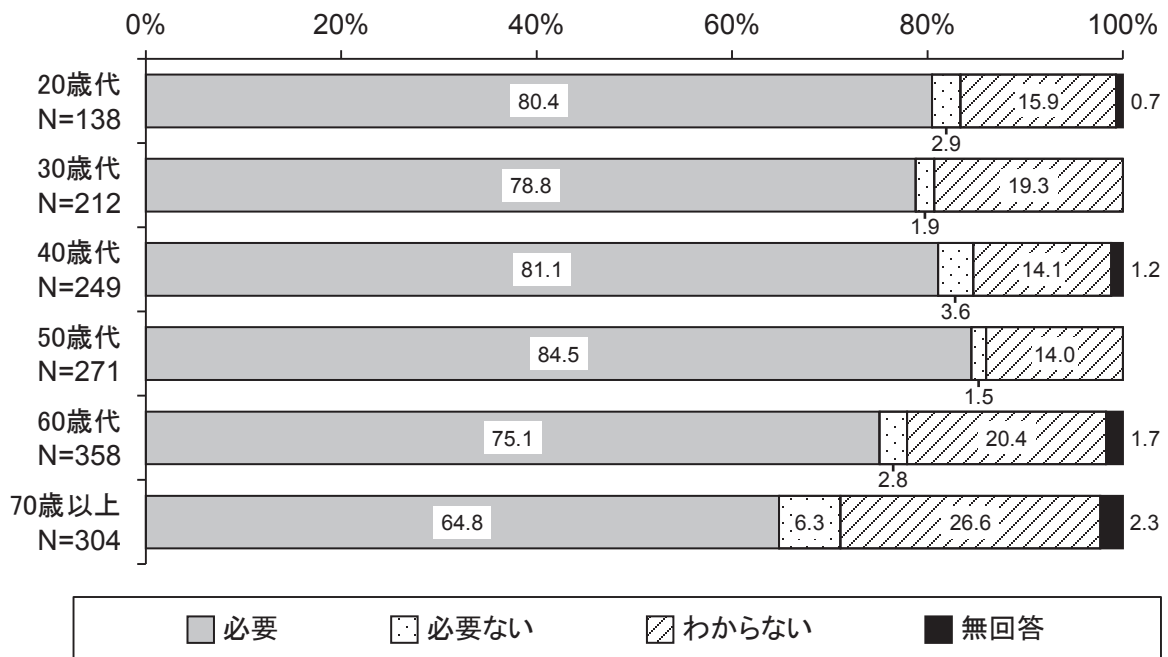
(1) 新エネルギー導入の必要性



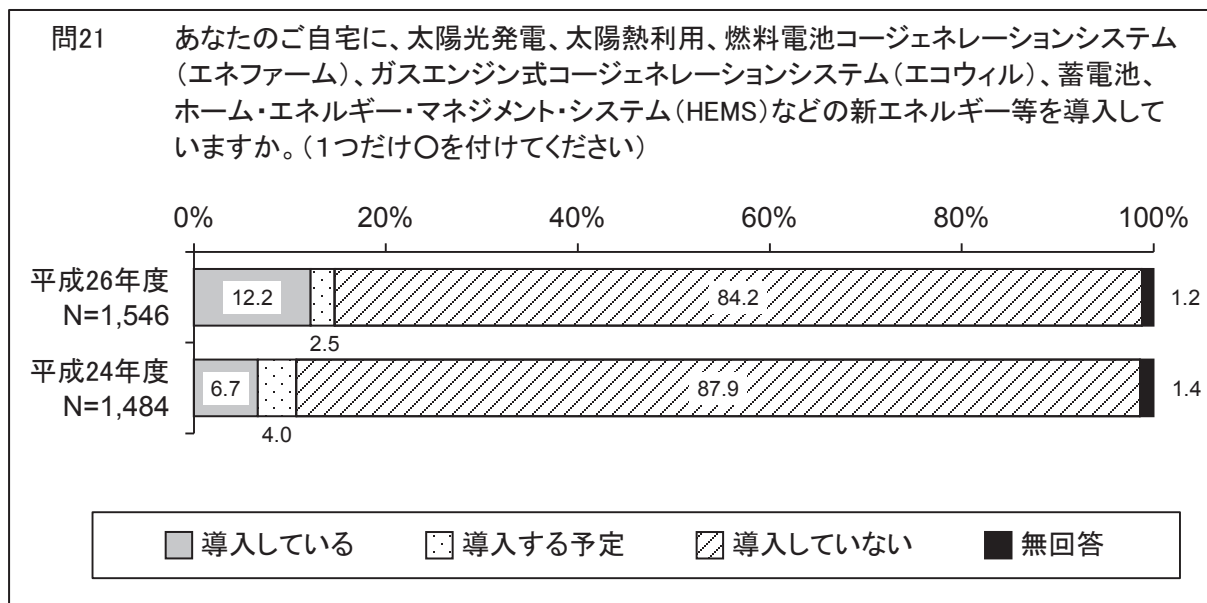
新エネルギーの導入について76.4%が「必要」と感じ、「必要ない」はわずか3.2%にとどまっております。新エネルギーに対する市民の関心の高さがうかがえる。ただし「必要」の回答割合は、平成24年度調査の75.9%とほぼ横ばいとなっている。

年代別でみると、「必要」の回答割合は50歳代が84.5%で最も高く、50歳代未満の世代も比較的高い。50歳代を超えると「必要」の回答割合が低くなり、70歳以上は64.8%と最も低い。

【年代別】



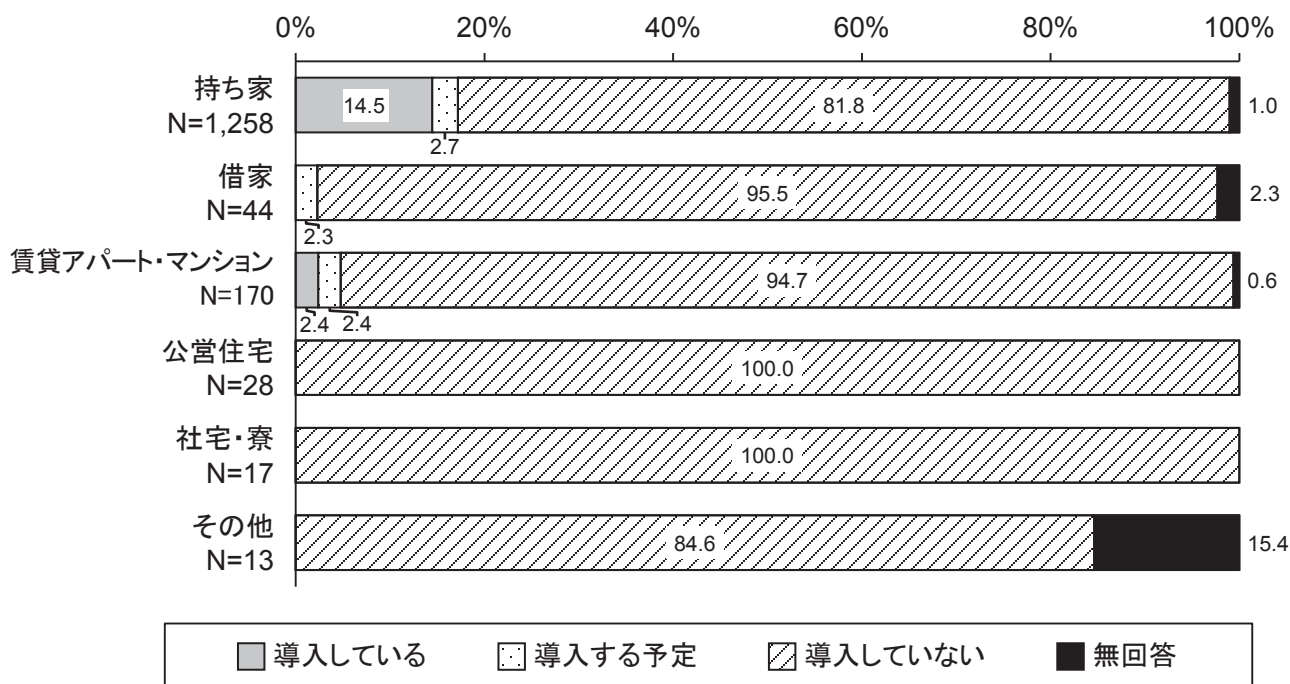
(2) 新エネルギー導入状況



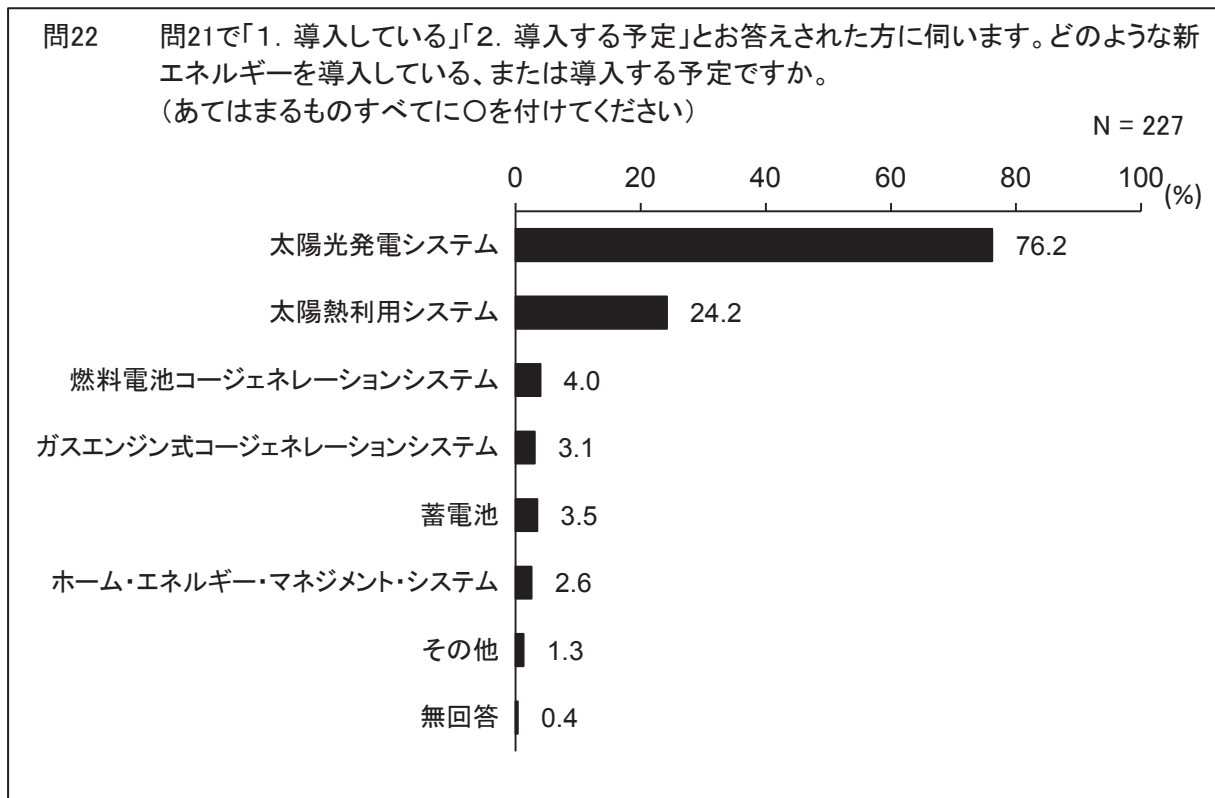
「導入している」が12.2%、「導入する予定」が2.5%となり、「導入している」と「導入する予定」を合わせて14.7%となった。平成24年度調査の10.7%と比べ確実に導入が進んできている。しかしながら、新エネルギー導入を「必要」と感じている人が多いにもかかわらず、導入が進んでいない。(問20参照)

居住形態が持ち家の人に限ってみると、「導入している」が14.5%となり、平成24年度調査の8.2%から6.3ポイント上昇した。持ち家以外の方は、新エネルギー導入の意思決定が自分ではできないので、「導入していない」の回答割合が圧倒的に高くなっている。

【居住形態別】



(3) 導入する（予定の）新エネルギー



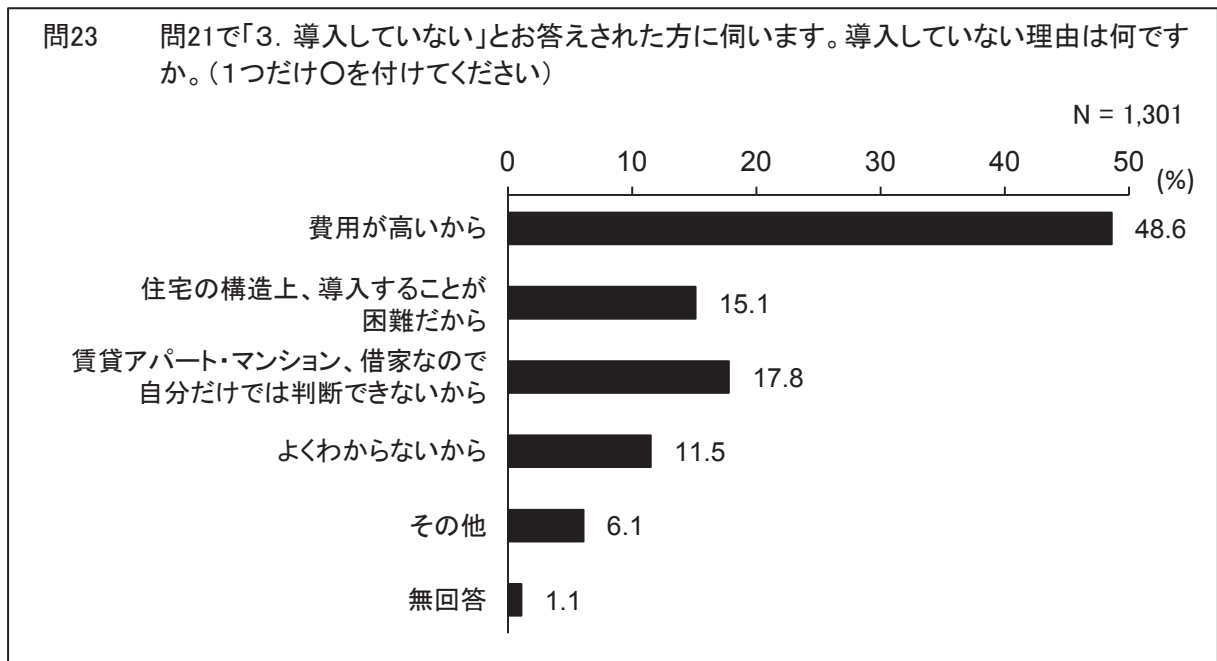
「導入している」または「導入する予定」である新エネルギー等については、「太陽光発電システム」が 76.2%、「太陽熱利用システム」が 24.2%となっており、平成 24 年度調査と同様に太陽エネルギーに集中している。

行政区別でみると、全ての区で「太陽光発電システム」の回答割合が最も高い。天竜区は「太陽熱利用システム」の回答割合が比較的高かった。

【行政区別】

	太陽光発電システム	太陽熱利用システム	燃料電池コージェネレーションシステム	ガスエンジン式コージェネレーションシステム	蓄電池	ホーム・エネルギー・マネジメント・システム	その他	無回答
中区 N=24	70.8	25.0	4.2	8.3	4.2	8.3	—	—
東区 N=40	72.5	27.5	10.0	5.0	7.5	5.0	2.5	—
西区 N=29	86.2	10.3	—	—	3.4	3.4	—	—
南区 N=37	73.0	29.7	5.4	2.7	2.7	—	5.4	—
北区 N=31	83.9	12.9	6.5	3.2	—	—	—	3.2
浜北区 N=41	82.9	22.0	—	—	—	2.4	—	—
天竜区 N=24	58.3	45.8	—	4.2	8.3	—	—	—

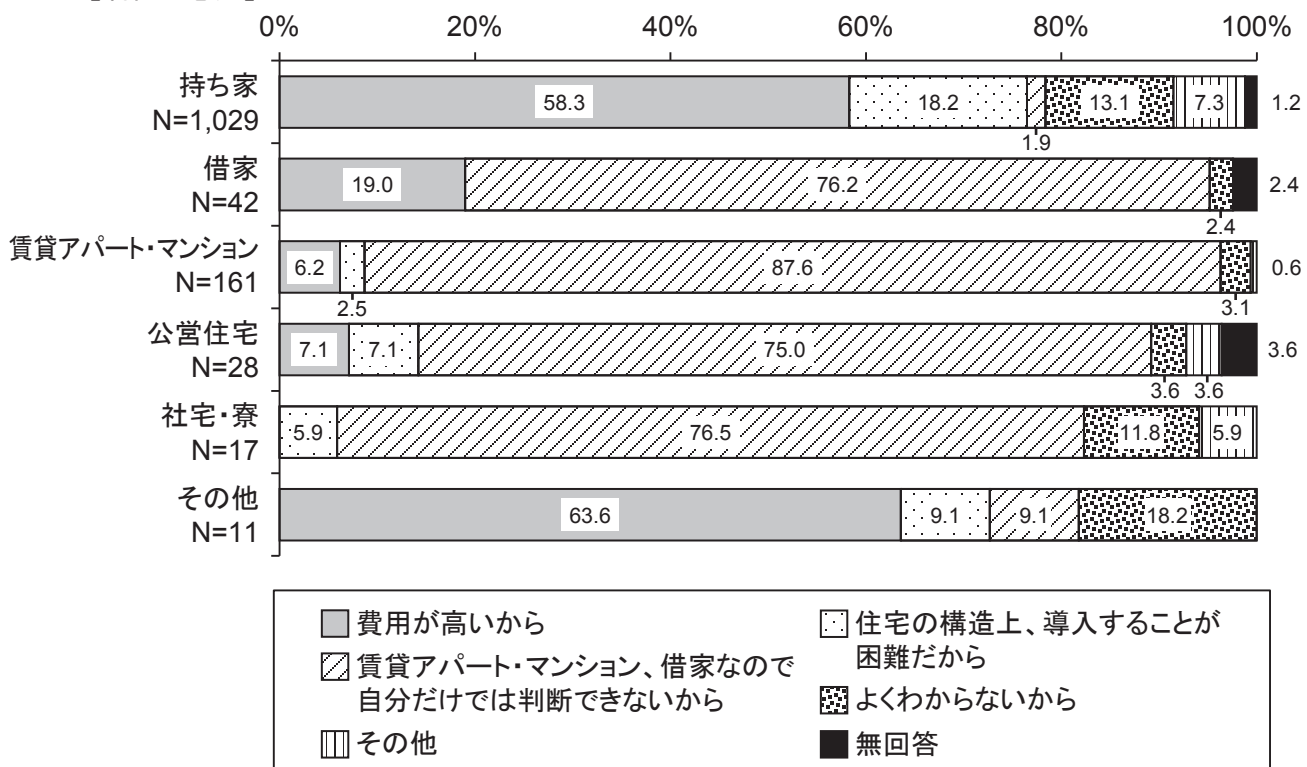
(4) 導入していない理由



新エネルギーを導入していない理由は、「費用が高いから」が 48.6%で最も多く、次いで「賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから」(17.8%)、「住宅の構造上、導入することが困難だから」(15.1%)の順となった。

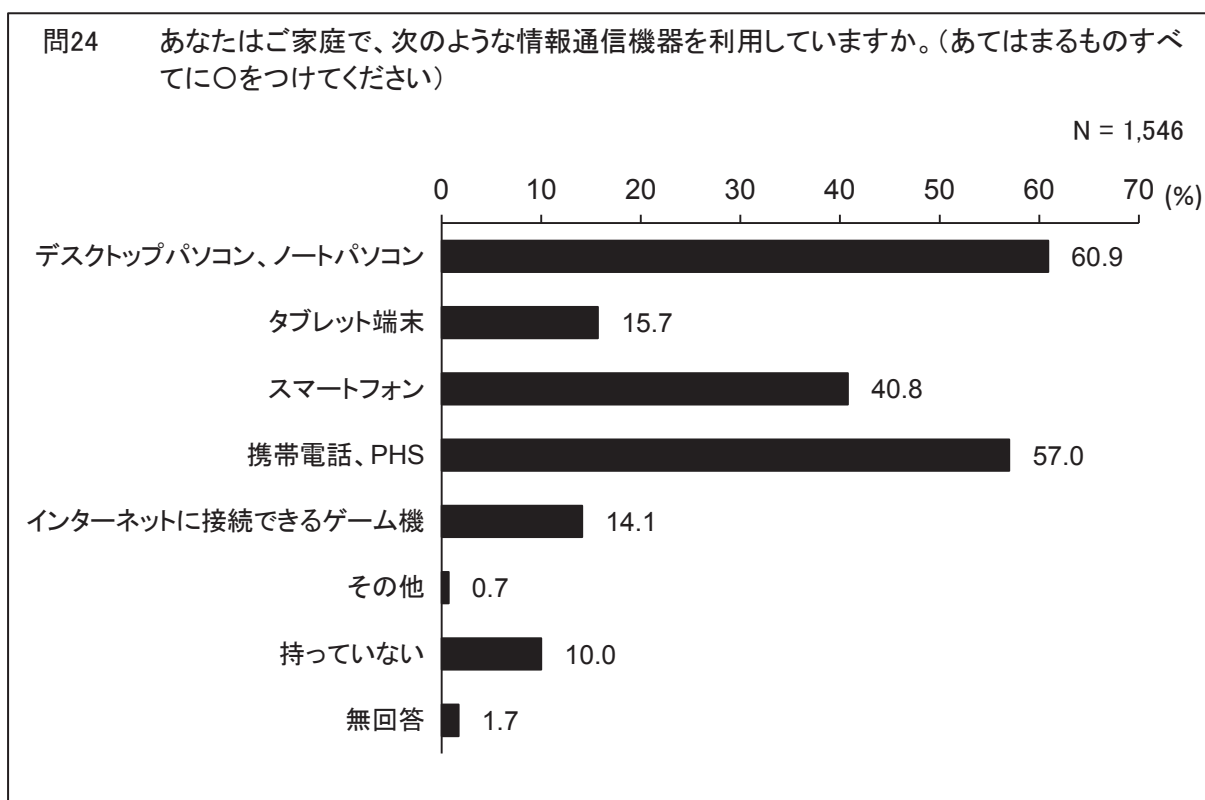
居住形態が持ち家の人に限ってみると、「費用が高いから」が 58.3%で過半数を占めている。新エネルギーを導入していくためには、国、県、市の支援の継続や設備等の価格をさらに下げていく必要があると言える。

【居住形態別】



8 地域情報化について

(1) ご家庭でどのような情報通信機器を利用していますか？



情報通信機器利用率は、「デスクトップパソコン、ノートパソコン」が 60.9%で最も高く、次いで、「携帯電話、PHS」(57.0%)、「スマートフォン」(40.8%)の順に高かった。「持っていない」は 10.0%にとどまり、多くの市民が何らかの情報通信機器を利用している。

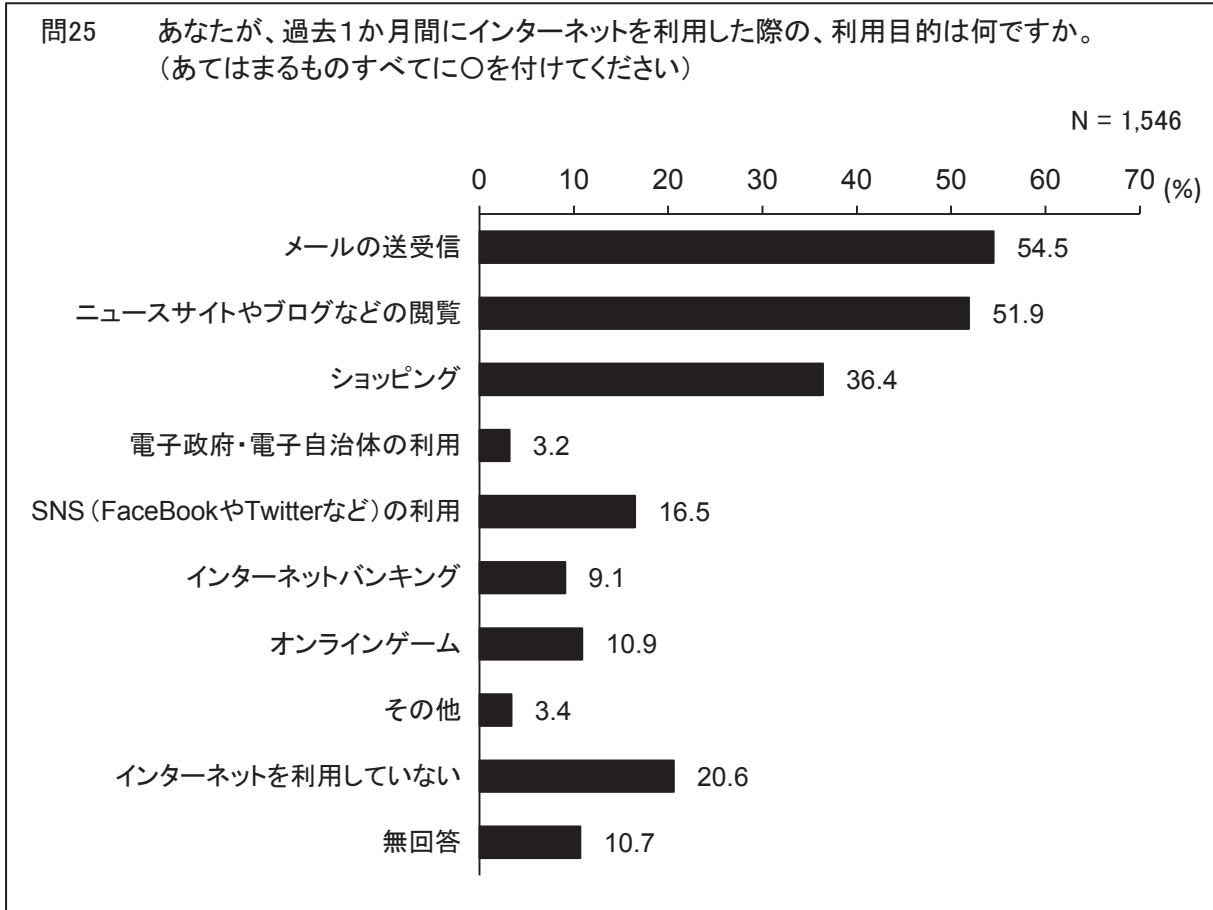
年代別でみると、50歳代までは、情報通信機器の保有率は高い。60歳代以上になると、「持っていない」の回答割合が高くなり、70歳以上は「持っていない」が 31.3%に達している。

高齢者への情報通信機器の普及を促進する取り組みが必要である。

【年代別】

	デスクトップパソコン、ノートパソコン	タブレット端末	スマートフォン	携帯電話、PHS	インターネットに接続できるゲーム機	その他	持っていない	無回答
20歳代 N=138	79.0	24.6	88.4	31.2	30.4	—	0.7	—
30歳代 N=212	75.9	21.2	80.7	38.2	26.4	0.5	1.4	0.9
40歳代 N=249	77.9	26.5	59.8	57.0	24.9	—	2.6	0.4
50歳代 N=271	79.7	22.1	43.5	64.2	10.0	—	2.6	0.4
60歳代 N=358	48.30	8.4	14.2	75.4	7.3	1.4	10.6	2.0
70歳以上 N=304	28.0	2.3	4.9	55.3	1.3	1.3	31.3	4.3

(2) インターネットの利用目的



「メールの送受信」が 54.5%で最も高く、次いで「ニュースサイトやブログなどの閲覧」の 51.9%となり、情報収集・発信の手段として活用されていることがわかる。「電子政府・電子自治体の利用」は 3.2%にとどまった。

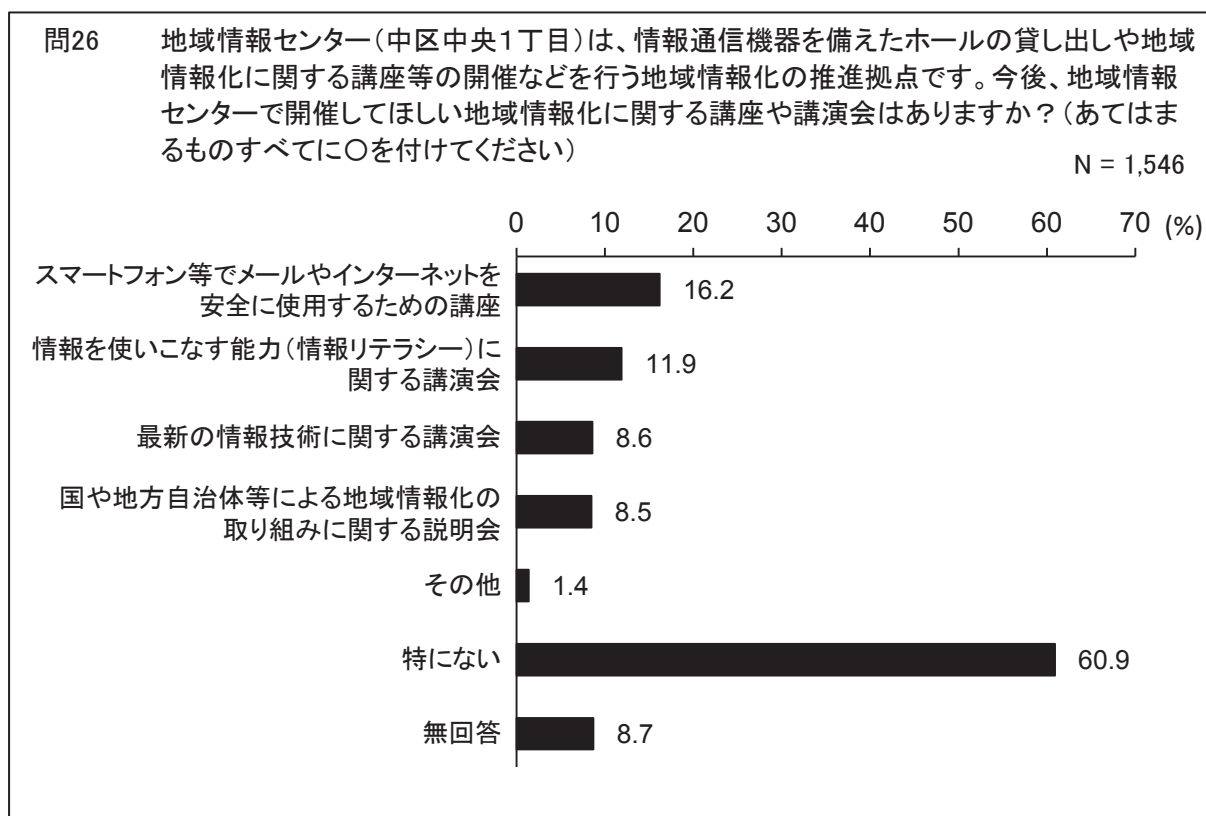
年代別でみると、20 歳代では「メールの送受信」、「ニュースサイトやブログなどの閲覧」に加え「SNSの利用」も多く、交流手段としても根付いていることがうかがえる。また、ショッピングは多くの年齢層で利用されており、生活の中でインターネットが活用されていることがわかる。50 歳代以上になると、「インターネットを利用していない」の回答割合が高くなり、60 歳代は 34.1%、70 歳以上は 43.1%が「インターネットを利用していない」と回答している。

情報通信機器の普及と合わせ、インターネット利用の促進を、高齢者の間でどう進めていくかが課題である。

【年代別】

	メールの送受信	ニュースサイトやブログなどの閲覧	ショッピング	電子政府・電子自治体の利用	SNS の利用	インターネットバンキング	オンラインゲーム	その他	インターネットを利用していない	無回答
20 歳代 N=138	83.3	87.7	57.2	2.9	60.1	11.6	27.5	0.7	0.7	1.4
30 歳代 N=212	86.8	84.4	62.3	3.3	38.7	19.8	26.4	2.4	2.8	—
40 歳代 N=249	75.1	72.7	51.8	6.0	22.9	15.3	17.3	4.8	6.4	0.8
50 歳代 N=271	64.9	62.0	46.1	2.6	9.2	10.0	7.0	5.5	14.4	1.8
60 歳代 N=358	35.2	31.0	17.0	3.6	2.2	2.8	2.5	3.4	34.1	16.8
70 歳以上 N=304	16.8	13.2	10.9	1.0	—	2.0	1.0	2.6	43.1	29.9

(3) 地域情報センターで開催してほしい講座や講演会



「特にない」が 60.9% で高かった。「特にない」以外では、「スマートフォン等でメールやインターネットを安全に使用するための講座」が 16.2% で高かった。

年代別でみると、いずれの年代でも「特にない」が最も高かった。40～50歳代は「スマートフォン等でメールやインターネットを安全に使用するための講座」が相対的に高かった。

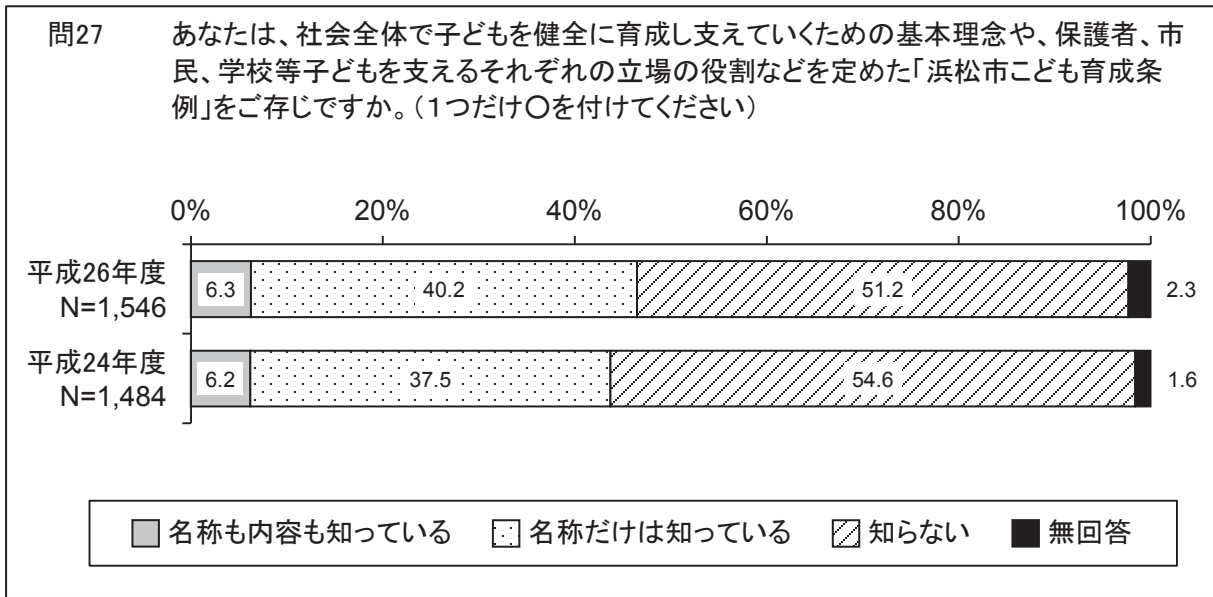
比較的需要の高いスマートフォン等の講座を通して情報通信機器の普及やインターネットへの理解を深め、合わせて地域情報センターの知名度を向上させていくことが必要である。

【年代別】

	スマートフォン等でメールやインターネットを安全に使用するための講座	情報を使いこなす能力(情報リテラシー)に関する講演会	最新の情報技術に関する講演会	国や地方自治体等による地域情報化の取り組みに関する説明会	その他	特にない	無回答
20歳代 N=138	13.8	10.1	12.3	5.8	—	69.6	2.9
30歳代 N=212	19.8	19.8	12.7	10.4	2.4	59.4	0.9
40歳代 N=249	21.7	14.1	8.4	9.6	1.6	60.2	2.0
50歳代 N=271	23.2	14.4	10.7	11.4	2.2	56.8	3.0
60歳代 N=358	15.6	11.7	7.8	8.4	0.8	58.7	12.8
70歳以上 N=304	4.6	3.9	3.6	5.6	1.3	65.1	21.4

9 子育て支援について

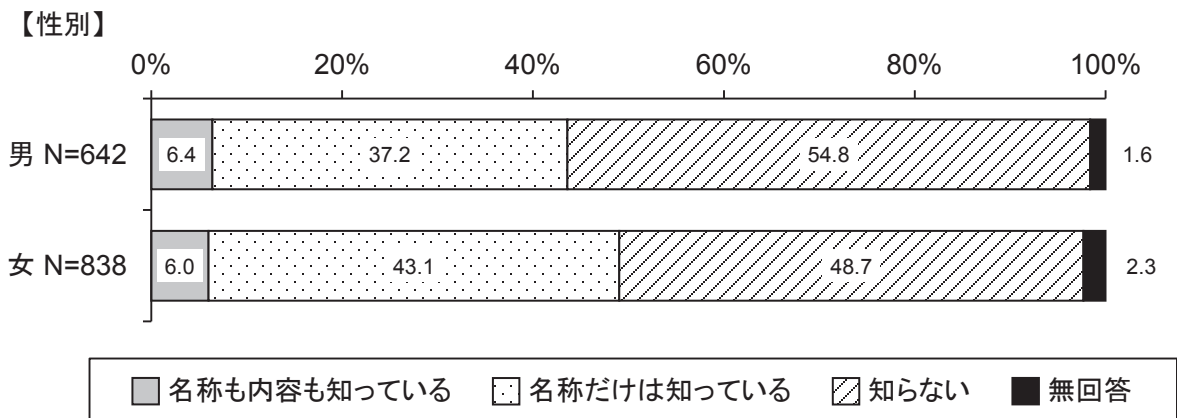
(1) 「浜松市こども育成条例」について



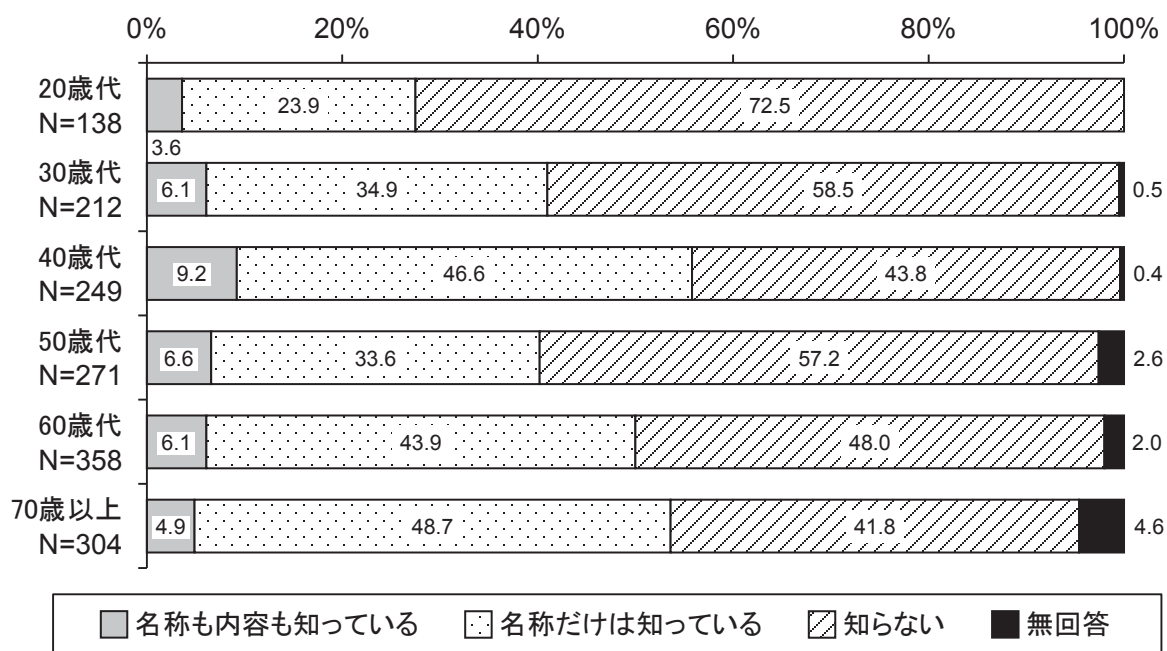
「名称も内容も知っている」(6.3%)と、「名称だけは知っている」(40.2%)を合わせた『認知度』は46.5%となった。平成24年度調査と比較すると、『認知度』は2.8ポイント上昇した。ただし、「名称も内容も知っている」は平成24年度調査とほぼ横ばいとなっており、今後は内容の周知を図っていく必要がある。

性別でみると、『認知度』は男性が43.6%、女性が49.1%となり、女性の方が5.5ポイント高かった。

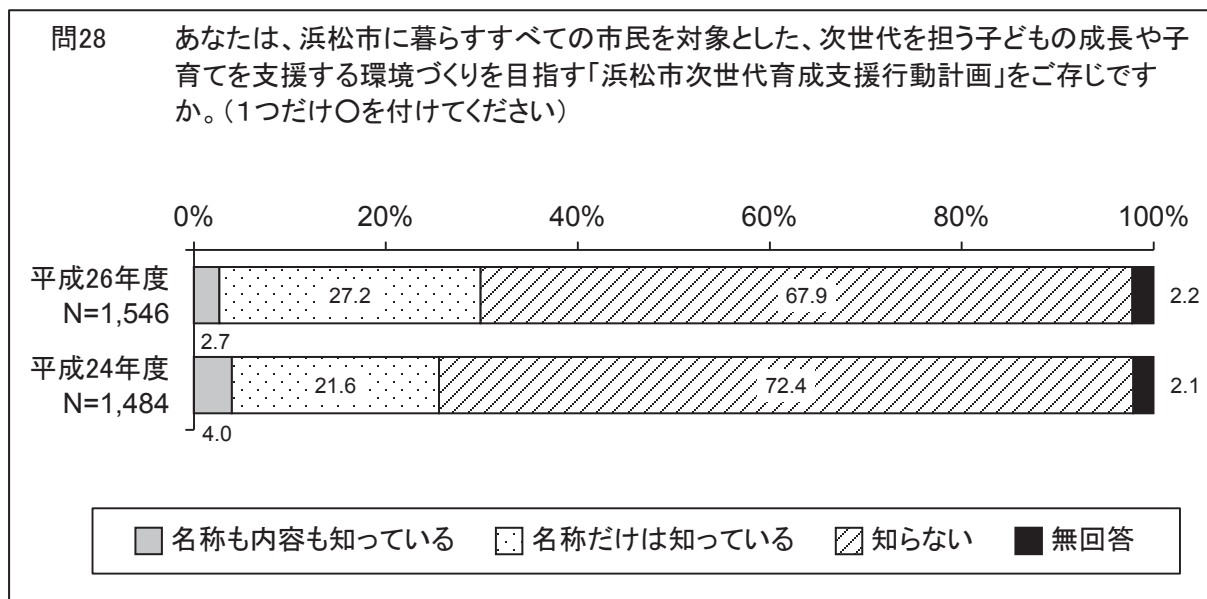
年代別でみると、40歳代の『認知度』が55.8%で最も高く、次いで70歳以上(53.6%)、60歳代(50.0%)の順に高かった。最も『認知度』が低かったのは20歳代の27.5%となった。



【年代別】



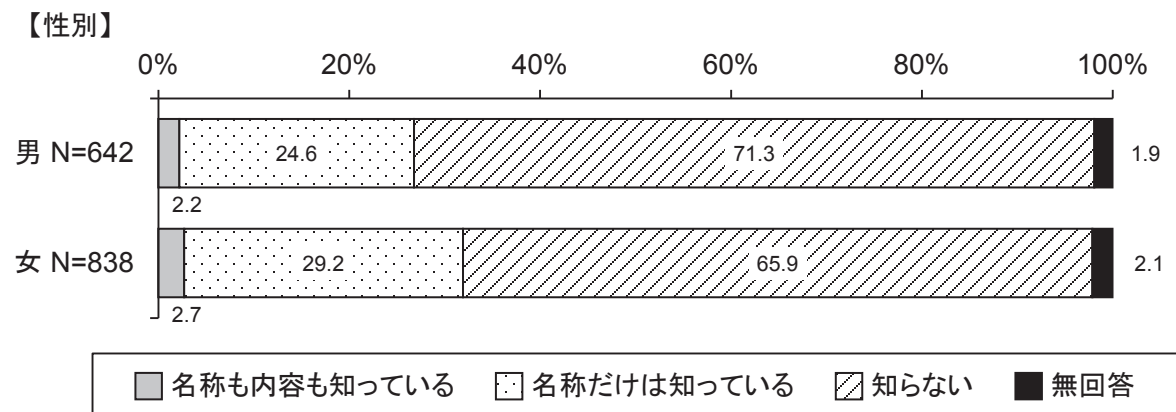
(2) 「浜松市次世代育成支援行動計画」について



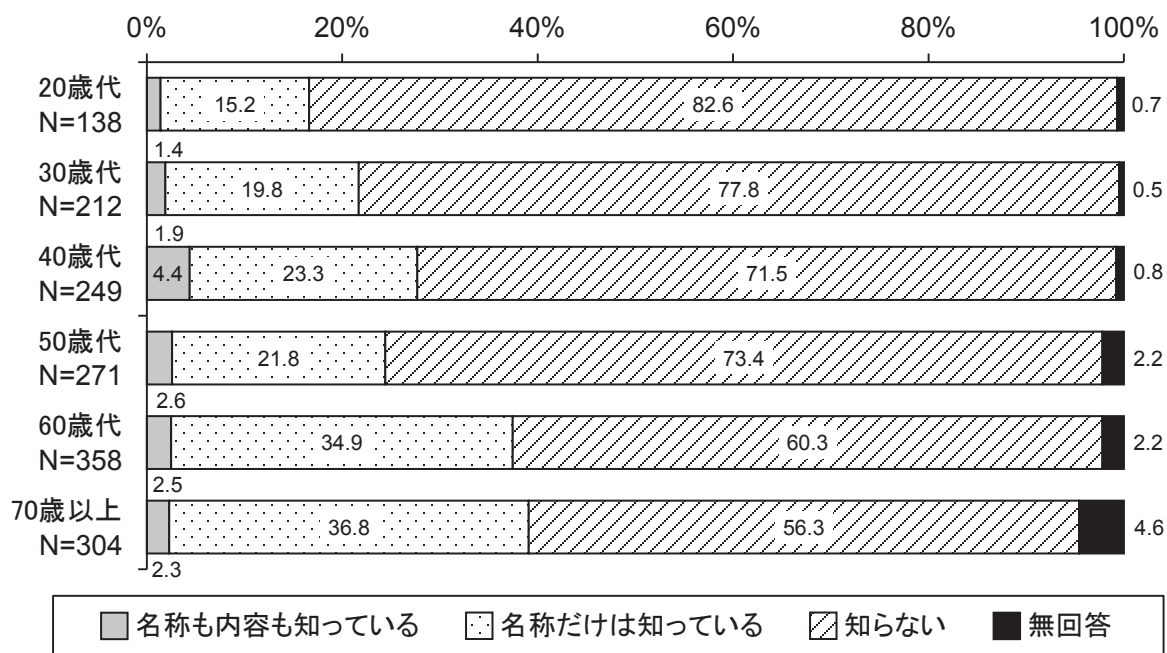
「名称も内容も知っている」(2.7%)と、「名称だけは知っている」(27.2%)を合わせた『認知度』は29.9%となった。平成24年度調査と比較すると、『認知度』は4.3ポイント上昇した。

性別でみると、『認知度』は男性が26.8%、女性が31.9%となり、女性の方が5.1ポイント高かった。

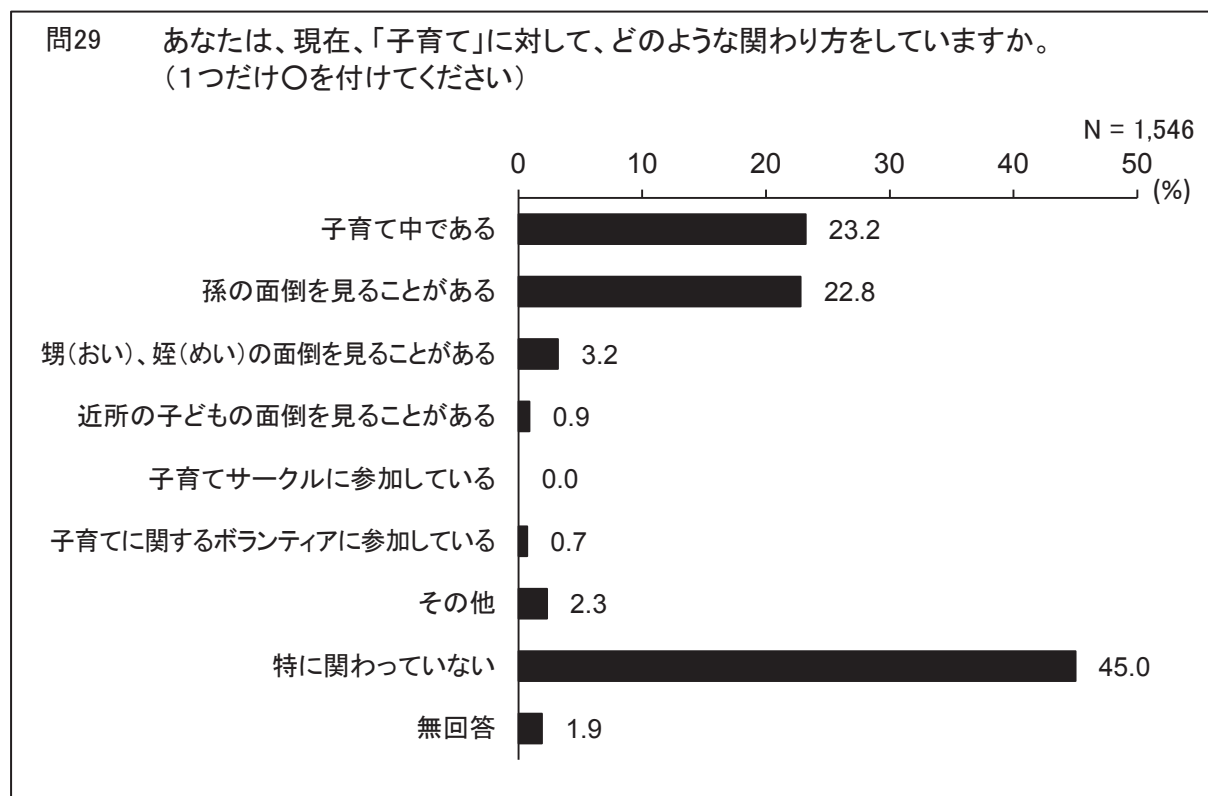
年代別でみると、年齢が高くなるほど『認知度』も高くなる傾向がある。特に20～30歳代の若い世代に認知されていない状況であり、周知を強化する必要がある。



【年代別】



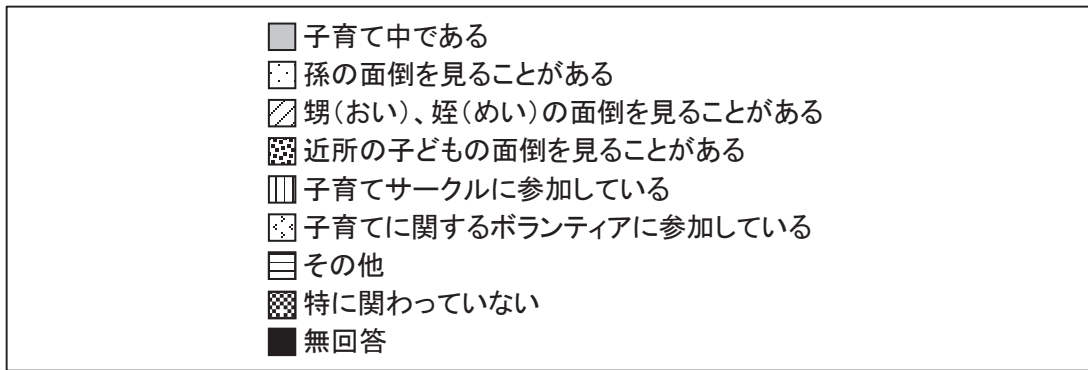
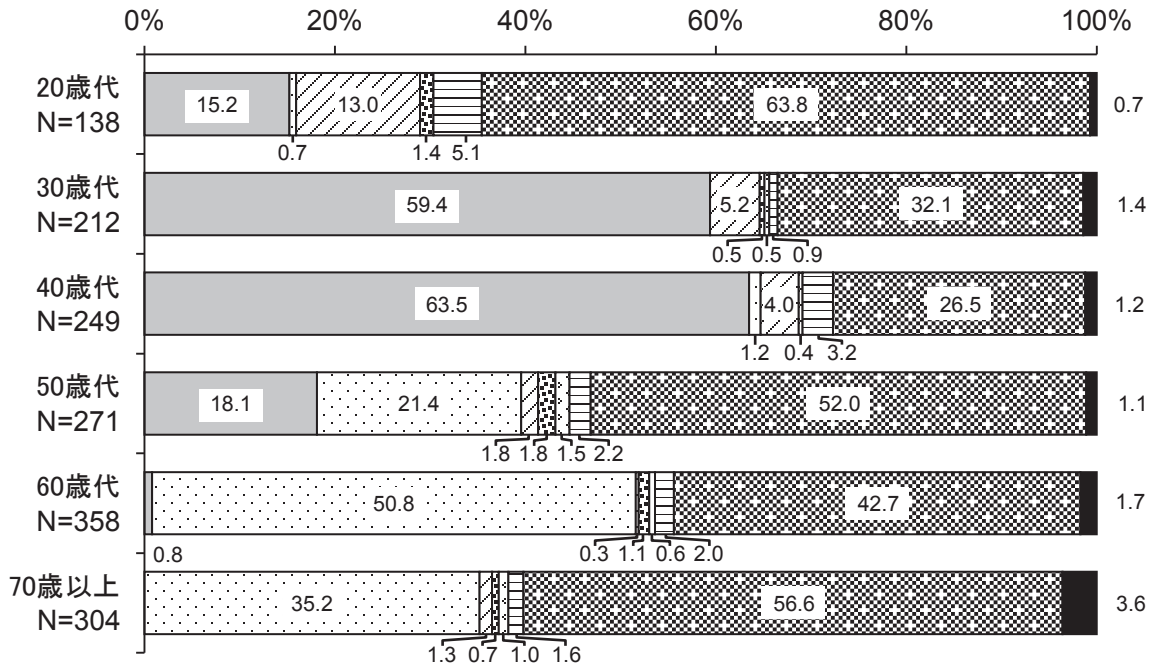
(3) 子育てへの関わりについて



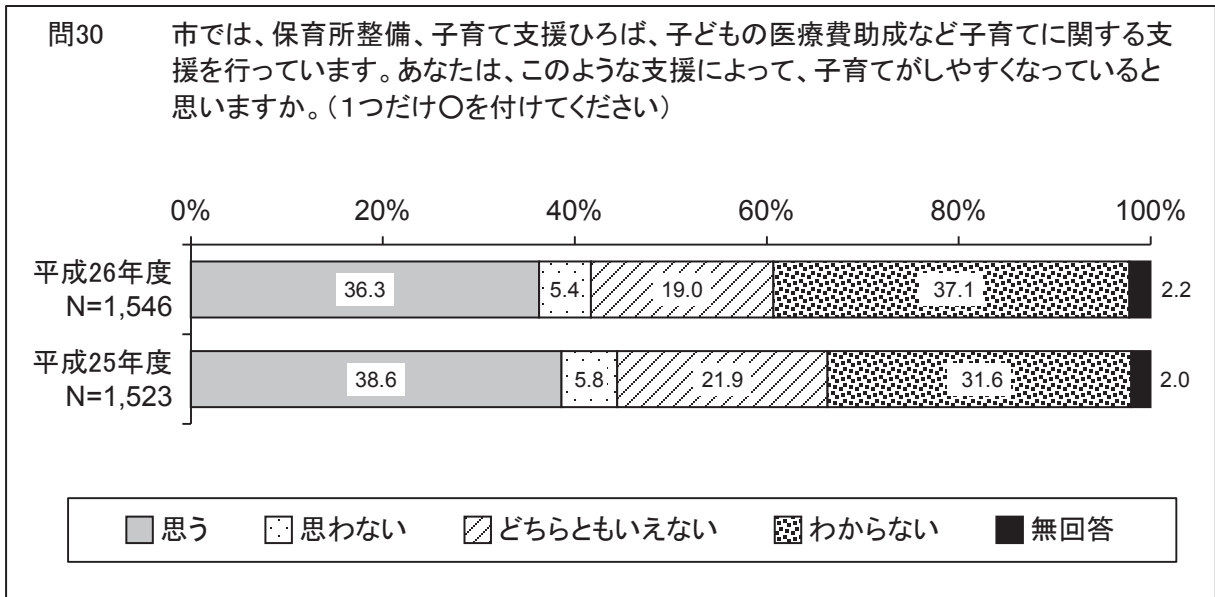
「特に関わっていない」が 45.0%と最も多く、次いで「子育て中である」(23.2%)、「孫の面倒を見ることがある」(22.8%)の順となっている。また、身内以外の子どもと関わる、「近所の子どもの面倒を見ることがある」が 0.9%、「子育てに関するボランティアに参加している」が 0.7%といずれも低い数値となっている。三世代交流や地域の子どもと接する機会を増やし、社会全体で子どもを育てる気運を醸成していく必要がある。

年代別でみると、「子育て中である」は、30歳代が 59.4%、40歳代が 63.5%と約6割を占めている。50歳代になると、「孫の面倒を見ることがある」が「子育て中である」を上回っている。

【年代別】



(4) 子育てしやすくなっているか

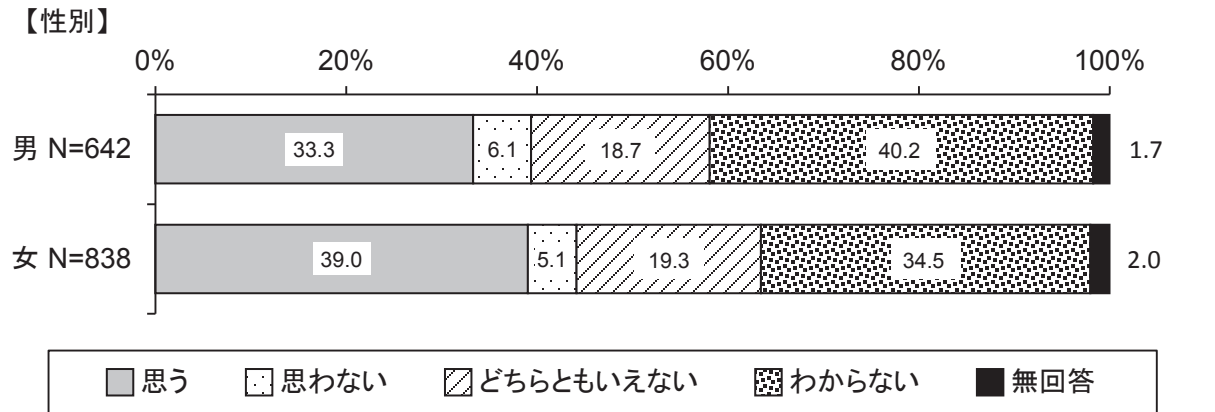


「思う」が36.3%と高く、「思わない」の5.4%を30.9ポイント上回った。平成25年度調査と比較すると、「思う」の回答割合は2.3ポイント低下した。また「わからない」の回答割合が、平成25年度調査から5.5ポイント上昇している。問29子育てへの関わりについて「特に関わっていない」が、平成25年度調査の43.7%より増えていることと関係があるのではないかと推察する。

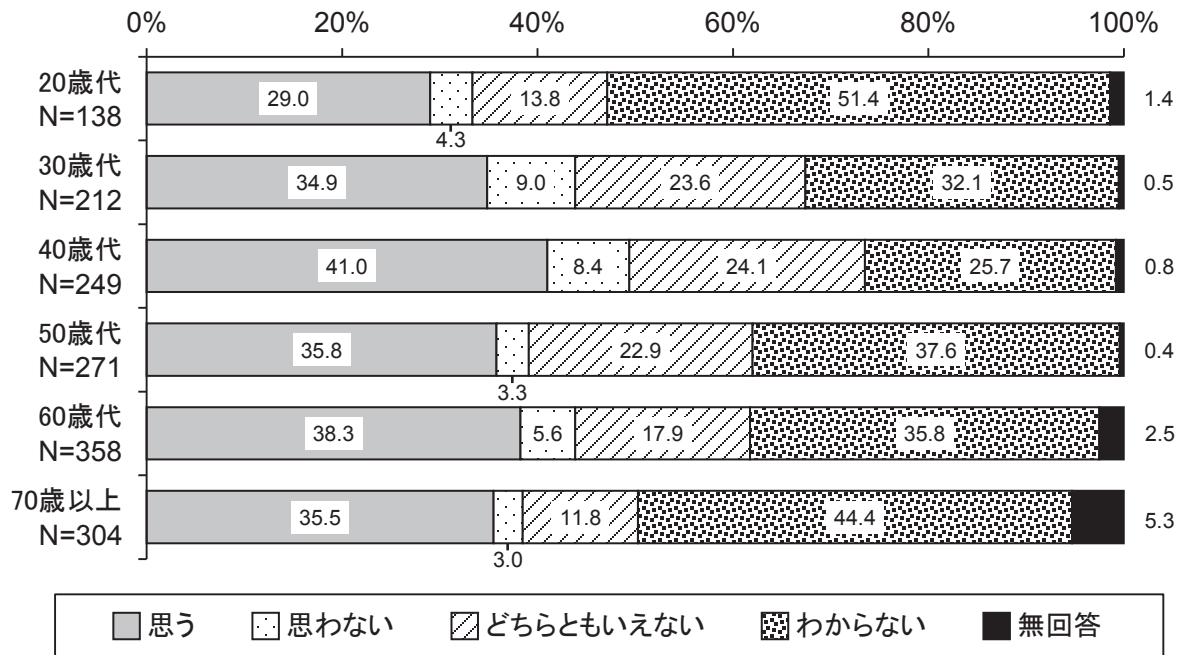
性別でみると、「思う」の回答割合は男性が33.3%、女性が39.0%と、5.7ポイントの差がついた。「思う」の回答割合を平成25年度調査(男性33.2%、女性43.9%)と比較すると、男性はほぼ横ばいだったものの、女性は4.9ポイント低下した。

年代別でみると、子育て世代の30～40歳代では、「思わない」が10%未満と少数意見ではあるが、他の世代と比較して高くなっている。

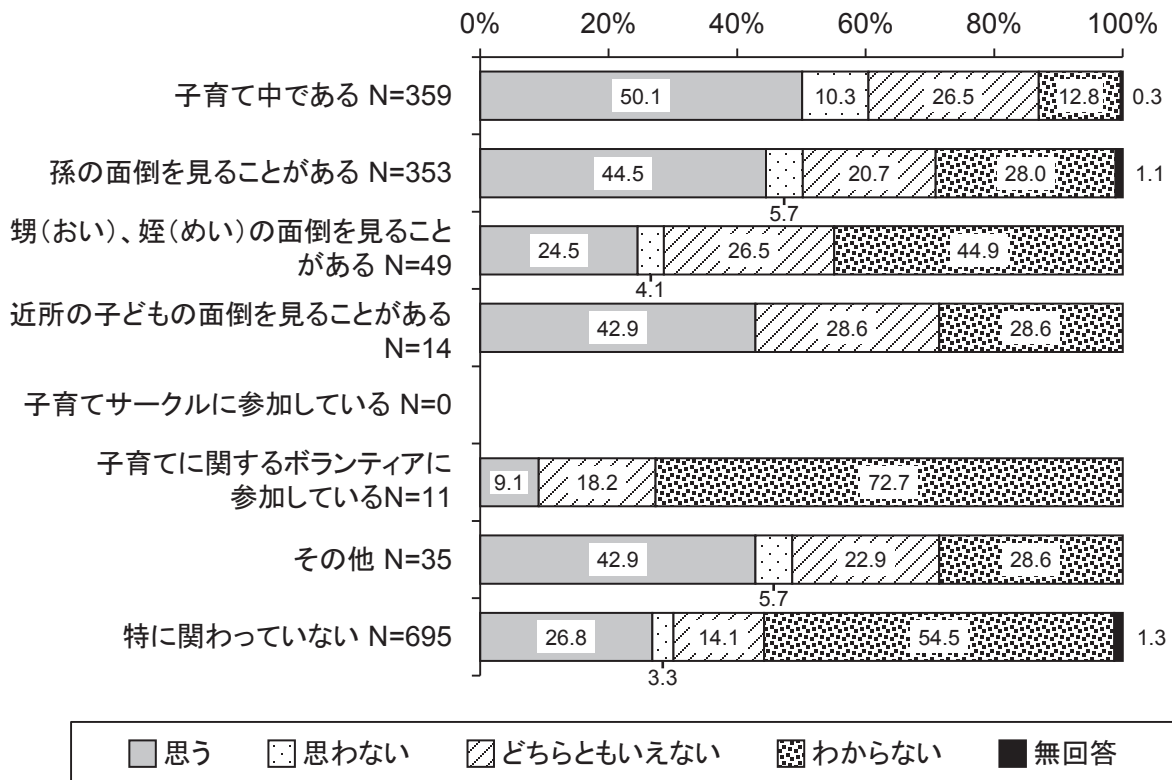
問29で「子育て中である」と回答した層は、「思う」の回答割合が50.1%と他の層と比較して高く、「特に関わっていない」と回答した層と比較すると、23.3ポイント高い。支援の対象となる層に限ってみれば、子育て支援策の満足度は高いといえる。



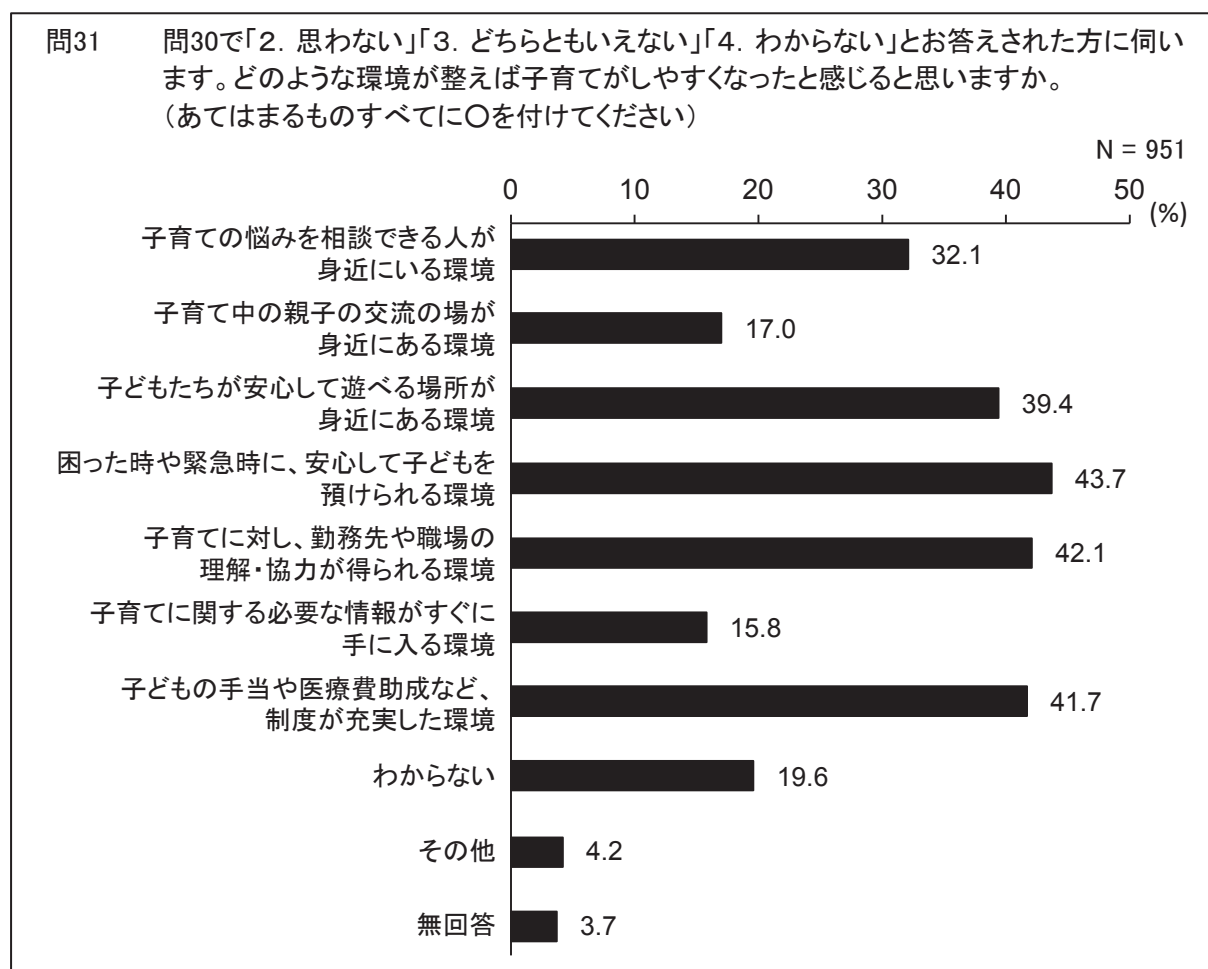
【年代別】



【子育ての関わりかた別】



(5) どのような環境が整えば子育てがしやすくなったと感じるか？

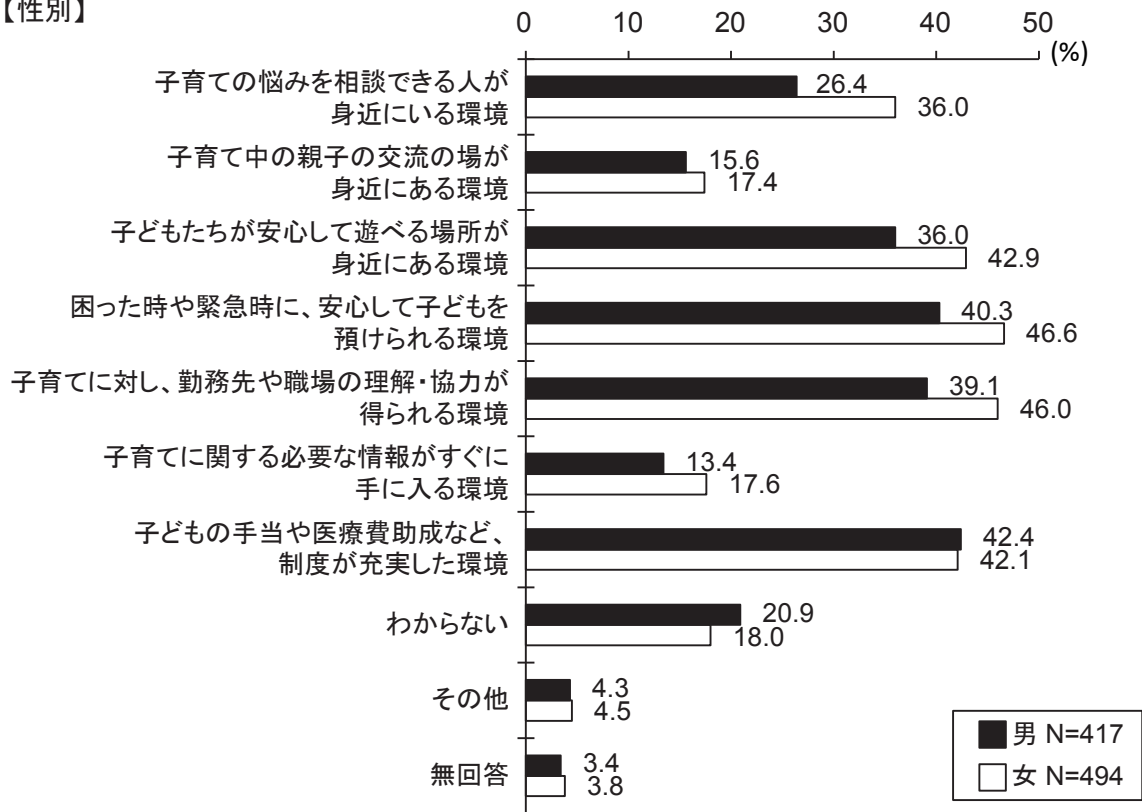


「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」が 43.7%と最も多かった。「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」も回答割合が約 4割あった。バランスの取れた子育て支援施策の充実に努め、仕事と子育ての両立を図れるような社会基盤づくりが必要といえる。

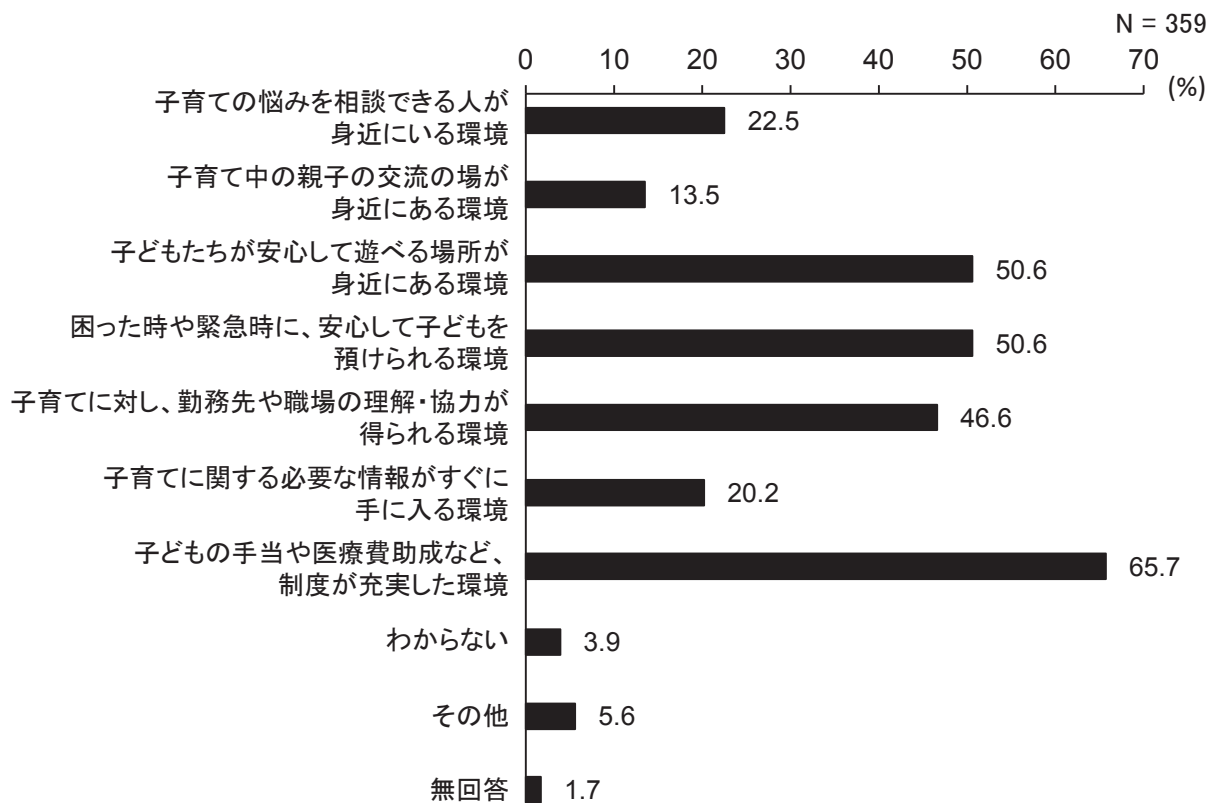
性別でみると、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」「わからない」以外は、女性の回答割合が高くなっている。最も男女差が大きかったのは、「子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境」でポイント差が 9.6 ポイントあった。「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」、「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」、「子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境」もポイント差が 5 ポイント以上あった。

問 29 で「子育て中」と回答した層に限ってみると、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」が 65.7%で最も多く、次いで「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」、「困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境」が 50.6%で多かった。全体の回答結果と比較すると、「子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境」、「子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境」は、「子育て中」と回答した層の方が 10 ポイント以上高かった。

【性別】

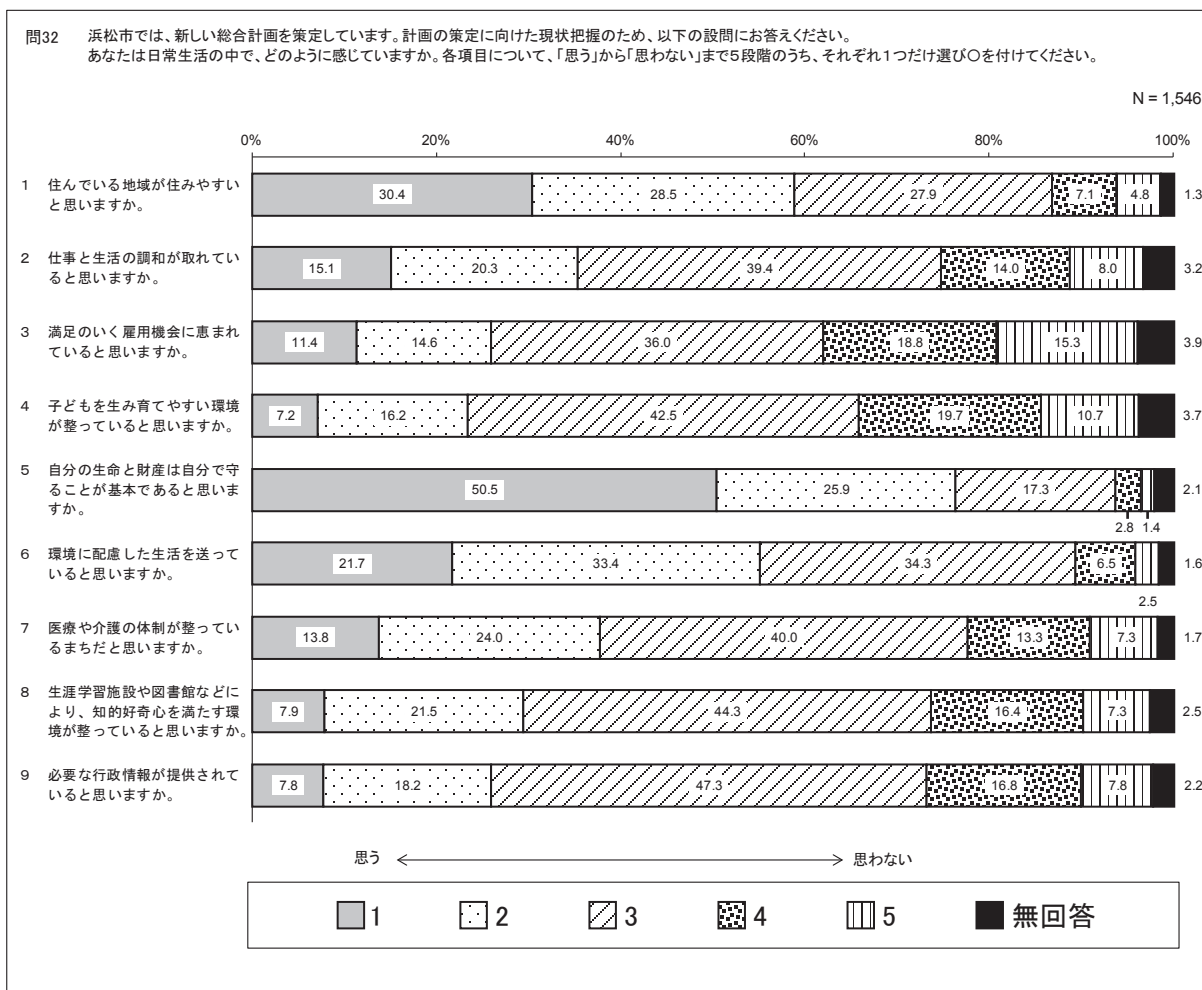


【子育て中の人の回答】



10 新しい総合計画の策定に向けた現状把握について

日常生活の中で、どのように感じていますか？



評価が「1」と「2」を合わせた『思う』が3割以上だったのは、以下の5項目である。

5	自分の生命と財産は自分で守ることが基本である	76.4%
1	住んでいる地域が住みやすい	58.9%
6	環境に配慮した生活を送っている	55.1%
7	医療や介護の体制が整っているまち	37.8%
2	仕事と生活の調和が取れている	35.4%

一方、評価が「4」と「5」を合わせた『思わない』が3割以上だったのは、以下の2項目である。

- | | | |
|---|---------------------|-------|
| 3 | 満足のいく雇用機会に恵まれている | 34.1% |
| 4 | 子どもを生み育てやすい環境が整っている | 30.4% |

また、次表は評価が「1」を10点、「2」を7.5点、「3」を5点、「4」を2.5点、「5」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど思う度合が高くなる指数である。

性別でみると、男女とも「5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本である」の指数が最も高く、次いで男性は「1 住んでいる地域が住みやすい」の順となった。9項目中6項目で女性の方が指数が高かった。

年代別でみると、いずれの年代でも「5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本である」の指数が最も高かった。

【性別】【年代別】

◎=6点以上 △=4点以下

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 住んでいる地域が住みやすいと思いますか	◎ 6.8	◎ 6.7	◎ 6.9	◎ 7.2	◎ 6.7	◎ 7.0	◎ 6.6	◎ 6.9	◎ 6.5
2 仕事と生活の調和が取れていると思いますか	5.4	5.1	5.6	◎ 6.0	5.0	5.2	5.6	5.7	4.9
3 満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか	4.5	4.5	4.5	5.4	4.5	4.4	4.8	4.6	△ 3.8
4 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか	4.6	4.4	4.7	4.9	4.3	4.9	4.6	4.6	4.3
5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか	◎ 7.9	◎ 8.0	◎ 7.9	◎ 7.8	◎ 7.7	◎ 7.9	◎ 8.0	◎ 8.3	◎ 7.9
6 環境に配慮した生活を送っていると思いますか	◎ 6.6	◎ 6.4	◎ 6.7	5.7	◎ 6.1	◎ 6.3	◎ 6.6	◎ 7.0	◎ 7.0
7 医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか	5.5	5.5	5.5	5.2	5.2	5.3	5.4	5.6	◎ 6.1
8 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか	5.0	4.9	5.1	5.0	4.7	4.9	5.1	5.2	5.2
9 必要な行政情報が提供されていると思いますか	4.9	4.7	5.1	4.8	4.5	4.8	4.8	5.0	5.4

【行政区別】

◎=6点以上 △=4点以下

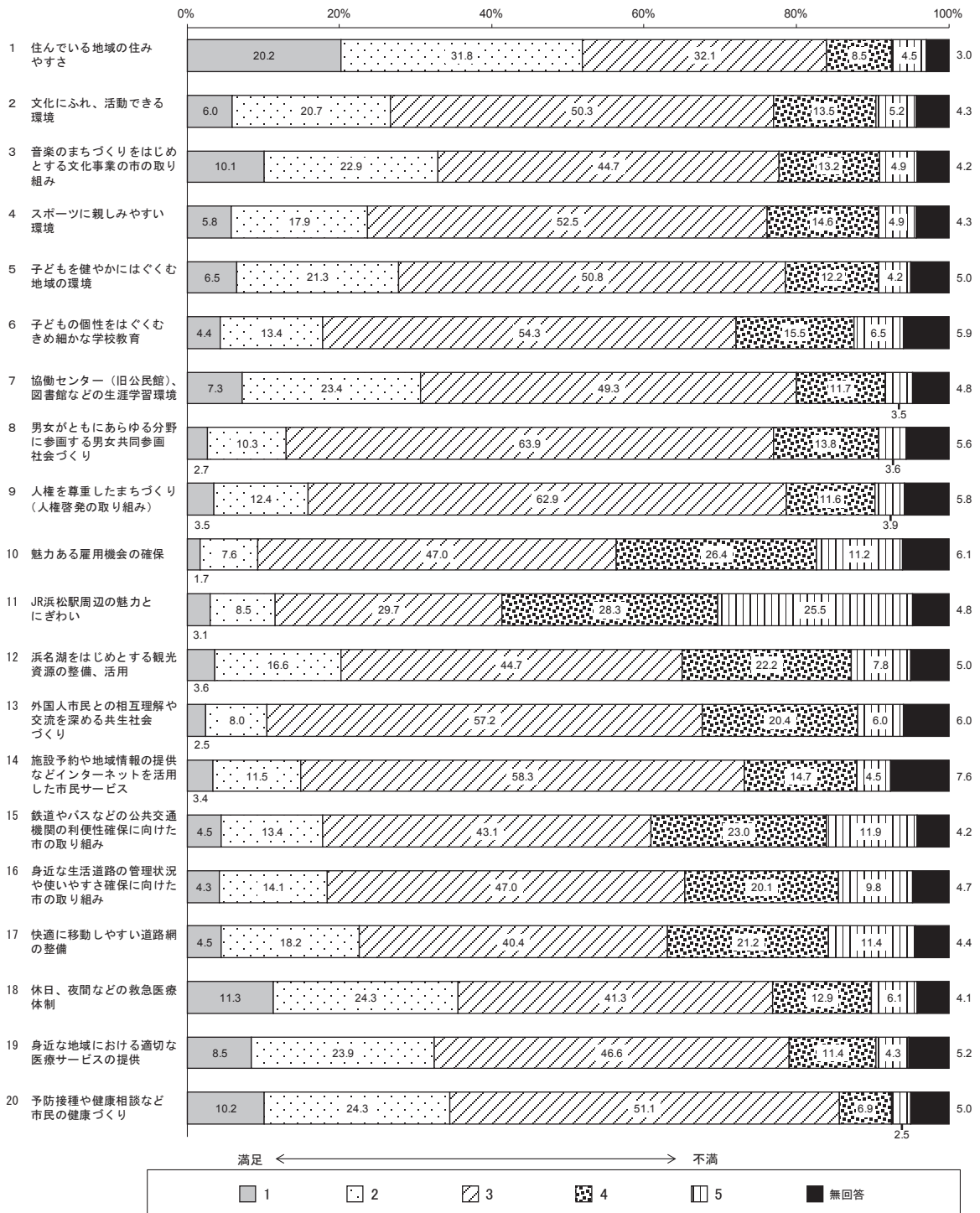
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1 住んでいる地域が住みやすいと思いますか	◎ 7.5	◎ 7.0	◎ 6.6	◎ 6.6	◎ 6.8	◎ 7.1	5.7
2 仕事と生活の調和が取れていると思いますか	5.5	5.6	5.4	5.2	5.5	5.7	4.6
3 満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか	4.8	5.0	4.5	4.2	4.7	4.8	△ 3.3
4 子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか	4.6	4.9	5.0	4.5	4.6	4.8	△ 3.5
5 自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか	◎ 7.9	◎ 8.2	◎ 7.9	◎ 7.8	◎ 8.1	◎ 8.0	◎ 7.8
6 環境に配慮した生活を送っていると思いますか	◎ 6.6	◎ 6.7	◎ 6.5	◎ 6.6	◎ 6.7	◎ 6.6	◎ 6.2
7 医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか	5.8	5.4	5.6	5.6	5.9	5.5	4.7
8 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか	5.1	5.2	5.6	5.1	5.0	5.1	4.1
9 必要な行政情報が提供されていると思いますか	4.9	5.1	5.3	5.0	4.9	4.9	4.3

1 1 市の取り組みの満足度評価について

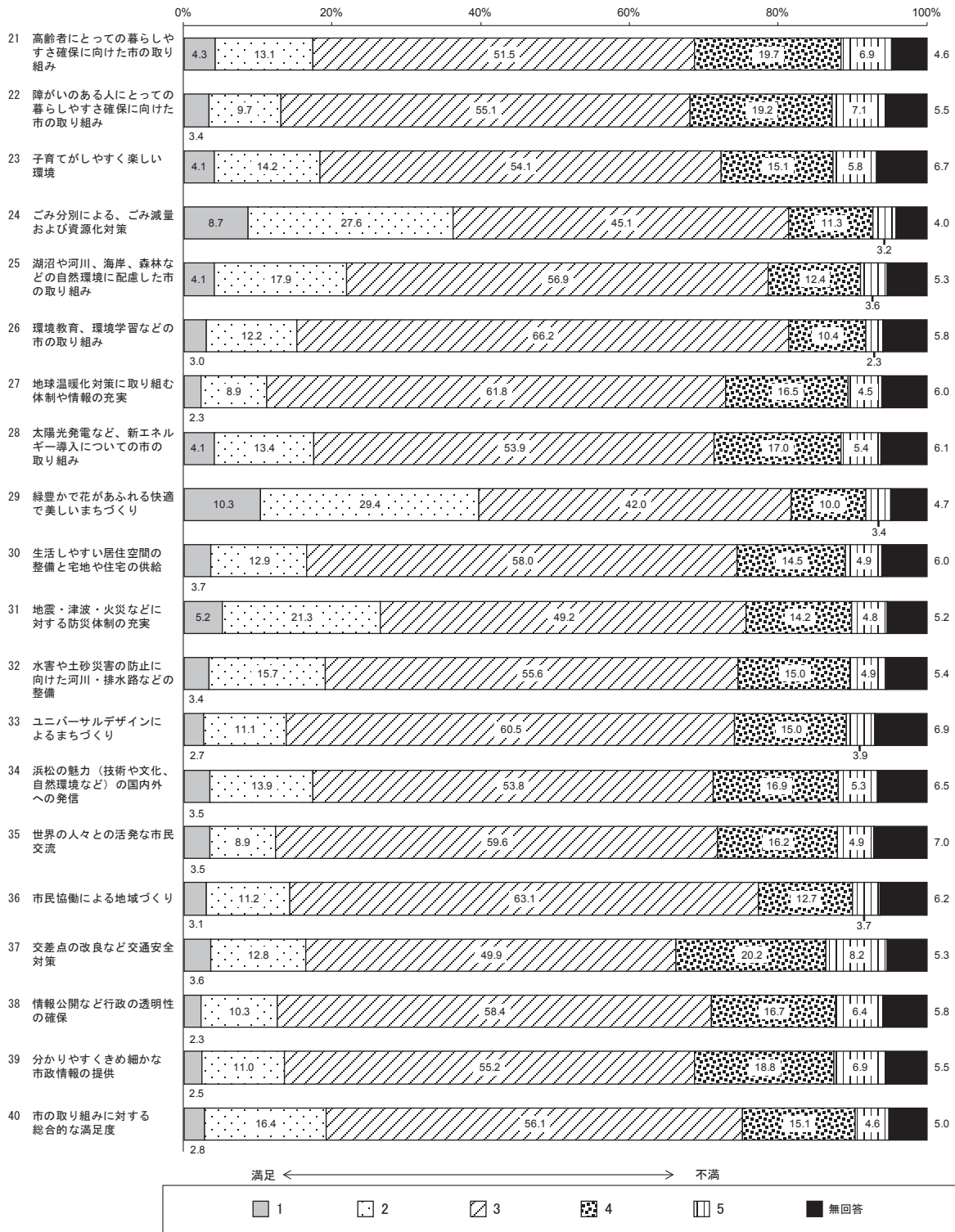
市政の満足度

問33 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

N = 1,546



N = 1,546



評価が「1」と「2」を合わせた『満足している』が3割以上だったのは、以下の8項目である。

1	住んでいる地域の住みやすさ	52.0%
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	39.7%
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	36.3%
18	休日、夜間などの救急医療体制	35.6%
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	34.5%
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	33.0%
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	32.4%
7	協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	30.7%

一方、評価が「4」と「5」を合わせた『不満である』が3割以上だったのは、以下の5項目である。

11	J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい	53.8%
10	魅力ある雇用機会の確保	37.6%
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	34.9%
17	快適に移動しやすい道路網の整備	32.6%
12	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	30.0%

また、次表は評価が「1」を10点、「2」を7.5点、「3」を5点、「4」を2.5点、「5」を0点と点数を付けて集計したものである。この数値は、10点に近いほど満足度が高くなる指数である。

性別で見ると、男女とも「1 住んでいる地域の住みやすさ」の満足度が最も高く、次いで男性は「20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり」、女性は「29 緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり」の順となった。一方、満足度が最も低いのは男女とも「11 J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい」となり、次いで「10 魅力ある雇用機会の確保」の満足度が低かった。40項目中32項目で女性の方が満足度が高かった。

年代別で見ると、いずれの年代でも「1 住んでいる地域の住みやすさ」の満足度が最も高かった（70歳以上は、「18 休日、夜間などの救急医療体制」「20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり」「24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策」も同率）。また、全ての年代で「11 J R浜松駅周辺の魅力とにぎわい」の満足度が最も低かった（70歳以上は、「10 魅力ある雇用機会の確保」も同率）。

【性別】【年代別】

◎=6点以上 △=4点以下

	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1 住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.4	◎ 6.3	◎ 6.5	◎ 7.1	◎ 6.3	◎ 6.6	◎ 6.2	◎ 6.5	◎ 6.2
2 文化にふれ、活動できる環境	5.2	5.2	5.3	5.4	5.1	5.5	5.1	5.0	5.4
3 音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.5	5.4	5.7	5.8	5.1	5.8	5.5	5.5	5.6
4 スポーツに親しみやすい環境	5.1	5.0	5.2	5.3	5.0	5.3	4.9	5.2	5.1
5 子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.4	5.2	5.5	5.5	5.0	5.5	5.3	5.4	5.5
6 子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	4.8	4.7	5.0	4.9	4.4	4.8	4.8	4.8	5.2
7 協働センター(旧公民館)、図書館などの生涯学習環境	5.5	5.4	5.6	5.6	5.2	5.6	5.3	5.6	5.7
8 男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	4.9	4.7	4.9	5.1	4.6	4.9	4.8	4.9	5.0
9 人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	5.0	4.9	5.1	5.3	4.8	5.1	4.9	5.1	5.0
10 魅力ある雇用機会の確保	△ 4.0	△ 4.0	△ 4.0	4.4	△ 3.6	△ 4.0	△ 3.9	△ 4.0	4.1
11 JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 3.3	△ 3.1	△ 3.4	△ 3.2	△ 2.8	△ 3.0	△ 3.1	△ 3.4	4.1
12 浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.6	4.5	4.7	4.7	4.3	4.4	4.6	4.7	4.9
13 外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.5	4.4	4.5	4.1	4.4	4.6	4.4	4.5	4.6
14 施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	4.9	4.7	4.9	4.8	4.7	4.9	5.0	4.7	4.9
15 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.3	△ 3.9	4.3	5.0
16 身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	4.6	4.4	4.7	4.8	4.3	4.7	4.3	4.5	4.9
17 快適に移動しやすい道路網の整備	4.6	4.4	4.7	4.5	4.3	4.7	4.3	4.6	4.8
18 休日、夜間などの救急医療体制	5.6	5.6	5.6	5.1	5.4	5.4	5.3	5.7	◎ 6.2
19 身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.6	5.6	5.5	5.5	5.4	5.6	5.2	5.6	5.9
20 予防接種や健康相談など市民の健康づくり	5.9	5.7	◎ 6.0	5.7	5.9	5.9	5.6	5.9	◎ 6.2
21 高齢者にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.7	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5	4.7	5.0
22 障がいのある人にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.6	4.5	4.6	4.7	4.4	4.5	4.4	4.6	4.7
23 子育てがしやすく楽しい環境	4.9	4.7	5.0	4.9	4.5	5.1	4.8	4.9	5.1
24 ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	5.6	5.8	5.5	5.3	5.5	5.6	5.9	◎ 6.2
25 湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	5.2	5.1	5.3	5.5	5.1	5.3	5.2	5.1	5.2
26 環境教育、環境学習などの市の取り組み	5.1	5.0	5.1	5.2	5.0	5.1	5.0	5.2	5.1
27 地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.7	4.6	4.8	4.8	4.5	4.6	4.6	4.7	4.8
28 太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	4.8	4.7	4.9	5.0	4.7	4.9	4.7	4.9	5.0
29 緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	5.9	5.6	◎ 6.1	◎ 6.2	◎ 6.1	◎ 6.2	5.7	5.6	5.9
30 生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	4.9	4.8	5.0	5.1	4.8	5.1	4.8	4.7	5.0
31 地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	5.2	5.3	5.1	5.3	5.1	5.2	5.1	5.2	5.5
32 水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	4.9	5.0	4.9	5.2	4.9	5.0	4.9	4.8	5.1
33 ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.8	4.7	4.9	4.9	4.6	5.0	4.8	4.8	4.9
34 浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9	5.1
35 世界の人々との活発な市民交流	4.7	4.6	4.8	4.5	4.7	4.7	4.6	4.8	5.0
36 市民協働による地域づくり	4.9	4.8	5.0	4.7	4.6	5.0	4.9	5.1	5.1
37 交差点の改良など交通安全対策	4.6	4.4	4.7	4.7	△ 4.0	4.5	4.4	4.7	5.0
38 情報公開など行政の透明性の確保	4.6	4.5	4.7	4.4	4.2	4.6	4.6	4.8	4.9
39 分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.6	4.5	4.6	4.4	4.1	4.6	4.4	4.7	5.0
40 市の取り組みに対する総合的な満足度	4.9	4.8	5.0	4.9	4.7	5.1	4.9	5.0	5.0

【行政区別】

◎=6点以上 △=4点以下

		中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
1	住んでいる地域の住みやすさ	◎ 6.9	◎ 6.6	◎ 6.4	◎ 6.2	◎ 6.4	◎ 6.8	5.3
2	文化にふれ、活動できる環境	5.5	5.4	5.5	5.2	5.1	5.3	4.4
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	5.7	5.8	5.7	5.8	5.4	5.4	4.5
4	スポーツに親しみやすい環境	5.2	5.3	5.4	5.1	5.1	5.3	4.3
5	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	5.3	5.4	5.7	5.2	5.4	5.5	4.9
6	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	4.5	4.9	5.1	4.6	5.0	4.9	5.0
7	協働センター(旧公民館)、図書館などの生涯学習環境	5.6	5.7	5.9	5.3	5.2	5.6	5.1
8	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	4.7	5.1	5.1	4.9	4.8	5.0	4.4
9	人権を尊重したまちづくり(人権啓発の取り組み)	4.9	5.1	5.3	5.0	5.0	5.1	4.5
10	魅力ある雇用機会の確保	△ 3.9	4.3	4.4	△ 3.8	4.1	4.3	△ 3.1
11	JR浜松駅周辺の魅力とにぎわい	△ 2.8	△ 3.3	△ 3.3	△ 3.0	△ 3.3	△ 3.6	△ 4.0
12	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	4.3	4.8	4.7	4.5	4.6	4.8	4.7
13	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	4.4	4.6	4.5	4.4	4.4	4.6	4.4
14	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	5.0	4.9	4.8	5.0	4.6	4.9	4.6
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	4.6	4.5	4.6	4.5	△ 3.9	4.5	△ 3.5
16	身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	4.7	4.6	5.1	4.7	4.4	4.7	△ 3.5
17	快適に移動しやすい道路網の整備	4.6	4.4	5.0	4.9	4.4	4.8	△ 3.6
18	休日、夜間などの救急医療体制	5.9	5.6	5.8	5.6	5.7	5.5	4.8
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	5.8	5.5	5.8	5.5	5.7	5.8	4.7
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	◎ 6.0	5.9	◎ 6.0	5.7	5.9	◎ 6.0	5.5
21	高齢者にとつての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.7	4.6	5.0	4.9	4.6	4.8	4.1
22	障がいのある人にとつての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	4.5	4.6	4.8	4.7	4.5	4.6	4.1
23	子育てがしやすく楽しい環境	4.7	5.0	5.2	4.8	4.9	5.1	4.4
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	5.7	5.9	5.8	5.6	5.9	5.8	5.3
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	5.3	5.3	5.3	5.2	5.0	5.4	4.5
26	環境教育、環境学習などの市の取り組み	5.0	5.2	5.2	5.0	5.2	5.3	4.6
27	地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	4.6	4.8	4.7	4.6	4.7	4.8	4.4
28	太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	4.7	5.1	4.9	4.7	4.8	5.0	4.5
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	5.8	5.8	◎ 6.1	5.8	◎ 6.0	◎ 6.1	5.4
30	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	4.8	5.0	5.1	4.8	5.0	5.2	4.4
31	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	5.2	5.3	5.2	5.4	5.2	5.3	4.8
32	水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	4.9	5.0	4.9	5.1	4.9	5.2	4.4
33	ユニバーサルデザインによるまちづくり	4.8	5.0	4.9	4.6	4.9	5.0	4.6
34	浜松の魅力(技術や文化、自然環境など)の国内外への発信	4.7	5.1	4.9	4.6	4.8	4.9	4.6
35	世界の人々との活発な市民交流	4.7	4.9	4.7	4.7	4.6	4.9	4.5
36	市民協働による地域づくり	4.9	5.1	5.1	4.9	4.8	4.9	4.6
37	交差点の改良など交通安全対策	4.3	4.8	4.8	4.8	4.3	4.7	4.4
38	情報公開など行政の透明性の確保	4.6	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.2
39	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	4.5	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5	4.3
40	市の取り組みに対する総合的な満足度	4.9	5.1	5.1	5.1	5.0	5.0	4.3

付録 調査票

— あなたの声を市政に生かす —

平成26年度 **市民アンケート調査** (第41回)

日ごろ、市政の推進につきましては、ご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

浜松市では、市民の皆さまのお考えを伺うことで市政の充実を図り、市民の皆さまの暮らしが豊かになるように努めていきたいと考えております。

つきましては、今後のまちづくりの基礎資料とするため、市民アンケート調査を実施させていただきます。この調査を実施するにあたり、市内在住の満20歳以上の皆さまの中から無作為に3,000人の方々を選ばせていただきました。お忙しいところ誠にお手数ですが、調査の趣旨をご理解いただきご回答くださいますようお願いいたします。

なお、調査結果につきましては、広報はままつや浜松市公式Webサイト（ホームページ）などで報告させていただく予定です。

平成26年6月 浜松市長 鈴木 康 友

<ご回答についてのお願い>

1. 封書のあて名の方が、ご回答くださいますようお願いいたします。
2. ご回答は、各設問に該当する番号を選択肢の中から選んで、○で囲んでください。
また、「その他」を選んだ方は、その具体的な内容をご記入ください。
3. この調査結果は、上記目的以外に使用することはありません、内容についてご迷惑をお掛けすることはありません。
4. 6月30日(月)までにこの用紙を同封の封筒に入れて、切手を貼らずにご投函ください。
5. ご不明な点は、広聴広報課 市民コールセンターグループ☎(053)457-2023へお問い合わせください。

～ あなたはご存じですか？ ～

問1 次の項目について、あなたはご存じですか。

1～3（または、4）のうちから1つ選んで○を付けてください。

	名称も内容も知っている	名称だけは知っている	知らない
① 浜松市民憲章 ※未来に向けて市民の皆様が生活する上で目標や規範となり、また、共有することで浜松市民としての一体感を築くことを目的とした憲章。	1	2	3
② 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 (通称：市民マナー条例) ※歩きタバコ・吸い殻や空き缶等のポイ捨て・落書きの禁止や、飼い犬・ねこのふんの適正な処理、身体障害者用駐車場の適正な利用を定めた条例。	1	2	3
③ 浜松市川や湖を守る条例 ※市内にある天竜川や浜名湖など、美しく豊かな川や湖を次世代に継承するために、市民や事業者が守るべきこと、しなければならないことを定めた条例。	1	2	3
④ 浜松市男女共同参画推進条例 ※すべての人が、性別にかかわらず個人として尊重され、自らの意思により個性と能力を十分に発揮することができる社会の実現に向けて、男女共同参画を計画的に推進するために定めた条例。	1	2	3
⑤ 協働センター ※平成25年4月から、公民館が、併設されている市民サービスセンターと統合し「協働センター」となりました。	1 知っている	/	2 知らない

	知っていて、すでに活動に参加している	関心がある、または、今後活動に参加したいと思う	知らない、または、活動に参加したいと思わない
⑥ 地区社会福祉協議会 ※連合自治会規模の圏域で活動する住民主導の組織。地域住民をはじめ、自治会や民生委員、ボランティア等で構成し、身近な地域における福祉活動を推進しています。	1	2	3

	すでに登録している	知っているが登録していない	知らない
⑦ 防災ホットメール ※災害発生時の緊急情報、地震情報、気象情報、火災情報などを携帯電話などに電子メールで配信しています。	1	2	3

	詳しく知っている	知っている	言葉だけは知っている	まったく知らない
⑧ ユニバーサルデザイン ※ユニバーサルデザインとは、年齢、性別、能力、国籍などに関係なく、誰もが安全で安心、快適な暮らしができるように「人づくり」や「環境づくり」を行っていかこうとする考え方です。	1	2	3	4

～ 市民の地震への備えについて ～

問2 あなたは、津波対策として沿岸域で整備が進められている防潮堤整備事業をご存じですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問3 あなたは、津波対策として沿岸域で整備が進められている防潮堤整備事業には大きな減災効果があり、あなた自身や友人・知人の命、職場や学校などを守る事業として全市で取り組むべき事業であると思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-------|---------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. 分からない |
|-------|---------|----------|

問4 あなたのご家庭では、家具が転倒しないように固定していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|---------------------------|
| 1. 大部分の家具を固定している |
| 2. 一部の家具を固定している |
| 3. 固定していない。今後、固定しようと思っている |
| 4. 固定していない。今後も固定しようとは思わない |

問5 問4で「3. 固定していない。今後、固定しようと思っている」「4. 固定していない。今後も固定しようとは思わない」とお答えされた方に伺います。固定していない理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 家具などを置いていない安全な部屋があるから |
| 2. 必要とは思わないから |
| 3. 災害時、実際に役立つかわからないから |
| 4. どうやって固定していいかわからないから |
| 5. 手間がかかるから |
| 6. 費用がかかるから |
| 7. 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから |
| 8. その他(具体的に: _____) |

問6 あなたのご家庭では、災害の発生に備え7日分以上の水や食糧を備蓄していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|---------|---------------|---------------|----------|
| 1. している | 2. しているが5日分程度 | 3. しているが3日分程度 | 4. していない |
|---------|---------------|---------------|----------|

問7 問6で「2. しているが5日分程度」「3. しているが3日分程度」「4. していない」とお答えされた方に伺います。7日分以上の備蓄をしない理由は何ですか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 必要とは思わないから |
| 2. 災害時、実際に役立つかわからないから |
| 3. 備蓄品を置く場所がないから |
| 4. 水や食料の賞味期限が切れ、捨てるのがもったいないから |
| 5. 手間がかかるから |
| 6. 費用がかかるから |
| 7. その他(具体的に: _____) |

～ 家庭ごみの出し方の市民意識や排出状況について ～

問8 平成25年4月1日に家庭ごみの出し方のルールを全市統一しました。ルール統一以前と比べてごみを出しやすくなったと感じますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|------------|-------------|------------------|
| 1. 感じる | 2. やや感じる | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり感じない | 5. まったく感じない | 6. 変わったことを知らなかった |

問9 もえないごみは2週間に1度の割合で収集していますが、どれくらいの頻度でもえないごみを出していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1. 毎回 | 2. 4週間(2回)に1度 |
| 3. 6週間(3回)に1度 | 4. 8週間以上(4回以上)に1度 |
| 5. 出したことがない | |

問10 市では雑がみの資源化を進めていますが、家庭から出る雑がみ(ティッシュの外箱や菓子箱、トイレットペーパーの芯など)はどのように出していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 地域・学校(PTA)の資源物集団回収へ出している |
| 2. 市のリサイクルステーションや資源物回収集積コーナーへ出している |
| 3. 民間の回収所へ持ち込んでいる |
| 4. もえるごみの日に出している |
| 5. その他(具体的に: _____) |

問11 市では剪定枝や草木類の資源化を進めていますが、家庭から出る落ち葉や草花、木の枝は主にどのように出していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 自己処理をしている | 2. 市の拠点施設へ持ち込んでいる |
| 3. 再生利用業者へ持ち込んでいる | 4. もえるごみの日に出している |
| 5. その他(具体的に: _____) | |
| 6. 出したことがない | |

～ 歯と口の健康について ～

問12 現在、あなたはご自身の歯と口の健康状態をどのように感じていますか？

(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|----------|--------------|-------------|----------|
| 1. 健康である | 2. まあまあ健康である | 3. あまり健康でない | 4. 健康でない |
|----------|--------------|-------------|----------|

問13 現在、あなたは食べ物をかんで食べる時、どんな状態ですか？

(1つだけ○を付けてください)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 何でもかんで食べることができる | 2. 一部かめない食べ物がある |
| 3. かめない食べ物が多い | |

問 14 あなたは、歯と口の健康づくりのために取り組んでいることはありますか？

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. 定期的に歯科検診を受けている
2. よくかんで食べている
3. 砂糖など入った飲食物をなるべく避けている
4. フッ素入り歯磨剤を使っている
5. 時間をかけて歯のすみずみまで磨いている
6. 歯と歯の間を磨く器具（糸つきようじや歯間ブラシなど）を使用している
7. たばこを吸わない
8. その他（具体的に： _____)
9. 特になし

～ 日常の交通手段について ～

問 15 あなたが普段よく訪れる施設を利用頻度の高いほうから3つお選びください。

(3つだけ○を付けてください)

1. スーパーマーケット
2. コンビニエンスストア
3. 病院
4. 福祉施設（老人ホーム、保育所等）
5. 公共施設（協働センター、区役所、図書館等）
6. 金融機関（銀行、郵便局等）
7. 公園
8. その他（具体的に： _____)

問 16 問 15 で選んでいただいた施設まで主にどの交通手段で移動しますか？

(3つまで○を付けてください)

1. 徒歩・自転車
2. バス
3. 電車
4. タクシー
5. 自家用車・オートバイ
6. 家族・友人が運転する自家用車・オートバイ
7. その他（具体的に： _____)

問 17 問 16 で「5. 自家用車・オートバイ」とお答えされた方に伺います。もし、将来あなたが年齢を重ねる等の理由により自家用車・オートバイを運転できなくなったら、普段よく訪れる施設への交通手段は何になると考えますか？

(3つまで○を付けてください)

1. 徒歩・自転車
2. バス
3. 電車
4. タクシー
5. 家族・友人が運転する自家用車・オートバイ
6. その他（具体的に： _____)
7. わからない

～ 浜松市のスポーツ推進について ～

問 18 過去 1 年間に、あなたは運動やスポーツをどの程度行いましたか。健康づくりのためのウォーキングやラジオ体操など、軽度の運動を含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週 3～5 回程度 | 3. 週 1・2 回程度 |
| 4. 月 1・2 回程度 | 5. 年に数回程度 | 6. ほとんど運動をしない |

問 19 過去 1 年間に、あなたは実際に会場に出向いてスポーツ観戦・応援をどの程度行いましたか。プロスポーツだけでなく、地域のスポーツ活動や少年団などの観戦・応援も含みます。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-----------|----------------------|-------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 月に数回程度 | 3. 月に 1 回程度 |
| 4. 年に数回程度 | 5. ほとんどスポーツ観戦・応援をしない | |

～ 新エネルギーの導入について ～

問 20 新しい電力確保の仕組みとして、あなたは太陽光発電などの新エネルギーの導入が必要だと思いますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-------|---------|----------|
| 1. 必要 | 2. 必要ない | 3. わからない |
|-------|---------|----------|

問 21 あなたのご自宅に、太陽光発電、太陽熱利用、燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム）、ガスエンジン式コージェネレーションシステム（エコウィル）、蓄電池、ホーム・エネルギー・マネジメント・システム（HEMS）などの新エネルギー等を導入していますか。

(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. 導入している | 2. 導入する予定 | 3. 導入していない |
|-----------|-----------|------------|

問 22 問 21 で「1. 導入している」「2. 導入する予定」とお答えされた方に伺います。どのような新エネルギーを導入している、または導入する予定ですか。

(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|--|
| 1. 太陽光発電システム |
| 2. 太陽熱利用システム |
| 3. 燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム）
※都市ガスや LP ガスから取り出した水素を酸素と反応させて電気と熱を作るシステム |
| 4. ガスエンジン式コージェネレーションシステム（エコウィル）
※都市ガスや LP ガスを燃料として、電気と熱を作るシステム |
| 5. 蓄電池 |
| 6. ホーム・エネルギー・マネジメント・システム（HEMS）
※家庭内のエネルギーの使用状況を「見える化」するとともに、最適に制御するシステム |
| 7. その他（具体的に： _____） |

問 23 問 21 で「3. 導入していない」とお答えされた方に伺います。導入していない理由は何ですか。
(1つだけ○を付けてください)

1. 費用が高いから
2. 住宅の構造上、導入することが困難だから
3. 賃貸アパート・マンション、借家なので自分だけでは判断できないから
4. よくわからないから
5. その他（具体的に： _____)

～ 地域情報化について ～

問 24 あなたはご家庭で、次のような情報通信機器を利用していますか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1. デスクトップパソコン、ノートパソコン | 2. タブレット端末 |
| 3. スマートフォン | 4. 携帯電話、PHS |
| 5. インターネットに接続できるゲーム機 | |
| 6. その他（具体的に： _____) | |
| 7. 持っていない | |

問 25 あなたが、過去 1 か月間にインターネットを利用した際の、利用目的は何ですか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. メールの送受信
2. ニュースサイトやブログなどの閲覧
3. ショッピング
4. 電子政府・電子自治体の利用
5. SNS (FaceBook や Twitter など) の利用
6. インターネットバンキング
7. オンラインゲーム
8. その他（具体的に： _____)
9. インターネットを利用していない

問 26 地域情報センター（中区中央 1 丁目）は、情報通信機器を備えたホールの貸し出しや地域情報化に関する講座等の開催などを行う地域情報化の推進拠点です。
今後、地域情報センターで開催してほしい地域情報化に関する講座や講演会はありますか？
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

1. スマートフォン等でメールやインターネットを安全に使用するための講座
2. 情報を使いこなす能力（情報リテラシー）に関する講演会
3. 最新の情報技術に関する講演会
4. 国や地方自治体等による地域情報化の取り組みに関する説明会
5. その他（具体的に： _____)
6. 特にない

～ 子育て支援について ～

問 27 あなたは、社会全体で子どもを健全に育成し支えていくための基本理念や、保護者、市民、学校等子どもを支えるそれぞれの立場の役割などを定めた「浜松市こども育成条例」をご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|----------------|---------------|---------|

問 28 あなたは、浜松市に暮らすすべての市民を対象とした、次世代を担う子どもの成長や子育てを支援する環境づくりを目指す「浜松市次世代育成支援行動計画」をご存じですか。
(1つだけ○を付けてください)

- | | | |
|----------------|---------------|---------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称だけは知っている | 3. 知らない |
|----------------|---------------|---------|

問 29 あなたは、現在、「子育て」に対して、どのような関わり方をしていますか。
(1つだけ○を付けてください)

- | |
|---------------------------|
| 1. 子育て中である |
| 2. 孫の面倒を見ることがある |
| 3. 甥（おい）、姪（めい）の面倒を見ることがある |
| 4. 近所の子どもの面倒を見ることがある |
| 5. 子育てサークルに参加している |
| 6. 子育てに関するボランティアに参加している |
| 7. その他（具体的に： _____） |
| 8. 特に関わっていない |

問 30 市では、保育所整備、子育て支援ひろば、子どもの医療費助成など子育てに関する支援を行っています。あなたは、このような支援によって、子育てがしやすくなっていると思いますか。
(1つだけ○を付けてください)

- | | | | |
|-------|---------|--------------|----------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. どちらともいえない | 4. わからない |
|-------|---------|--------------|----------|

問 31 問 30 で「2. 思わない」「3. どちらともいえない」「4. わからない」とお答えされた方に伺います。どのような環境を整えば子育てがしやすくなったと感じると思いますか。
(あてはまるものすべてに○を付けてください)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 子育ての悩みを相談できる人が身近にいる環境 |
| 2. 子育て中の親子の交流の場が身近にある環境 |
| 3. 子どもたちが安心して遊べる場所が身近にある環境 |
| 4. 困った時や緊急時に、安心して子どもを預けられる環境 |
| 5. 子育てに対し、勤務先や職場の理解・協力が得られる環境 |
| 6. 子育てに関する必要な情報がすぐに手に入る環境 |
| 7. 子どもの手当や医療費助成など、制度が充実した環境 |
| 8. わからない |
| 9. その他（具体的に： _____） |

～ 新しい総合計画の策定に向けた現状把握について ～

問32 浜松市では、新しい総合計画を策定しています。計画の策定に向けた現状把握のため、以下の設問にお答えください。

あなたは日常生活の中で、どのように感じていますか。各項目について「思う」から「思わない」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		選 択 肢				
		思 う				思 わ な い
1	住んでいる地域が住みやすいと思いますか。	1	2	3	4	5
2	仕事と生活の調和*が取れていると思いますか。 ※仕事と家事・育児・介護などと両立すること	1	2	3	4	5
3	満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか。	1	2	3	4	5
4	子どもを生み育てやすい環境が整っていると思いますか。	1	2	3	4	5
5	自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか。	1	2	3	4	5
6	環境に配慮*した生活を送っていると思いますか。 ※ごみの減量、リサイクルの推進、消費する電力の削減など	1	2	3	4	5
7	医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか。	1	2	3	4	5
8	生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか。	1	2	3	4	5
9	必要な行政情報*が提供されていると思いますか。 ※各種申請手続き、イベント、事業、予算の情報など	1	2	3	4	5

～ 市の取り組みの満足度評価について ～

問 33 あなたは、浜松市がこれまで進めてきた取り組みについて日ごろどのように感じていますか。
各項目について「満足」から「不満」まで5段階のうち、それぞれ1つだけ選び○を付けてください。

項 目		評 価				
		満				不
		←————→				
		足				満
1	住んでいる地域の住みやすさ	1	2	3	4	5
2	文化にふれ、活動できる環境	1	2	3	4	5
3	音楽のまちづくりをはじめとする文化事業の市の取り組み	1	2	3	4	5
4	スポーツに親しみやすい環境	1	2	3	4	5
5	子どもを健やかにはぐくむ地域の環境	1	2	3	4	5
6	子どもの個性をはぐくむきめ細かな学校教育	1	2	3	4	5
7	協働センター（旧公民館）、図書館などの生涯学習環境	1	2	3	4	5
8	男女がともにあらゆる分野に参画する男女共同参画社会づくり	1	2	3	4	5
9	人権を尊重したまちづくり（人権啓発の取り組み）	1	2	3	4	5
10	魅力ある雇用機会の確保	1	2	3	4	5
11	J R 浜松駅周辺の魅力とにぎわい	1	2	3	4	5
12	浜名湖をはじめとする観光資源の整備、活用	1	2	3	4	5
13	外国人市民との相互理解や交流を深める共生社会づくり	1	2	3	4	5
14	施設予約や地域情報の提供などインターネットを活用した市民サービス	1	2	3	4	5
15	鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
16	身近な生活道路の管理状況や使いやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
17	快適に移動しやすい道路網の整備	1	2	3	4	5
18	休日、夜間などの救急医療体制	1	2	3	4	5
19	身近な地域における適切な医療サービスの提供	1	2	3	4	5
20	予防接種や健康相談など市民の健康づくり	1	2	3	4	5
21	高齢者にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5
22	障がいのある人にとっての暮らしやすさ確保に向けた市の取り組み	1	2	3	4	5

項 目		評 価				
		満 足	←————→			不 満
23	子育てがしやすく楽しい環境	1	2	3	4	5
24	ごみ分別による、ごみ減量および資源化対策	1	2	3	4	5
25	湖沼や河川、海岸、森林などの自然環境に配慮した市の取り組み	1	2	3	4	5
26	環境教育、環境学習などの市の取り組み	1	2	3	4	5
27	地球温暖化対策に取り組む体制や情報の充実	1	2	3	4	5
28	太陽光発電など、新エネルギー導入についての市の取り組み	1	2	3	4	5
29	緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくり	1	2	3	4	5
30	生活しやすい居住空間の整備と宅地や住宅の供給	1	2	3	4	5
31	地震・津波・火災などに対する防災体制の充実	1	2	3	4	5
32	水害や土砂災害の防止に向けた河川・排水路などの整備	1	2	3	4	5
33	ユニバーサルデザインによるまちづくり	1	2	3	4	5
34	浜松の魅力（技術や文化、自然環境など）の国内外への発信	1	2	3	4	5
35	世界の人々との活発な市民交流	1	2	3	4	5
36	市民協働による地域づくり	1	2	3	4	5
37	交差点の改良など交通安全対策	1	2	3	4	5
38	情報公開など行政の透明性の確保	1	2	3	4	5
39	分かりやすくきめ細かな市政情報の提供	1	2	3	4	5
40	市の取り組みに対する総合的な満足度	1	2	3	4	5

最後にあなたのことについて記入してください

(項目別に1つだけ○を付けてください)

性別	1. 男	2. 女	
年齢	1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代
	4. 50歳代	5. 60歳代	6. 70歳以上
国籍	1. 日本	2. ブラジル	3. 中国
	4. フィリピン	5. その他 ()	
職業	1. 勤め人	2. 商工・サービス・自由業 (自営・家族従事者)	
	3. 農林水産業 (自営・家族従事者)	4. 専業主婦 (主夫)	
	5. 学生	6. 無職	7. その他 ()
居住年数	あなたは浜松市 (合併前の旧市町村当時からも含みます) に住んで何年になりますか		
	1. 3年未満	2. 3年以上5年未満	3. 5年以上10年未満
	4. 10年以上20年未満	5. 20年以上	
家族数	あなたを含めて何人で住んでいますか		
	1. 1人	2. 2人	3. 3人
	4. 4人	5. 5人	6. 6人以上
居住形態	あなたのお住まいは		
	1. 持ち家	2. 借家	3. 賃貸アパート・マンション
	4. 公営住宅	5. 社宅・寮	6. その他
地区	あなたがお住まいの地区は		
	1. 中区	2. 東区	
	3. 西区 (旧浜松市)	4. 西区舞阪町	
	5. 西区雄踏町	6. 南区	
	7. 北区 (旧浜松市)	8. 北区細江町	
	9. 北区引佐町	10. 北区三ヶ日町	
	11. 浜北区	12. 天竜区 (旧天竜市)	
	13. 天竜区春野町	14. 天竜区佐久間町	
	15. 天竜区水窪町	16. 天竜区龍山町	
	地区が分からない場合は、町名をご記入ください → ()		

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、6月30日 (月) までにご投函ください。



平成26年度 市民アンケート調査報告書

平成26年10月発行

浜松市企画調整部広聴広報課

〒430-8652 浜松市中区元城町103番地の2

電話 (053) 457-2023 FAX (053) 457-2028

e-mail koe-g@city.hamamatsu.shizuoka.jp

URL <http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>
